

要スルニ肉汁培養基ニゲラチンヲ加ヘタルノミナリ加温スル片長時ニ失  
スル片ハゲラチンノ凝固性ヲ失フ次テ短時間ノ加温ヲ用ユルナリ此培養  
基ハ二十二度―二十五度ニテ溶解スルヲ以テ孵卵器内又夏期ニハ之ヲ使  
用スルヲ得ズ

○寒天培養基

肉水ニ一―二%ノ割合ニ寒天ニ細碎シテ加ヘ二―四時間放置ス次デ加温  
一―二時間溶解ス其他肉汁培養基製法ニ同様ナリ

○葡萄糖寒天培養基

寒天培養基ヲ作り試験管ニ分配スル前ニ〇・三―一・〇%ノ割合ニ葡萄糖  
ヲ加フ其法葡萄糖肉汁培養基ト同様ナリ

○グリセリン寒天培養基

純グリセリンヲ三―七%ノ比ニ加フ其法グリセリン肉汁培養基ニ同ジ

○血清寒天培養基

既成ノ寒天培養基ヲ加温溶解シ之ニ既成血清培養基ヲ僅ニ加温シ以ノ割  
合ニ加ヘ之ヲ斜而ニ凝固セルモノナリ

○血液寒天培養基

人又ハ動物ノ血液ヲトリ斜面寒天ニ塗布スルナリ檢者自己ノ手指ヨリ無  
菌的ニ穿刺シテ血液ヲトリ白金耳ニテ塗沫スルヲ宜シトス

○遠藤氏フクシン天寒培養基

此ノ培養基ハ乳糖ヲ加ヘタル寒天ニフクシンヲ加ヘ更ニ亞硫酸ナトリユ  
ムヲ加ヘテフクシンヲ還元セシメ其ノ紅色ヲ脱色セシメタル者ニシテ乳  
糖ヲ分解シ酸ヲ生ズル菌ハ其ノ酸ノ作用ニヨリフクシンヲ酸化シ集落ハ  
紅色ヲ呈スルモ然ラザルモノハ變化ヲ呈セズ故ニ通常大腸菌トチフス菌  
ノ鑑別ニ賞用セラル其製法左ノ如シ  
三%寒天培養基ヲ作り之ヲ溶解シ一〇〇・〇立仙迷ニ對シ乳糖一・〇フク  
シン飽和アルコール液〇・五立仙迷一〇%亞硫酸ナトリウム水二・五立仙  
迷一〇%炭酸ナトリウム水一立仙迷ヲ混和シ更ニ十分間殺菌シテ製ス  
ベシ  
寒天培養基ニモ又高層ト斜面トアリ

○馬蹄薯培養基

馬齡薯ヲ水洗シ之ヲ表層ヲ去リ試験管ニ入ル位ノ大サニ長方形ニ切り更ニ對角線ニ沿ヒテ二分シ之ヲ試験管ニ入ル、片ハ斜面トナル其試験管内ニハ豫メ少量ノ水ヲ入レ且馬齡薯ノ小片ヲ入レ斜面馬齡薯ヲシテ水中ニ入ラサル様ニス斯クシテ一時間位宛四日位殺菌ス

○純粹培養法

混合セル細菌ヲ有スル可檢物ヨリ純粹培養センニハ先之ヲ分離培養シ個々ノ集落ヲ作ラシメ其ヨリ分離スルナリ

△平板分離培養法(一)寒天培養基ヲトリ(通常二本)之ヲ加熱溶解ス其際上方ヨリ加温スベシ試験管底ヨリ加熱スル片ハ底部ニ生スル泡沫ノ爲ニ培養基ノ逆出ヲ來スカ又ハ試験管ヲ破裂セシムベシ次テ一定度(四十度前後)ニ冷却ス

二、培養物ヲ白金耳ニテ混入ス此際試験管口ニヨリ火炎上ニテ殺菌スベシ試験管ハ水平ニ近キ位置ニ保持スベシ此第一試験管ヲ氣泡ヲ生セサル様ニ振盪ス

三、更ニ第二試験管ヲトリ第一試験管ヨリ白金耳ニテ二三回移植ス之ヲ振盪ス

四、第三試験管モ第二試験管ヨリ前同様移植ス

斯クスル片ハ漸次ニ稀釋セラレ第一試験管ニハ最多ク細菌ヲ有シ第三試験管ニハ最少シ

五、次テ之ヲ殺菌セル三個ノペトリー氏シャーレーニ移シ凝固セシメ「シャーレー」ヲ反轉シ被蓋皿ヲ下ニシテ孵卵器ニ入ルベシ一日乃至二日ニシテ第一第二第三試験管ハ漸次ニ少キ集落ヲ作ル

○斜面分離培養法 二本ノ斜面培養基ヲトリ

一、第一試験管ヲ左拇指ト示指トノ間ニ持チ綿栓ヲ拔去シ之ヲ左示指ト中指ノ間ニハサミ次テ白金耳ニテ培養物ヲトリ之ヲ斜面ニ點付シ耳輪面ヲ平ニ斜面ニ觸接シ輕ク波狀ニ動カシテ斜面ノ全面ニ塗布ス斯クスル一二三回ナルベシ白金耳ハ消毒ス試験管ハ綿栓ス

二、第一試験管ヨリ第二試験管ニ移植ス 第二試験管ヲ左示指ト中指ノ間ニトリ綿栓ヲ去リ中指ト環指間ニ保持ス次テ第一試験管ノ綿栓ヲ右小指ニテ拔去保持ス白金耳ニテ第一ヨリ第二試験管ニ前ト同様三回位塗布シ綿栓ス第一試験管ハ之ヲ置ク

三、第二試験管ニ移植スル一ヨリ第二試験管ニ移植スルニ同ジ斯ク

シテ孵卵器ニ入ル

何レノ場合ニモ試験管ニ附號番號ヲ記スベシ

純粹培養ヲナスニハ上記分離セル通常第三試験管ヨリ集落ヲ白金線ニテトリ之ヲ他ノ培養基ニ培養ス其法ニ種々アリ

一、畫線培養法 ハ白金耳ニテ斜面ノ中央ニ線狀ニ培養スル方法ナリ此際試験管ハ殆水平ニ保ツベシ

二、穿刺培養法 ハ高層培養基ヲ左手ニトリ管口ヲ下方ニ向ケ綿栓ヲ去リ集落白金針ニテ培養基ノ中央ニ深ク刺入シ之ヲ抽出ス

三、混和培養法 ハ液體培養基ニ白金線ニテ集落ヲトリ混和シテ發育セシムル方法ナリ

○嫌氣性細菌分離法

普通細菌ハ空中ニテヨク發育スルモ嫌氣性細菌ハ之ヲ他ノ瓦斯中カ又ハ空氣ニフレサル様ニシテ培養ス此ノ目的ニ多ク水素瓦斯ヲ用ユルモ複雑ニシテ實地醫家ニ適セス簡單ハ次ノ方法ヲ可トス

通常ノ方法ヲ以テ三本ノ培養基ニ溶解シ之ニ稀釋培養シ之ヲ其蓋高層トシテ凝固セシメ孵卵器ニ收ム

之ヨリ純粹培養ヲナスニハ培養基ヲ殺菌的ニ試験管外ニ出シ之ヲ破リ集落ヲトリ穿刺培養カ又ハ混和培養スルナリ

以上述べタル培養法ヲ行フ際ニハ試験管口ハ綿ヲ去ルルニハ必火炎上ニ殺菌シ再綿栓セル片ニモ亦殺菌スベシ

總テ細菌操作中ハ白金線ハ使用ノ前必火炎上ニ消毒シ使用後ハ又之ヲ消毒ス然ラサルモノハ之ヲ置カサルヲ宜シトス又煮沸消毒ノ出來ルモノハ盡ク之ヲ行ヒ或ハ千倍昇汞水又ニ%リゾール水中ニテ消毒スベシ

○凝集反應

微生物ノ自然感染或ハ人工接種ヲ受ケタル動物ノ血清ハ同種ノ微生物ニ多數ニ其液中ニ分離浮遊セルモノヲ凝集セシメテ顆粒狀又ハ綿絮様ノ塊ヲ呈ス此ノ現象ヲ凝集反應ト稱ス是レ其ノ血清中ニ微生物ヲ凝集セシムル一種ノ物質ヲ新生スルモノニシテ此物質ヲ凝集素ト云フ

凝集反應ハ一千八百九十六年グルーベル及デニールハム (Gruber u. Dittmann) 兩氏ノ發見シタル所ニシテチフス恢復患者ノ血清及ビ人工的チフス免疫動物血清ハ特ニチフス菌ニ對シ虎列刺免疫血清ハ虎列刺菌ニ對シ凝集反應ヲ呈スルヲ實驗セリウイダール (Widal) ハ前兩氏ニ關係ナクチフ

ス患者ノ血清ハチフス菌ニ對シ凝集反應ヲ呈スルヲ發見セリ故ニ此チフス菌ノ凝集反應ヲウイダール氏反應ト云フ

検査法左ノ如シ

先二十四時間細菌ヲ培養ス即斜面全面ニ塗擦培養約十五白金耳アリ之ヲ白金耳ニテ充分爬キ崩シ之ニ七・五瓦ノ生理的食鹽水ヲ加ヘル然ル片此液〇・五中ニ約一白金耳ノ細菌アリ此菌液ヲ永久(半一年)ニ保存スルニハ「ホルマリン」食鹽水(ホルマリン一〇食鹽〇・八留水一〇〇〇)ノ一・五ヲ以テ斜面ノ菌ヲ混和ス之ニヨリ菌ハ死シ液ハ腐敗セス斯クシテ製セルモノハ即診斷液ナリ此ノ液ハ使用ニ臨ミ食鹽水ヲ以テ五倍ニ稀釋スル片ハ丁度斜面ヨリ直ニ製セル菌液ト同様ノモノトナル次テ患者ノ血清ヲトル五拾倍以下ノ稀釋ナル片ハ健康ナル血清モ又反應ヲ來ス故ニ注意ヲ要ス實際血清ヲ稀釋スルニハ次ノ如クニスルヲ便トス

先試驗管四本ヲトリ第一ノモノニハ食鹽水〇・二血清〇・〇八ヲ入ル第二乃至第四試驗管ニハ食鹽水〇・五宛ヲトル次テ第一試驗ヨリ〇・五ノ液ヲトリ第二試驗管ニ混ジ更ニ第二ヨリ〇・五ヲトリ第三ニ混シ同様第三ヨリ第四ニ混シ第四ヨリ〇・五ヲトリ之ヲ他ノ溶器ニ入ル然ル片ハ第一ハ

一二・五倍第二ハ二五倍第三ハ五〇倍第四ハ一〇〇倍トナル斯クセル後前ニ作レル菌液(診斷液ナラバ五倍ニウスメタルモノ)ヲトリ各試験管ニ〇・五宛ニ入ル然ル片ハ各管ノ血清ハ倍數ニ稀釋セラレ同時ニ一白金耳宛ノ菌ヲ混スベシ即第一、二五倍第二、一〇〇倍第三、一〇〇〇倍第四、二〇〇倍トナルベシ

對照トシテ第五試験管ヲトリ之ニ〇・五ノ食鹽水ト菌液〇・五トヲ入ル以上五本ノ試験管ハ之ヲ三十七度ノ重湯煎或ハ孵卵器中ニ二時間置キ然ル後之ヲ取出シ液ヲ斜面ニシテ下方ヨリ斜ニ透檢スベシ此際百倍以上ニ起レバ(無論一二十五倍五十倍ニハ反應アリ)陽性ナリ百倍ニ反應ナク五十倍ニ起レルハ不明ナリ又二時間以上ヲ經テ始メテ反應ノ起レルハ不明ナリ對照ニハ常ニ起ラズ若起リタル片ハ試驗無効ナリ

此試驗中ハ總テ量、時間、稀釋度等ハ注意シテ誤ラザル様ニスベシ

○ワッセルマン氏血清診斷法

動物體ヲ或物體細菌血清、血球ヲ以テ免疫スル片ハ其血清中ニハ此等ノ物質(細菌、血清、血球)ト結合シテ之ヲ溶崩セシムル物質ヲ生ズ之レヲ抗體或ハ免疫體 Antikörper Immunkörper ト云フ此免疫ニ用ヒタル物體ヲ免

疫元 Antigen ト云フ此疫元ト抗体トノ結合ニハ補體 Complement ナルモノノ存在ヲ要ス之レナキハ決シテ反應ヲ來サザル者ニシテ健康動物血清及免疫血清中ニモ存在ス抗体ト疫元トノ結合反應ハ固有ナルモノニシテ同種(例バ赤痢菌ト赤痢血清)ナルハ反應ヲ起シ異種ノモノ(例バ赤痢菌トチフス血清)ナルハ之ヲ起サズ又ワ氏反應ニ必要ナルハ血清ヲ以テ免疫シタル動物血清ナリ此モノハ補體ニヨリ互ニ結合ス(溶血球系)可檢血清ト血球免疫血清中ノ補體ハ一定セズ故ニ試驗ノ障害ヲ來スヲ以テ之レヲ五十六度ニ三十分間重湯煎中ニ熱スルハ抵抗力弱キ補體ハ崩解シテ其ノ作用ヲ失ヒ血清中ニハ單ニ抗体ノミヲ有スルニ至ル故ニ今抗体ト疫元トヲ混ジ之ニ健康動物血清(補體)ノ一定量ヲ加フルハ同種ノモノナルハ補體ヲ吸收シテ結合スルモ異種ノモノナルハ補體ハ吸收セラレズシテ存ス故ニ之ニ血球ト血球免疫血清トヲ加フルハ補體ハ之ガ爲ニ吸收セラレ血球ハ崩解シテ血色素ヲ遊離スルニ至ルベシワッセルマン反應ハ右ノ理ニシテ次ノ如シ

一、免疫元 微毒胎兒ノ肝臟水浸出液或ハ「モルモット」牛又ハ人ノ心臓アルコホル浸出液

心臟越幾斯ハ心臟ヲ細碎シ十倍ノ割合ニ無水アルコホル中ニ浸出シ其ノ上澄液ヲ四倍量ニ〇・八%食鹽水ニ稀薄シ用ユ

二、患者ノ血清 手腕ノ靜脈ヲ穿刺シテ採取スルカ又背部ヲ亂切シ吸角ヲ使用シテトリ之ヲ斜面ニ放置シ或ハ遠心器ヲ用ヒテ血清ヲトリ次テ三十分間五十六度ニ加温ス(補體ヲ去ル)

三、補體  
モルモットノ頸動脈又ハ股動脈ノ血液ヲトリ血清ヲ得之ヲ氷室ニ置ク  
片ハ二日間使用ニ堪ユ

四、血球免疫血清  
綿羊又ハ山羊ノ血球ニテ兔ヲ免疫シ其ノ血清ヲ採取ス此ノ免疫法ハ綿羊又ハ山羊ノ頸靜脈ヲ穿刺シ採血シ殺菌コルベン中ニ硝子小塊ヲ入レタル者ヲトリ血液ヲ之ニ入レ振盪ノ纖維素ヲ去リ其五〇%ヲトリ遠心器ニテ血清ヲ去リ次テ食鹽水ヲ加ヘ遠心器ヲ使用シ洗滌スル一二回食鹽水ヲ加ヘ全量五〇%トナス此血球ノ〇・五乃至一〇%ヲ毎五日又ハ七日ニ兔ノ靜脈内ニ注射シ若クハ此ノ倍量ヲ腹腔ニ注入シ最終注入ヨリ十日乃至十四日ニ至リ全血液ヲ採取シ血清ヲ取り之ニ〇・五%ノ割

合ニ石炭酸ヲ加フ

五、血球

綿羊又ハ山羊ノ血球ヲトル<sub>1</sub>四ノ如シ例ヘバ五・〇ノ血液ヲトリ之ヲ洗ヒテ得タル血球ニ十倍量ノ食鹽水ヲ加フ即全量五〇・〇トナル

六、血球免疫血清ノ價ヲ定ム

此血清ヲ食鹽水ヲ以テ千倍ニ稀釋シ補體八十倍ニ稀釋シテ使用シ次ノ試驗ヲナス次ノ表ノ如シ

| 試<br>驗<br>管<br>號 | 千<br>倍<br>綿<br>羊<br>血<br>球<br>免<br>疫<br>血<br>清 | 0.85%<br>食<br>鹽<br>水 | 補<br>十<br>體<br>倍 | 羊<br>十<br>血<br>球<br>倍 | 結<br>果 |
|------------------|--|----------------------|------------------|-----------------------|--------|
| 1                | 1.0  | /                    | 0.5              | 0.5                   | 溶解     |
| 2                | 0.75   | 0.25                 | 0.5              | 0.5                   | 溶解     |
| 3                | 0.5  | 0.5                  | 0.5              | 0.5                   | 溶解     |
| 4                | 0.25   | 0.75                 | 0.5              | 0.5                   | 不溶     |
| 5                | 0.1  | 0.9                  | 0.5              | 0.5                   | 不溶     |
| 對<br>照<br>6      | 1.0  | 0.5                  | /                | 0.5                   | 不溶     |
| 7                | /  | 1.0                  | 0.5              | 0.5                   | 不溶     |
| 8                | /  | 1.5                  | /                | 0.5                   | 不溶     |

右表ノ如ク加ヘ之ヲ二時間孵卵器中ニ入ル然ル後夏期ハ之ヲ氷室ニ靜置シ翌日檢ス本表ノ如キ成績ナル片ハ二千倍ニ於テ完全ニ溶解スルヲ見ル此血清ヲワツセルマン反應ニ應川スル片ハ二百五十倍若クハ五百倍ニ稀釋スルナリ  
著者ノ行フ方法ヲ表示セバ

| 試<br>驗<br>管<br>號 | 1     | 2      | 3     | 4    | 5   | 6   |
|------------------|-------|--------|-------|------|-----|-----|
| 食鹽水              | 1     | 1      | 1     | 1    | 1   | 1   |
| 可檢血清             | 0.006 | 0.0125 | 0.025 | 0.05 | 0.1 | 0.2 |
| 抗素               | 1     | 1      | 1     | 1    | 1   | 1   |
| 補素               | 1     | 1      | 1     | 1    | 1   | 1   |
| 血球               | 1     | 1      | 1     | 1    | 1   | 1   |
| 溶解               | 1     | 1      | 1     | 1    | 1   | 1   |
| 反應               | +     | +      | +     | +    | +   | +   |
| 或ハ-              | +     | +      | +     | +    | +   | +   |



ガラス」間ニ挟ミ兩硝子板ヲ互ニ壓迫シテ可及的痰層ヲ平等ナラシメタル後再ビ兩板ヲ離シテ先ツ空氣中ニ乾燥シ後ニ火焰内ヲ通過セシムルコト一回ニシテ「テックグラス」乾燥標本ヲ完成ス其染色ノ順序左ノ如シ

チール氏チールゼン氏法

(第一)「カルボールフクシン」塗抹セルデックグラスヲコル子ツト氏鍍子ニテ水平ニ固定シ其表面ニ「カルボールフクシン」ヲ滴下シ酒精燈ニテ温ムルコト三乃至五分)

(第二)五%硫酸(三秒時)赤

(第三)七十%酒精ニテ洗ヒ殆ント無色ノ觀アルニ至ル

(第四)水性メチーレン青(二分)或ハレットフル氏メチーレン青一ト

水三ノ内ニ五〇乃至十秒

(第五)水(ニテ洗ヒ)

(第六)吸墨紙(ニテ乾カシ)

(第七)カナダバルサム(ニテ封ス)

ガッベツト氏法

(第一)石炭酸フクシン(二分間、温ヲ加フベシ)

(第二)水(ニテ洗ヒ)

(第三)硫酸メチーレン青(一分間)(メチーレン青一・〇二十五%硫酸一〇〇・〇)

(第四)水(ニテ洗ヒ)

(第五)吸墨紙(ニテ乾シ)

(第六)カナダバルサム(ニテ封ス)

(乙)切片ノ検査

チール氏チールゼン氏法ニ於テハ(第一)ヨリ(第六)ガッベツト氏法ニ在テハ

(第一)ヨリ(第四)マテ咯痰検査ニ同ジ但シ石炭酸フクシン中ニ五分間ヲ要ス

(第五)九十六%酒精(三乃至五分)

(第六)無水アルコール(三乃至五分)

(第七)キシロール或ハ「ベルガモット」油

(第八)カナダバルサム

○癩病バチルレン染色法



結核「バチルレント」同法ヲ用ユルヲ可トス但シ本菌ハ單純ナル「アニリン色素水溶液」ニモ亦タ容易ニ染色ス又「グラム氏法」ニ由リ染色ス

○腸壘扶斯「バチルレン」染色法

デックグラス「プレバライト」ヲ製シ「レッフレル氏メチーレン」青溶液ニ五乃至十分間「淨」ベ水ヲ以テ洗滌スベシ（アルコホルヲ用ユ可ラス）○「グラム氏法」ニ依リ脱色ス

○破傷風「バチルレン」染色法

「レッフレル氏溶液」ヲ以テ染色スベシ○又「グラム氏法」ニ由ルモ染色ス

○虎列拉「バチルレン」染色法

蒸留水ヲ時計硝子ニ盛リ一二滴ノ「チール氏液」ヲ加ヘ其中ニ「デックグラス」プレバライト五分乃至十分間放置スレバ染色ス「グラム氏法」ニ由リ脱色ス

○インフルエンザ「バチルレン」染色法

膿様痰ヨリ「デックグラス」プレバライト」ヲ製シ「チール氏石炭酸」フクシ

ン溶液内ニ十乃至二十分間放置シ洗滌乾燥ノ後「カナダバルサム」ヲ以テ之ヲ封ス

○實扶的里「バチルレン」染色法

「義膜」ノ下面ヨリ小片ヲ取リ「デックグラス」プレバライト」ヲ製シ「レッフレル氏メチーレン」青溶液ヲ以テ五乃至十分間染色スベシ又「グラム氏法」ニ由リ染色ス

○ペスト菌検査法

腺腫ヲ穿刺シテ採取シタル組織液（末期ニ至リテ腺腫化膿スルトキハ「ペスト菌」ヲ認ムルコト稀レナリ）膿胞及癰ノ組織及組織液「ペスト」ノ喀痰、扁桃腺、眼結膜ノ分泌物、血液（初期ニハ稀レナリ）屍體ニアリテハ脾「肺下墜液」等ヨリ法ノ如ク標本ヲ製シ普通アニン色素就中リエ「レル氏メチーレン」アウ液ニテ着色スベシ  
尙之ヲ確定センニハ次デ培養及動物試験ヲ行ハザルベカラズ培養ニハ普通寒天斜面培養基及二乃至三食鹽ヲ含有スル寒天斜面培養基ヲ用ユ甲ハ本菌正當ノ發育狀態ヲ示シ且ツ動物試験材料ヲ作り乙ハ食鹽過量ノ爲メ

ニ生ズル本菌ノ特異ナル變形態ヲ示ス  
動物試験トシテハ南京鼠「モルモット」等ニ諸般ノ接種法ヲ行ヒ以テ特  
異ノ病的變化ヲ檢ス

○回歸熱螺旋狀菌染色法

發熱發作間ニ指頭ヨリ血液ヲ取り之レヲ檢スルナリ  
之ヲ染色セント欲スルトキハ左法ヲ用ユ

(第一)五%醋酸(十秒間洗滌)

(第二)強アンモニア液(醋酸ヲ取り「プレパレート」ノ表面ヲ下方  
ニ向ケ數秒間アンモニア液ノ上方ニ保持ス)

(第三)アニリン水溶液(ニテ染色)

(第四)水(ニテ洗ヒ)

(第五)吸墨紙(ニテ乾シ)

(第六)カナダバルサム(ニテ封ス)

グラーム氏法ニ由リ脱色ス

○膿菌及丹毒菌ノ染色法

ゲンチアナピオレット」ノ水溶液ヲ以テ染色ス又グラーム氏法ヲ用ユル  
ヲ可トス

○淋病球菌染色法

(甲)オブエクトグラス」ニ膿ヲ薄ク塗り乾燥固定シ半分間レッツフレル  
氏メチーレン」青液ニテ染メ水ニテ洗ヒ吸墨紙ニテ水ヲ去リ火焰上  
ニテ乾シ十分乾キタルトキハ「デックグラス」ヲ用キズ油浸鏡檢ス  
或ハ

(乙)一、エオジンアルコホル飽和液、加温三分

二、吸墨紙ニテエオジンヲ吸ヒ取り直チニ

三、メチーレン青アルコホル飽和液(十五秒)

四、水洗

(丙)石炭酸フクシン液ヲ二分間作用セシメ水ニテ洗滌鏡檢ス

○スピロヘーテバルリダノ染色法

ギームザ氏法黴毒性患部ヲ消毒シ刀ニテ輕ク其ノ表面ヲ磨擦其ノ液ヲ載  
物硝子上ニ落シ塗り乾燥ノ後「ギームザ」染色液ヲ滴ラシ火焰ニテ温ム

ルヲ數回一時間ヲ經テ水ニテ洗ヒ鏡見ス可シ

墨汁法

検査液ヲ一二滴ノ水ニテ稀釋シ更ニ其ノ一分ヲ第二ノ載物硝子ニ移シ之ニ一小滴ノ墨汁ヲ加ヘ攪拌シ淡褐色ヲ呈スルノ後空氣中ニ放置シ自然ニ乾燥スルヲ待チ鏡檢ス可シ(九九七參照)

○「ミク로스ポーロン、フルフル」ノ検査法

此菌ヲ檢スルニハ爪甲若クハ刀ヲ以テ患部ノ皮膚ヲ輕ク摩擦シ落屑ヲ生セシメ之ヲ取リテ載物硝子上ニ置キ一滴ノ「カリ滲汁」ヲ加ヘ十分乃至十五分時ノ後即チ表皮細胞ノ膨脹透明トナルヲ待チテ之ヲ檢スベシ○又々小斑點部ヲ十%ノ「カリ滲液」ニテ拭ヒ暫ラクシテ軟化シタル表層ヲ板匙ヲ以テ抓取シ三百五十倍ニ増大スレバ屈曲分枝シタル菌纖維及光線ヲ屈折スル芽胞ノ葡萄狀ニ集簇スルヲ見ル

○シエンライン氏アヒョリオソノ検査法

此寄生菌ハ非常ニ多數ニ存在スルモノニシテ白癬小甲二十%カリ液ヲ加ヘテ鏡檢スレバ本菌ヲ見ルベシ○又々水或ハ少許ノ「アンモニア」ヲ含

メル「アルコホル」ヲ以テ片塊ヲ潤シ「グリセリン」ヲ用キテ檢スベシ

○「トリヒョヒートン、トシズランス」ノ検査法

一毛ヲ拔キ「カリ滲汁」若クハ「グリセリン」ヲ加ヘ又々少シク醋酸ヲ加ヘ鏡檢スベシ

○第四十三章 「サルヴルサン」療法

適應症、微毒、脊髄癆ノ初期、微毒ニ因スル早期麻痺、癩癧、回歸熱、マラリヤ(三日熱)、天疱瘡、扁平紅色苔癬、覆盆子瘡、鱗屑癬ノ重症ナルモノ並ニ神經血液及皮膚疾患中砒素劑ヲ用フベキ症等、

禁忌、心臟疾患及血管ノ疾患(靜脈内注射ニハ絶對的禁忌ナリ)、中樞神經ノ高度ノ變質、惡臭性氣管支炎、微毒ニ因セザル惡液質、砒素ニ對シテ著シキ特異性アルモノ、出血性素質、及ビ重症ナル腎臟炎等、

用量、ミハエリス氏ハ體重一疋ニ對シ平均一「センチグラム」(〇・〇一)ヲ用フベシト稱ス、但シ病ノ輕重、患者ノ體質等ニ從ヒ或ハ此ノ以上、或ハ此ノ以下ノ量ヲ用フベシ、例ヘバ衰弱セル患者ニハ體重一疋ニ付キ六「ミリグラム」(〇・〇〇六)ヲ用フルガ如シ、又哺乳兒ニハ總量〇・

●二瓦、脊髄癆ノ極メテ初期、神經及血管疾患ニハ〇・三ニテ足レリ、  
使用法、三アリ、即チ皮下、筋肉内及靜脈内注射是ナリ、本劑ハ少シモ  
水銀療法ト衝突セザルモノニシテ從來已ニ水銀療法ヲ加ヘタル者ニ用  
ヒテ差支ナク又「サルヴルサン」注射後直チニ之ヲ始ムルモ差支ナシ

皮下注射法

注射液製法 皮下注射ニハ中性又ハ弱「アルカリ」性乳劑ヲ用フ、注  
射液ノ如何ハ注射ノ無痛、治効、及副作用ノ有無ニ關係スルコト大ナル  
ヲ以テ液ノ調製ニハ嚴密ナル注意ヲ拂ハザルベカラズ、之ニ用フル器  
具ノ消毒ハ勿論凡テノ操作ハ嚴ニ滅菌的ナルベキハ言ヲ待タズ  
乳劑ノ調製ニハ左ノ材料ヲ要ス

- 一、硝子製又ハ陶製乳鉢及乳棒
- 一、局方一五%「ナトロン」液一〇瓦及「ピペット」又ハ滴瓶
- 一、稀釋鹽酸液滴瓶(水ト等分ニ稀釋セル局方稀鹽酸液一〇瓦)
- 一、青色及赤色「ラクムス」試験紙

今「サルヴルサン」〇・六瓦ヲ乳劑トナスニハ次ノ如クス  
「サルヴルサン」〇・六ヲ乳鉢ニ取り約九乃至十滴ノ十五%局方「ナト

ロン」液(比重一・一七)ヲ加ヘテ注意シテ研磨ス、之ヲ絶エズ研磨シ  
ツ、滅菌蒸餾水(約五乃至一〇cc、普通全量六ccトナスヲ便トス)ヲ始  
メハ滴下シツ、加フ、カクシテ得タル乳劑ヲ「ラクムス」試験紙ヲ以  
テ檢シ反應ノ中性若クハ弱「アルカリ」性ナルカ否カヲ確ム、若シ然  
ラザレバ酸又ハ「アルカリ」ヲ加ヘテ之ヲ矯正スベシ  
「サルヴルサン」ヲ中和スルニ要スル局方「ナトロン」液ノ量ヲ示セバ左  
ノ如シ

|           |               |      |
|-----------|---------------|------|
| 「サルヴルサン」量 | 一五%局方「ナトロン」液量 | 滴數ニテ |
| 瓦         | 瓦ニテ           | ccニテ |
| 〇・三       | ニ對シ           | 〇・二七 |
| 〇・四       |               | 〇・三六 |
| 〇・五       |               | 〇・四五 |
| 〇・六       |               | 〇・五四 |
|           |               | 四一五  |
|           |               | 六一七  |
|           |               | 八    |
|           |               | 九一十  |

ウエクセルマン氏改良法ニ從ヒ前述ノ如クニシテ出來上リタル液ヲ遠  
心沈澱器ニ掛ケ、上澄ヲ捨テ、沈澱セル「サルヴルサン」ニ滅菌生理的  
食鹽水ヲ加ヘテ全量ヲ六ccトナシ注射スレバ疼痛最モ少シ

附錄 「サルヴルサン」療法

クロマイエル氏ニヨル「サルグルサン」ノ「バラフィン」乳劑ノ皮下注射モ亦用フベシ、調製法ハ極メテ簡單ナリ、即チ「サルグルサン」〇・六瓦ヲ無菌流動「バラフィン」ニテ研磨シ全量ヲ六CCトナス

**注射法** 注射部ニハ肩胛間及下部ヲ撰ビ左右各三乃至四ヶ所即チ六乃至八ヶ所ニ注射スルヲヨシトス、注射部ニ沃度丁幾ヲ塗布シタルノチ先ヅブラワツツ注射器ヲ以テ〇・五%「ノボカイン」液ヲ皮膚内ニ注射シテ豌豆大ノ浸潤麻醉部ヲ生ゼシメ、更ニ太キ注射針ヲ以テ〇・五%「ノボカイン」液〇・五乃至一〇ヲ該部ノ皮下ニ注射シ、其ノ針ヲ其ノ儘トナシ置キテ更ニ是ヨリ「サルグルサン」乳劑ヲ注射シ、針ヲ抜キタル跡ニハ沃度「ホルム」「コロヂウム」ヲ塗り、後チ輕ク按摩シタル後濕器法ヲ施ス

**筋肉内注射法**

注射液ノ調製法ハ皮下注射ト同一ナリ、注射ハ大臀筋外上部ニ行フ、針ヲ深ク刺入シ、極メテ徐クニ注射シテ筋ノ裂傷及出血ヲ避ケザルベカニス

**静脈内注射法**

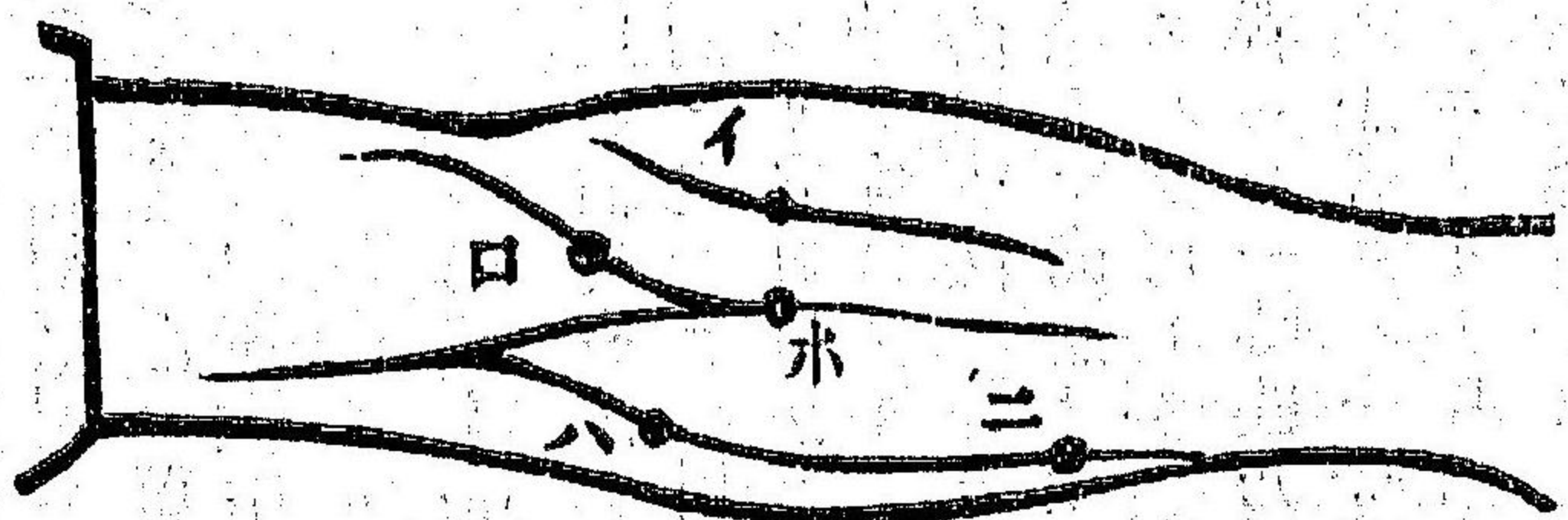
**注射液製法** 静脈内注射ニハ必ず透明ナル「アルカリ」性溶液ヲ用フルヲ要ス、「サルグルサン」ノ濃厚溶液ヲ静脈内ニ注入スレバ中毒ヲ來スノ恐レアルガ故ニ少クトモ五百倍以上ニ稀メタルモノヲ用フ、八百倍乃至千倍トナスヲヨシトス  
今〇・六瓦ノ「サルグルサン」ノ溶液ヲ造ルニハ次ノ如クス、凡ソ三百CCヲ溶ルベキ割合混合圓樽ニ四五十個ノ硝子球ヲ入レタルモノヲ取り、之ニ約三十乃至四十CCノ滅菌生理的食鹽水(〇・六%)ヲ入ル(食鹽ハ化學的ニ純粹ナラザルベカラズ)次ニ「サルグルサン」〇・六瓦ヲ入レテ密栓シタル後強ク振盪スレバ透明ナル溶液ヲ生ズ、之ニ二三滴ノ一五%「ナトロン」液ヲ滴下スベシ、然ルトキハ沈澱ヲ生ズルモ強ク振盪スレバ再ビ溶解ス、玆ニ生ジタル透明黄色溶液ニ更ニ滅菌生理的食鹽水ヲ加ヘテ全量ヲ三百CCトナセバ五百倍溶液ヲ得、出來上リタル液ガ全ク透明ナラザレバ、尙ホ一二滴ノ「ナトロン」液ヲ加フベシ  
若シ混合「チリンデル」無ケレバ乳鉢ヲ以テ次ノ如クニシテ調製スルヲ得ベシ、即チ乳鉢中ニ〇・六瓦ノ「サルグルサン」ヲ入レ、之ニ十五%「ナトロン」液二十三滴ヲ加ヘテ研磨スレバ透明ナル「アルカリ」性溶

液ヲ得ベシ、之ニ滅菌生理的食鹽水ヲ加ヘテ三百ccトナス、千倍液ヲ作ルニハ全量六百ccトナスベシ  
 「アルカリ」性靜脈内注射液ノ調製ニ加フベキ十五%「ナトロン」液ノ割合次ノ如シ

| 「サルグルサン」量 | 十五%局方「ナトロン」液量 | 滴數ニテ |
|-----------|---------------|------|
| 瓦         | 瓦ニテ           | ccニテ |
| 〇・六       | 一・三〇八         | 一・三四 |
| 〇・五       | 一・〇〇九         | 〇・九五 |
| 〇・四       | 〇・八七二         | 〇・七六 |
| 〇・三       | 〇・六五四         | 〇・五七 |
| 〇・二       | 〇・四三六         | 〇・三八 |
|           |               | 八    |

靜脈内注射液ノ温度ハ三十六乃至三十七度ヲ適度トス  
 注射法 注射部位ハ肘又ハ前膊ノ最モ浮上リタル靜脈ヲ擇ブ、シユライベル氏ハ左圖注射部位特ニ少シク肘關節ヲ離レタル(二)ノ部位ヲ以テ至便トセリ  
 注射ヲ行フニハ患者ヲ横臥セシメ、局所ヲ消毒シ、次ニ護謨管ヲ以テ

第 百 八 圖



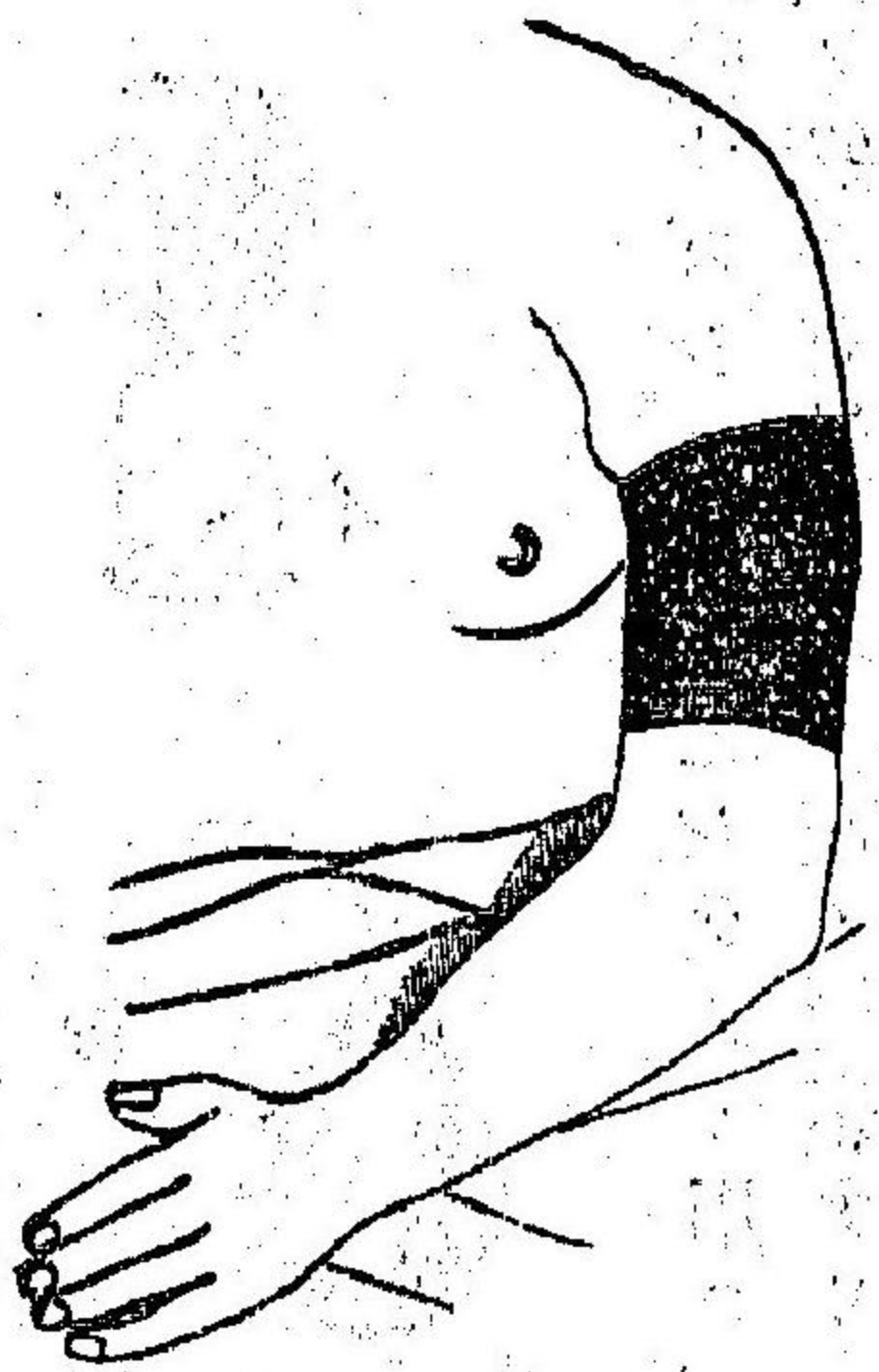
上膊中央部ヲ緊縛シ靜脈ヲ努張セシメ、橈骨動脈ノ脈搏ヲ檢シ置キ注射針ヲ徐々ニ血流ノ方向ニ靜脈内ニ刺入ス、注射針ガ正シク靜脈内ニ入ラバ上膊ノ緊縛ヲ解ク、刺入後針ノ後端ヨリ血流出シ、且ツ少量ノ生理的食鹽水ヲ注入シテ局部膨脹セザレバ針ハ正シク靜脈内ニ入り居ルガ故ニ、徐々ニ藥液ヲ注入スベシ、一千倍溶液ノ三五〇・乃至四〇〇ccヲ注射スルニ十分乃至十五分間ヲ要スベシ、注入シ終ラバ更ニ少量ノ生理的食鹽水ヲ注入シテ針ヲ去リタル後藥液ノ皮下ニ逆流スルヲ防グ  
 注射器ニハシユライバー氏注射器、ワイントラウド氏注入器等アリ、井上式食鹽水注入器モ又ヨク此ノ目的ニ適ス  
 注意「サルグルサン」ハ空氣ニ觸ル、時ハ容易ク酸化シテ劇毒ニ變ズル性アリ、故ニ注射

直前(一時間以内)ニ造リタル溶液又ハ乳劑ノ他決シテ使用スベカラズ  
「サルグルサン」ハ鮮黃色ヲ呈ス、灰色又ハ褐色等ニ變色セルモノハ用  
フベカラズ、運搬中破損サレタル容器中ノ内容及ビ口ヲ開キテ時ヲ經  
タルモノハ危険ナルヲ以テ決シテ用フベカラズ

### ○第四十四章 ビール氏充血療法

ビール氏ハ消炎療法トシテ諸種ノ炎症ニ對シテ充血療法ヲ用ユベキヲ公  
ニセリ而シテ之ヲ試用シタルモノ皆其卓効アルヲ認メ一般ニ之ヲ用ユ  
ルニ至レリ充血療法ハ鎮痛、殺菌若クハ弱菌、吸收、榮養、及再生機促  
進ノ諸効ヲ兼ヌルモノナリ、充血療法ニ二種アリ、鬱血療法及積血療法  
之ナリ鬱血療法ハ彈力帶ヲ炎症部ヨリ遠ク離レタル(中樞ニ近キ)部分ニ  
輕ク纏絡シテ鬱血ヲ生ゼシムルモノナリ(第百〇九圖)而シテ纏絡部ハ時  
々變更スルヲ可トス  
入院患者ニハ一時間乃至二十時間ヲ用ユルヲアルモ普通一般ノ外來患者  
或ハ自宅患者ニハ一時間宛用ユベシ而シテ之ヲ用ユルニハ必ず常ニ醫師ノ  
監督ノ下ニアリテ其結果ヲ觀察スルヲ要スルモノナリ鬱血ノ際疼痛ヲ増  
ス時ハ彈力帶ヲ解キ之ヲ更ニ一層輕ク(緊シクナキ様ニ)卷クヘシスノ

第百九圖



彈力帶ヲ施シタル圖

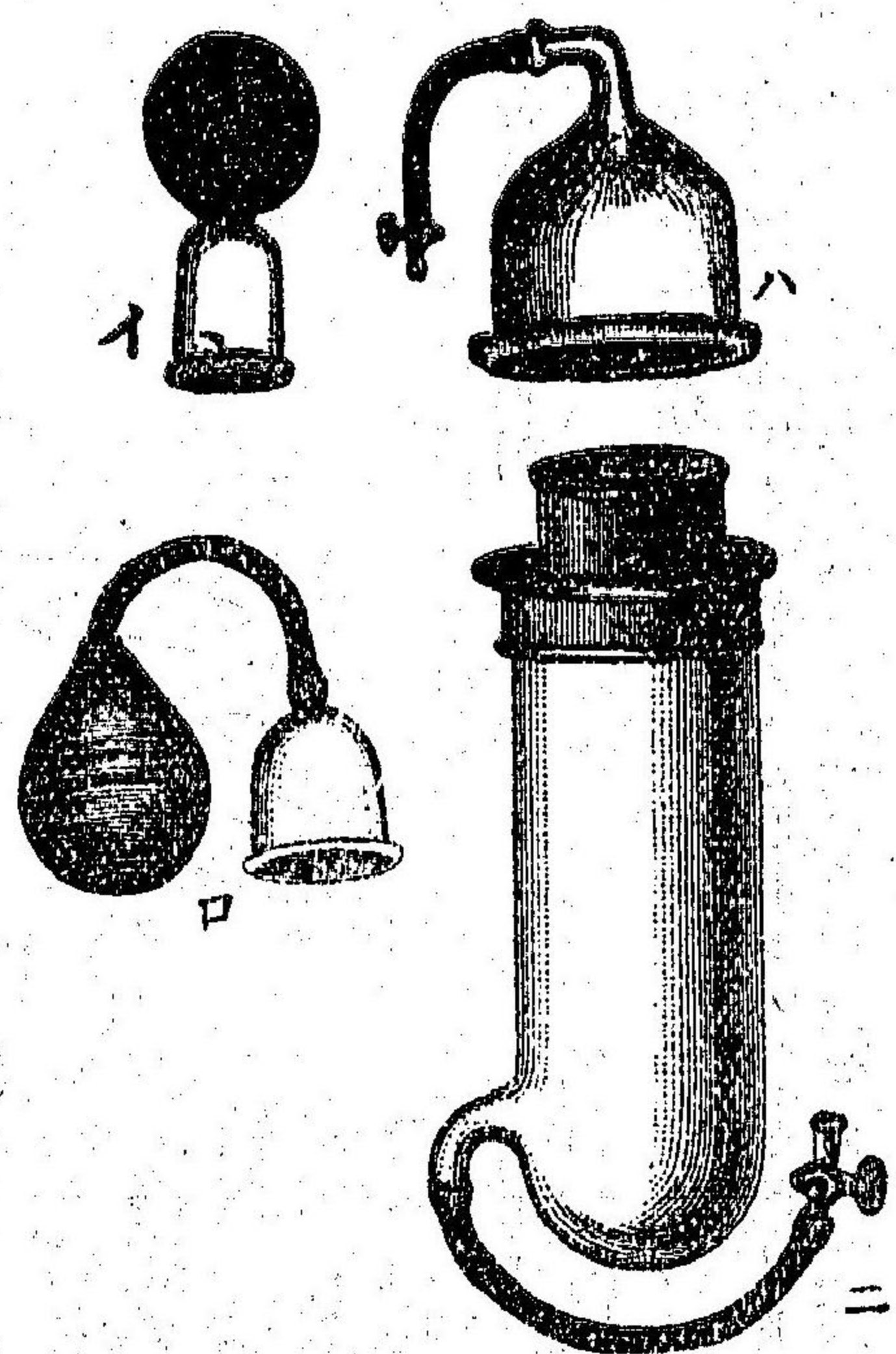
ノ吸引器モ亦タ充血療法ニ用ユル者ニシテ硝子鐘ノ緣ニ脂肪ヲ薄ク塗り  
テ之レヲ皮膚ニ接シ鐘中ノ空氣ヲ唧筒若クハ護謨球ノ作用ニテ稀薄ナラ  
シメテ吸着セシムベシ但シ決シテ強度ニ吸引セザル様注意スベキヲ忘  
ルベカラズ此ノ法ニハ炎症部ニ小切開ヲ行ヒタル後ニ用ユベキヲアリ或

如クスルモ疼痛増加スル片  
ニハ該症ハ鬱血療法ノ適應  
セザルヲ示スモノナレハ  
斯ノ如キ場合ニハ速カニ本  
法ヲ止メ他法ヲ用ユヘン  
本法ヲ特ニ用ユベキモノハ  
左ノ諸症ナリ

結核(就中骨及關節ノ結  
核)、急性及亞急性關節  
炎(就中淋毒性關節炎慢  
性關節變縮、神經痛)

第百十九圖ニ示スビール氏

第百十圖

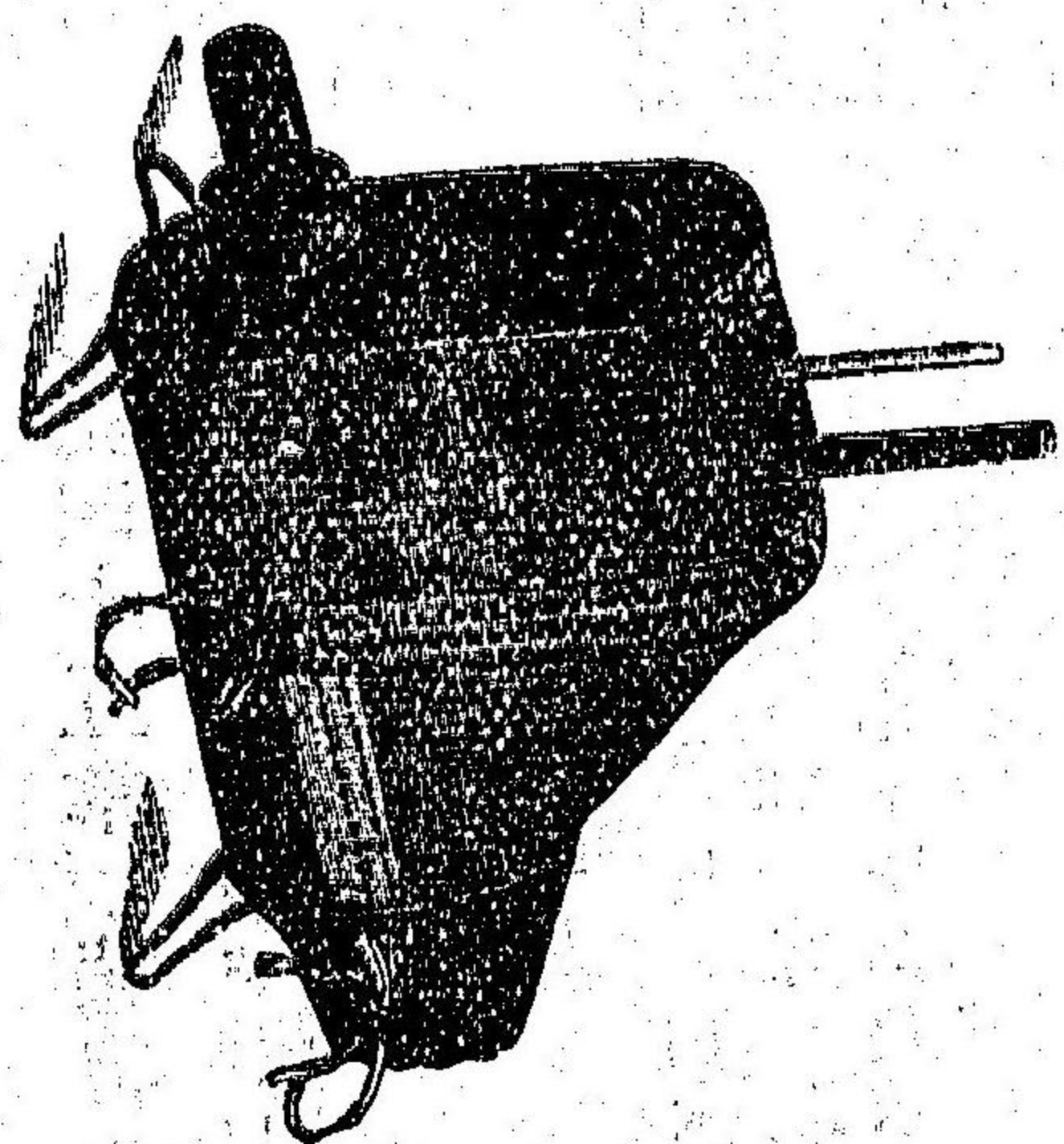


各種吸引装置ノ圖

10002

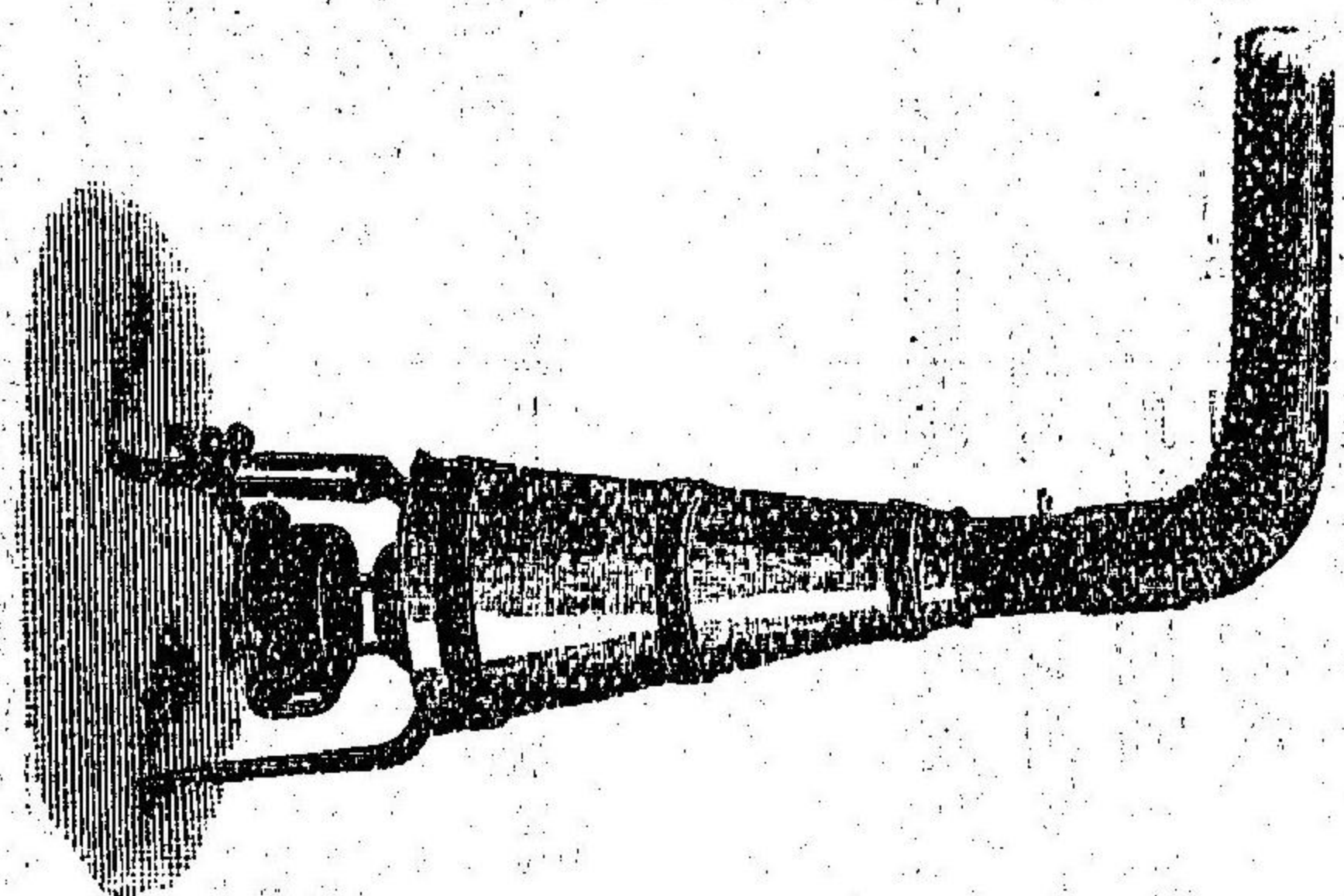
ハ切開ヲ施サズシテ單ニ之レヲノミ用ユベキ場合アリ  
 此ノ療法ノ殊ニ有効ナルハ左ノ諸症ナリ  
 癰癤、瘰癧、膿瘍、乳房炎、瘻孔ヲ有スル淋巴腺炎瘻孔ヲ有スル骨ノ疾病  
 積血療法トノピール氏ハ熱氣裝置ヲ最モ有効ナルモノトス第百十一圖ハ

第百一十二圖



患部ヲ入ルニ裝置

第百一十一圖



熱氣ヲ作ル暖爐

附錄  
 ビール氏充血療法

五〇〇一



其熱氣ヲ生スル暖爐ヲ示シタルモノニシテ此ノ熱氣ヲ第百十二圖ノ如キ  
諸種ノ裝置内ニ導キ該裝置内ニ一定時間患部ヲ入レシムルモノナリ本法  
ハ關節諸症ロイマチスニ用キテ大ニ効アリ

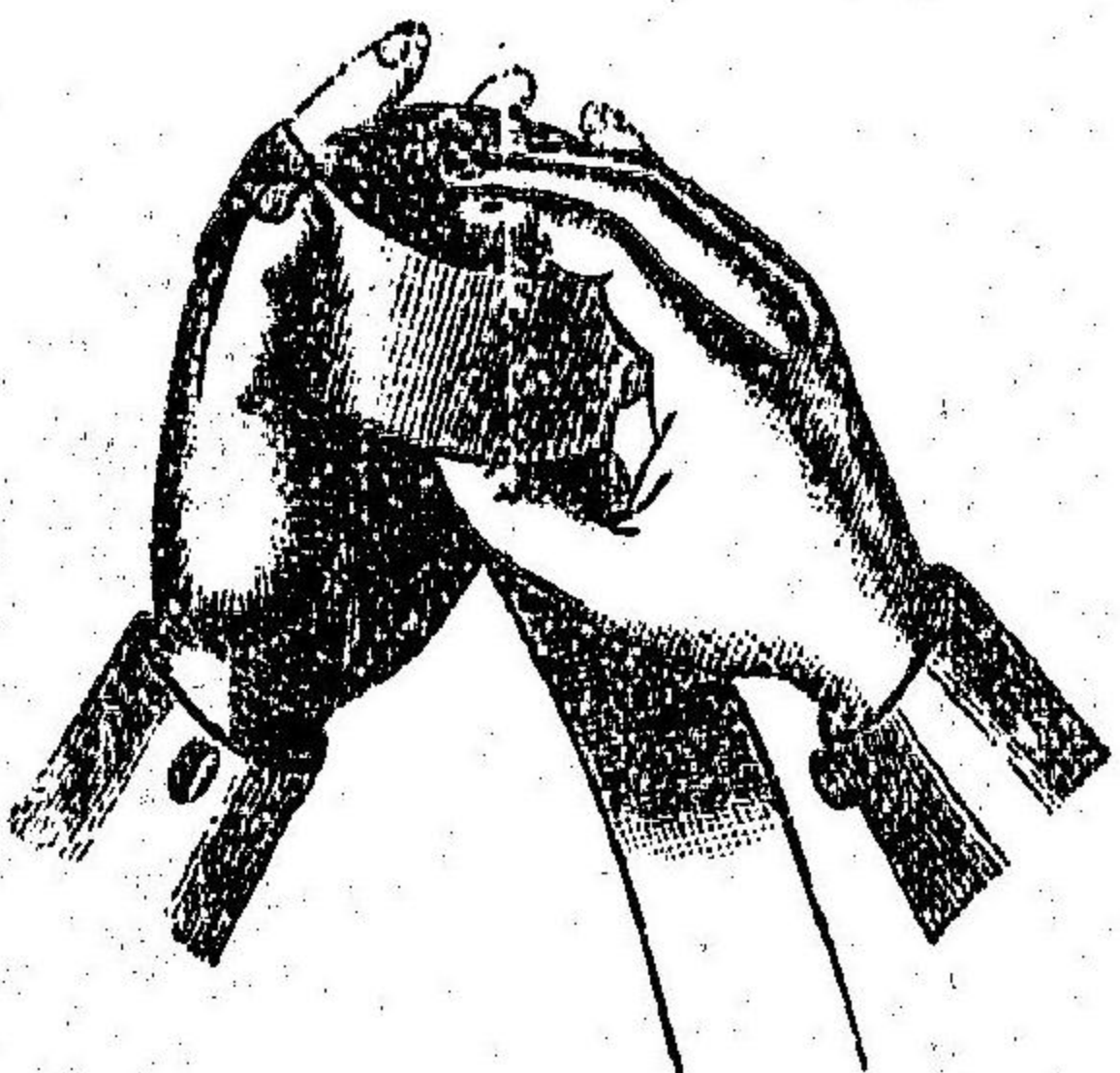
○第四十五章 繃帶ノ用法

繃帶ニ二種アリ曰ク卷軸帶又々通常單ニ繃帶ト稱スル者曰ク繃帶巾又々繃巾ト稱ス而シテ繃帶  
巾ニ四角巾アリ三角巾アリ

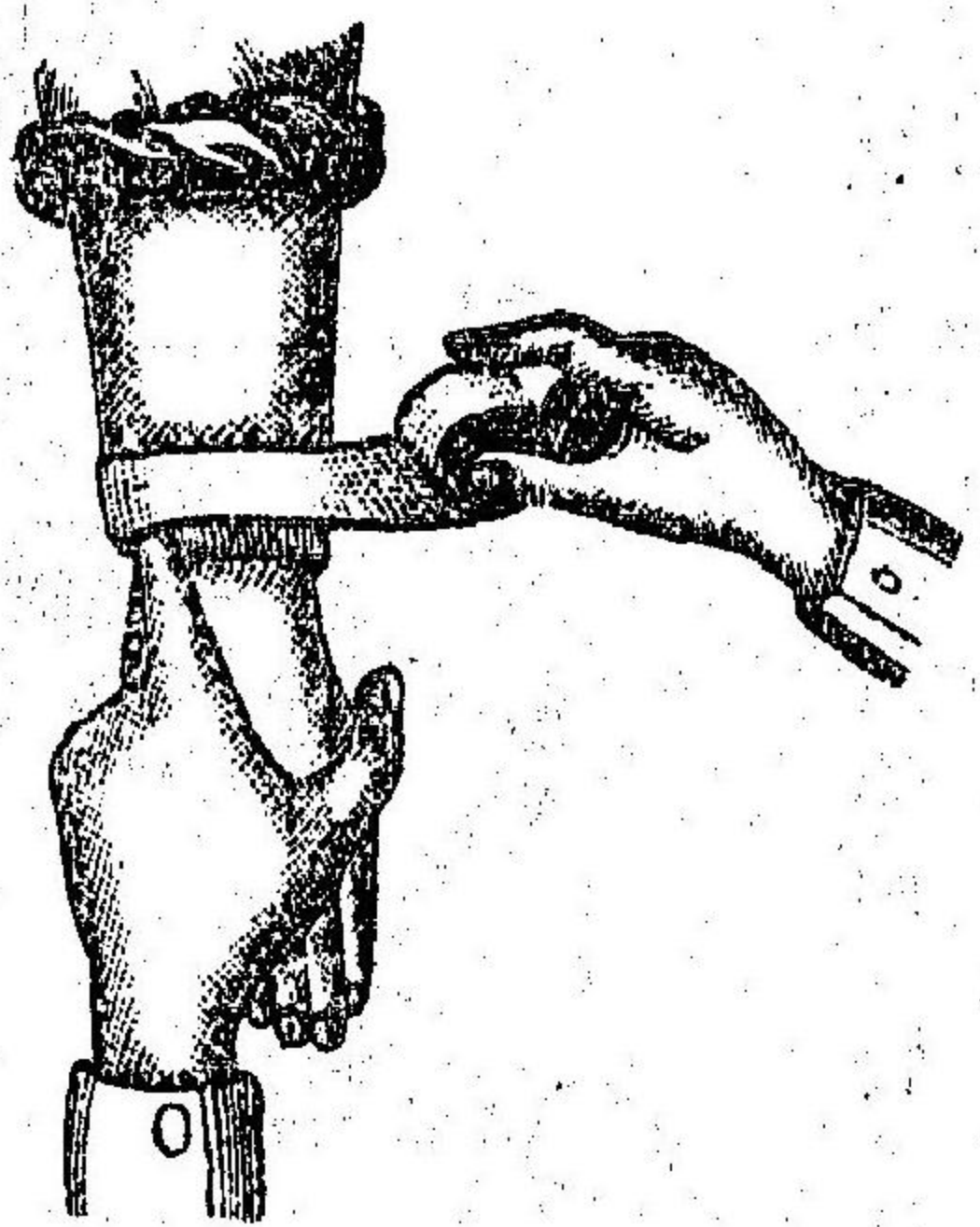
○(甲) 卷軸帶

卷軸帶ヲ作ルノ法 通常一反ノ晒木綿ヲ縦ニ四裂或ハ五裂或ハ六裂或ハ  
八裂或ハ十裂シ而シテ其一條ヲ取り一端ヲ數回折り返シ相疊ミ卷キテ  
圓軸トナシ右手ノ拇指ト中指及示指ノ三指ニテ取持シ圓軸ニ接シタル  
部分ヲ左手ノ拇指ト示指トノ間ニ挟ミ、右手ノ圓軸ヲ回轉シテ卷クベ  
シ(第百十三圖)又々多數ノ繃帶ヲ製スルニハ捲帶器ヲ用ユベシ  
卷軸帶ヲ施スノ法 第百十四圖ノ如ク卷軸帶ヲ右手ノ拇指ト示指ト中指ト  
ノ間ニ取り左手ノ示指ニテ一端ヲ纏絡セントスル部ニ當テ、固定シ先

第百三十圖



第百四十圖



ツ環行ヲナシ而シテ後或ハ斜行シ或ハ蛇行シ或ハ折轉シ或ハ麥穗帶ヲ  
作り或ハ龜甲帶ヲ作ル等各其部位ノ宜キニ應ジ終ニハ再ビ環行ヲナシ  
テ纏絡シ了リ安全鍼ニテ其末端ヲ固定シ或ハ末端ヲ縱裂シテ結ブベシ  
(一)環行帶 卷軸ヲ施スノ始メト終リトニ用ユルモノニシテ環狀ニ纏  
絡ス(第百十四圖)  
(二)螺旋帶 前回ニ纏絡セル帶部ノ一ヲ被ヒツ、進行スルコト螺旋ノ

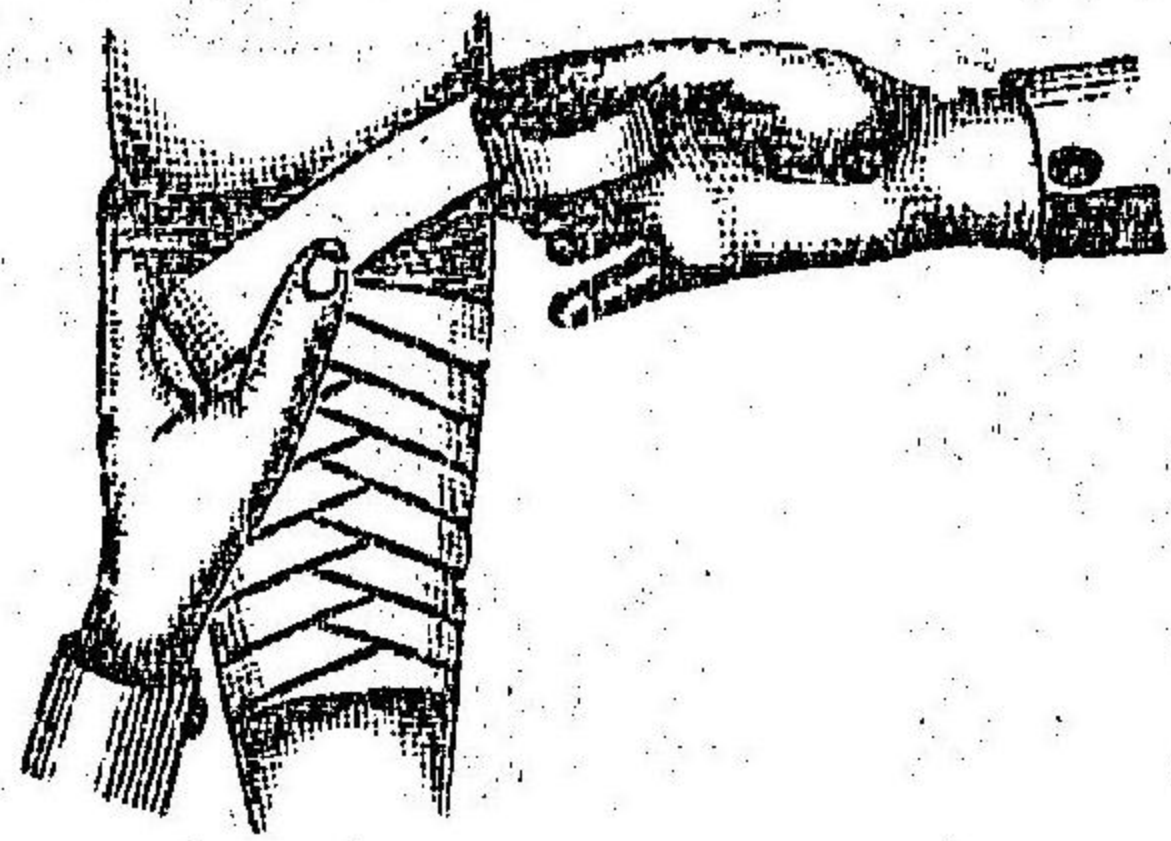
如シ(第百十五圖)  
 (三)蛇行帶 前回ニ纏絡セル帶部ヲ被フコトナクシテ進行スルコト第  
 百十三圖ノ如シ

第百五十圖

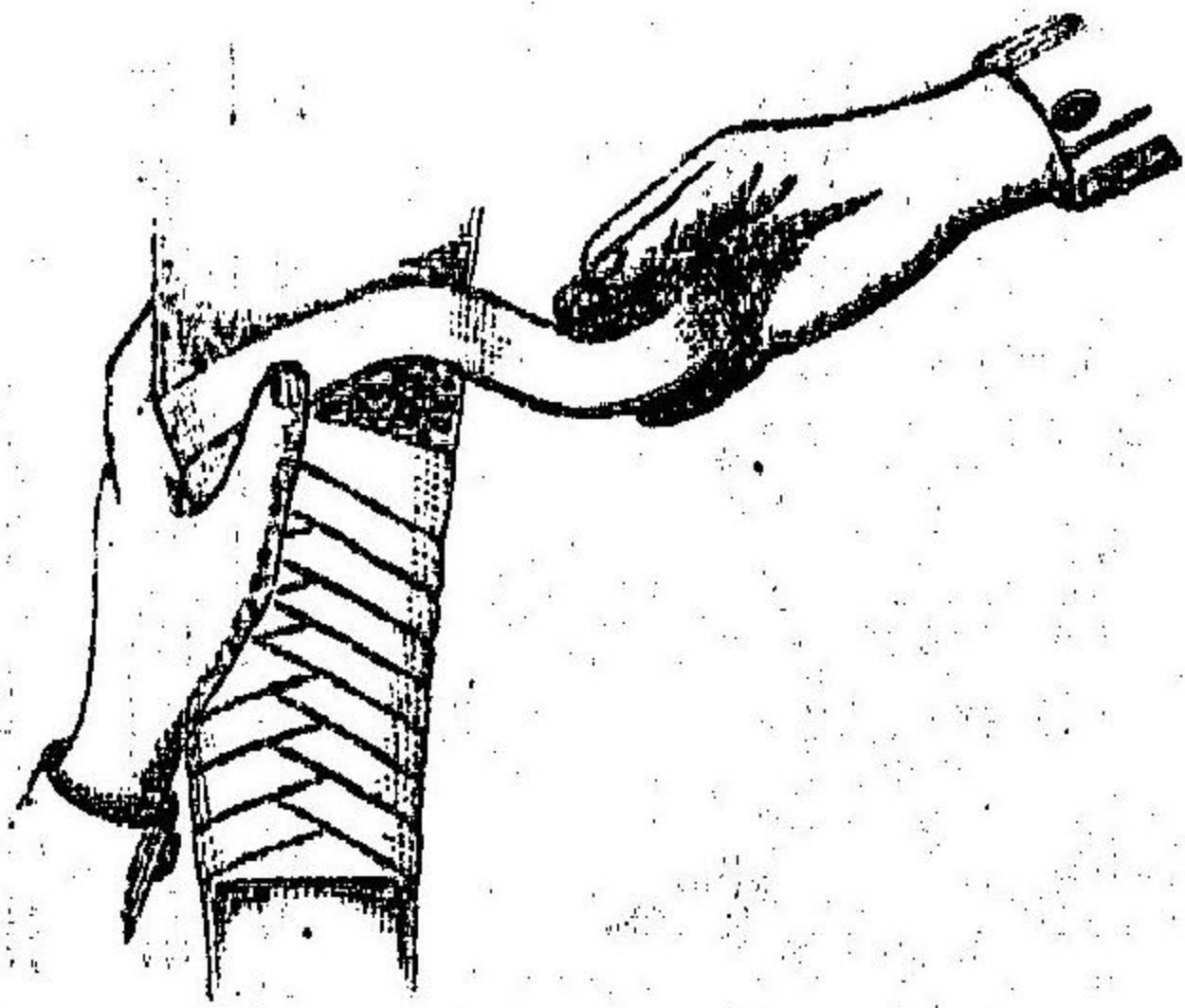


(四)折轉帶 四肢ノ末梢ヨリ上行スルニ當リテ下腿或ハ前膊ニ於テ其  
 周圍不同ノ大サナルトキニ用ユ其方ハ第百十六圖ノ如ク(一)先ヅ手

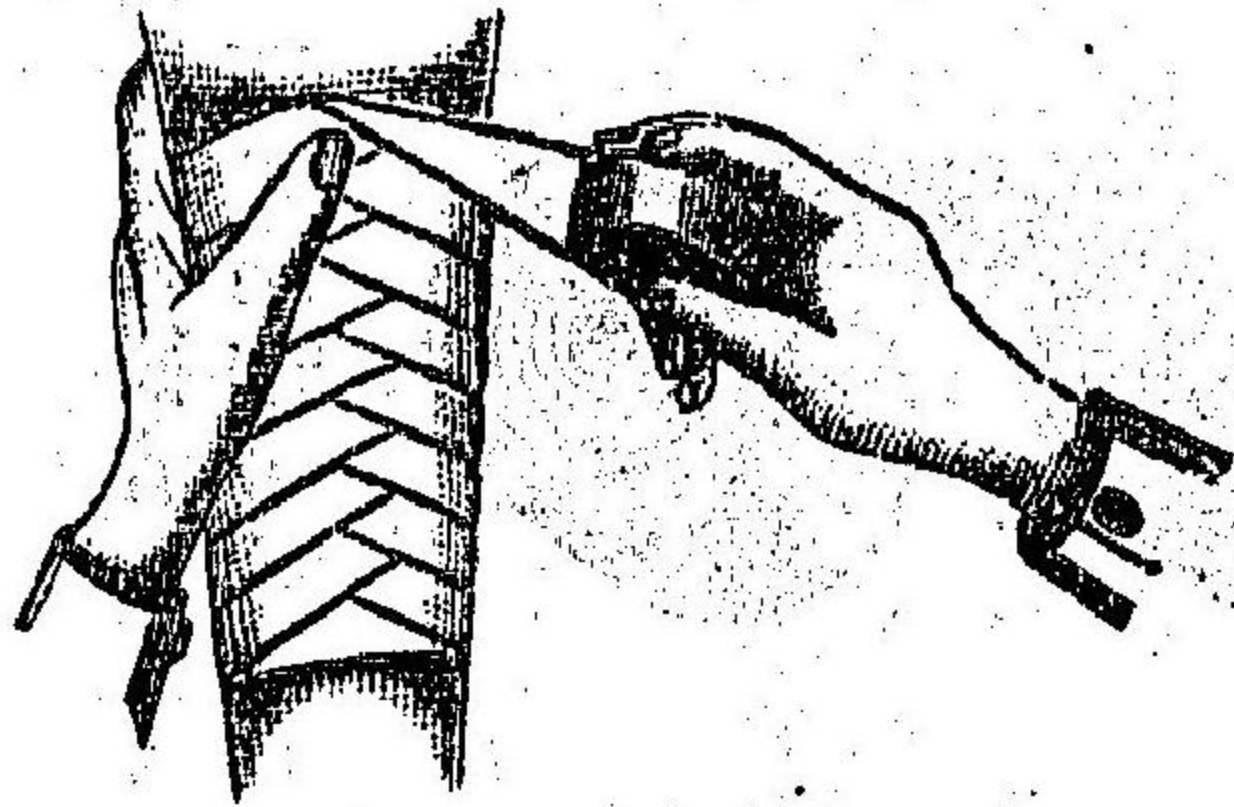
第百六十圖



第百七十圖



第百八十圖



掌ヲ術者ニ向フ様ニ纏帶ヲ持シ斜ニ之レヲ牽引シ左拇指頭ヲ帶行ノ  
 中央ニ當テ、固定ス(第百十七圖)(2)牽引ヲ止メ右手ヲ肢ニ近ヅク

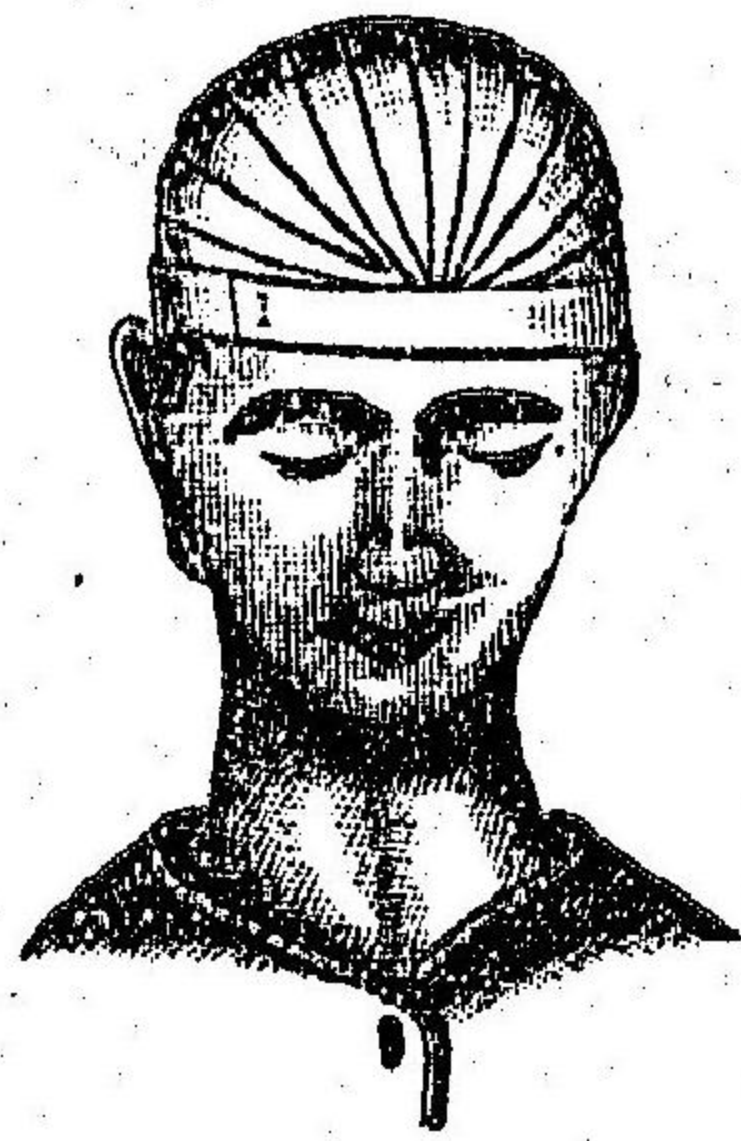
ルコト第百十八圖ノ如クシ(3)終ニ折轉ヲナシテ帶ノ上縁ハ下縁ト  
 ナルコト第百十八圖ノ如クスベシ  
 (五)麥穗帶 ハ人字帶ト稱シ又(S)字帶ト名ク第百二十二圖第百二十

四圖等ノ如シ  
(六)總甲帶ニ集合及離開ノ二種アリ第百二十六圖第百二十七圖ノ如シ

○頭部及ビ顔面ノ卷軸帶

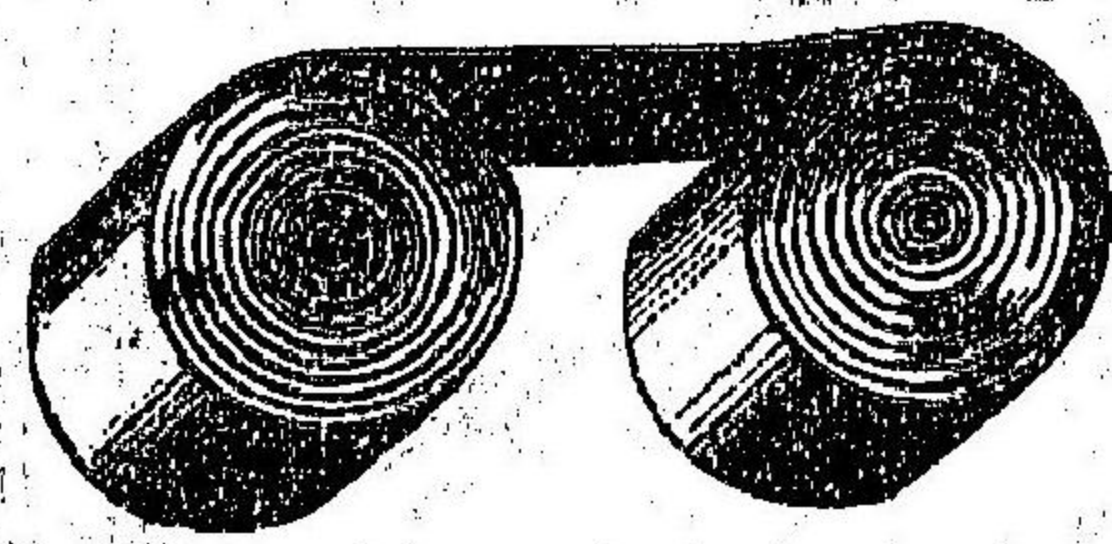
(一)ヒツボクラ一テス氏帽子帶(第百十九圖)甲乙ノ術者ヲ要ス先ヅ第百二十圖ノ如キ兩頭帶ヲ作り其正中ヲ前額ニ當テ兩軸帶ヲ後方ニ廻ラ

圖九十百第



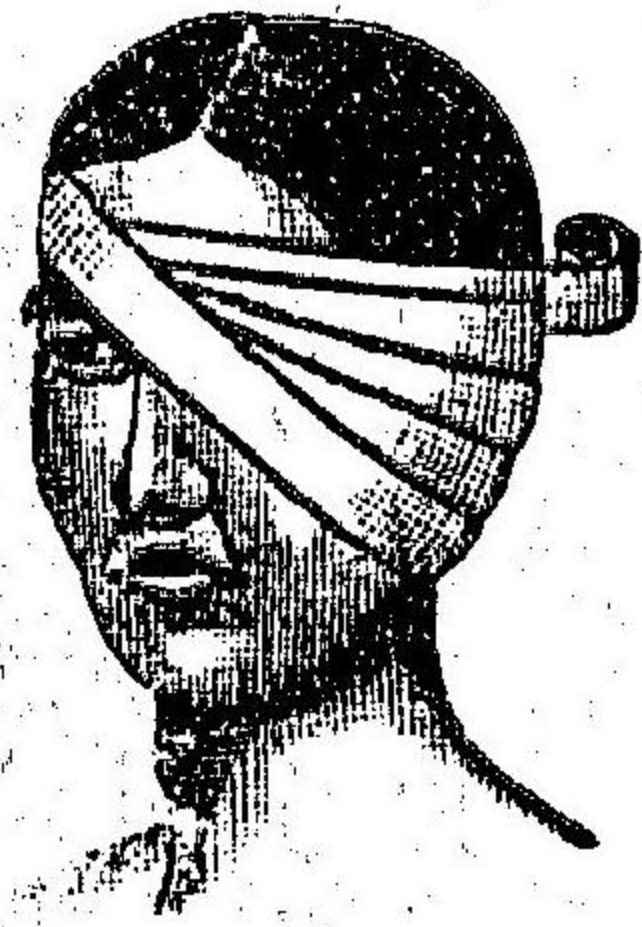
帶スターラクボツヒ

圖十二百第



シ後頭結節ノ下ニテ相交又ス次ニ甲施術者ハ頭ヲ一頭ノ正中線ニ沿フテ前記ニ送ルベシ乙術者ハ他ノ一頭ヲ以テ環行ヲナシ甲術者ノ前額ニ送りアル帶ノ上ヲ被フテ之レヲ固定ス○甲施術者ハ正中線ヲ被ヘル帶ノ下面ヲ被ヒツ、帶ヲ後頭ニ送ル而シテ乙ハ此處ニ環行シ來リテ甲ノ帶ヲ固定ス○甲ハ更ニ正中線ヲ被ヘル帶ノ他ノ半面ヲ被ヒツ、帶ヲ前頭ニ送レハ乙ハ又々環行シ來リテ之レヲ固定スルコト前回ノ如シ○是レヨリ甲ハ帶ヲ漸次左右ニ進メ乙ハ常ニ環行ヲ持續シ全頭ヲ被ヒ了リタラバ乙ハ兩端帶ヲ以テ環行ヲナス  
(二)偏眼帶(第百二十一圖)ハ頭ノ周圍ニ環行ヲナスコト一回漸次下方

圖一十二百第



帶眼偏

附錄

繃帶ノ用法

ニ下リテ病眼ヲ覆ヒ頭部ノ環行ヲ以テ了ルベシ又次ノ方法アリ即チ頭部ノ環行ヲナスコト二回次ニ患側ノ耳下ヲ經、斜ニ病眼ヲ被フテ顛頂ニ至リ斜ニ後頭ニ下行シ患側ノ耳下ヲ經、病眼ヲ被フコト前回ノ如ク反覆シテ終ニ頭部ノ環行ヲナス

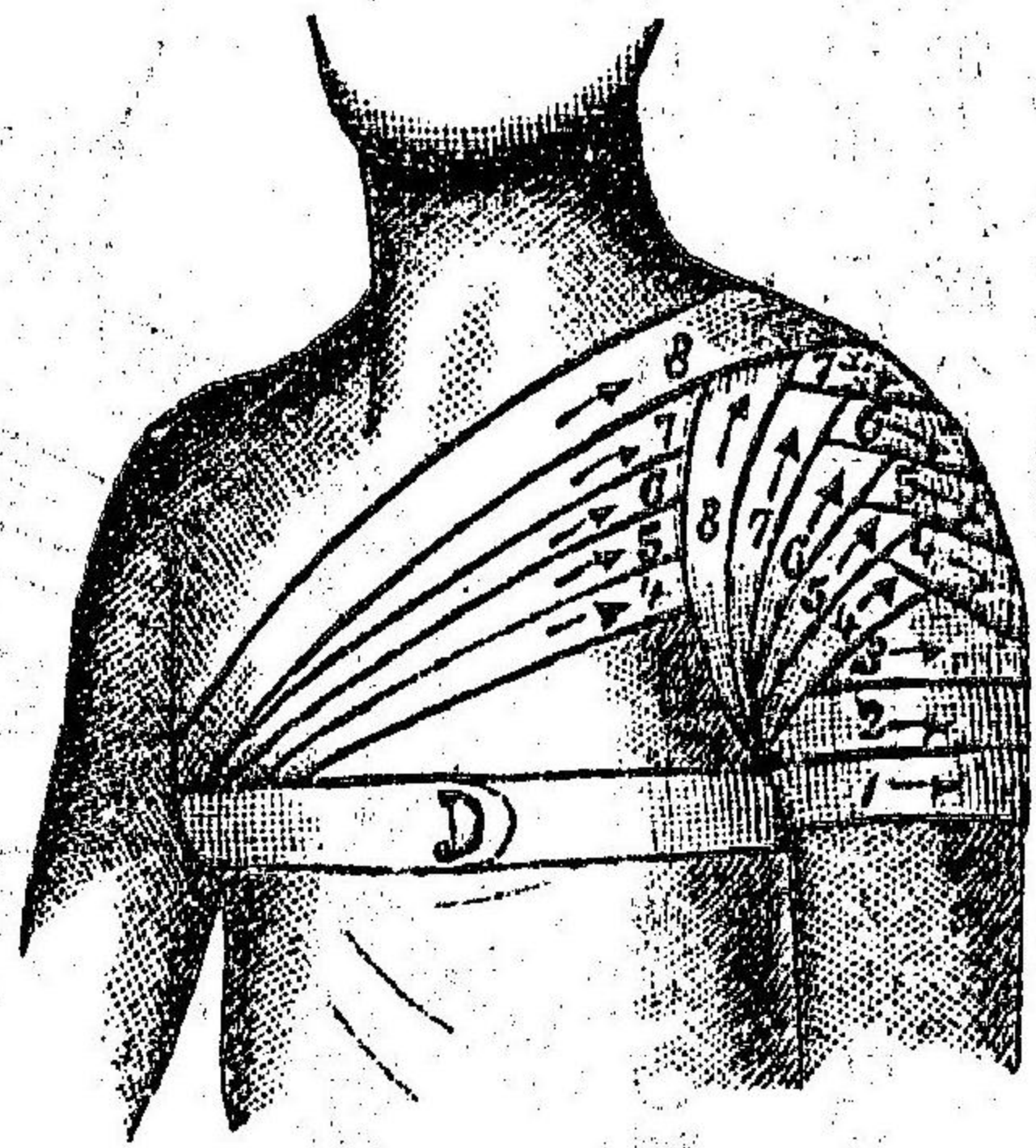
(三) 兩眼帶 ハ先ヅ偏眼帶ヲ以テ偏眼ヲ被ヒ次ニ同法ヲ以テ他眼ヲ被フベシ

○四肢ノ卷軸帶

(四) 上行上膊麥穗帶(第百二十二圖)上膊ノ環行○次ニ一二ノ螺旋行ニ肩ノ下部ヨリ他側ノ腋窩ニ至リ患側ノ肩ノ下ニ返リ同側腋窩ニ入り同側腋窩ヲ出デ再ビ肩ニ上リ更ニ他側ノ腋窩ニ至リ復タ肩ニ返ルコト前回ノ如ク相反覆シ○胸部環行ニテ完結ス

(五) 下行上膊麥穗帶 (第百二十三圖)胸部ノ環行○次ニ健側ノ腋窩ヨリ患側ノ肩ノ上部ニ至リ患側ノ腋窩ニ入り之レヲ出テ、肩ノ上部ニ復歸シ健側ノ腋窩ニ至ル之ヲ反覆シテ○上膊ノ環行若クハ胸部ノ環行ヲ以テ完結ス

第百二十二圖

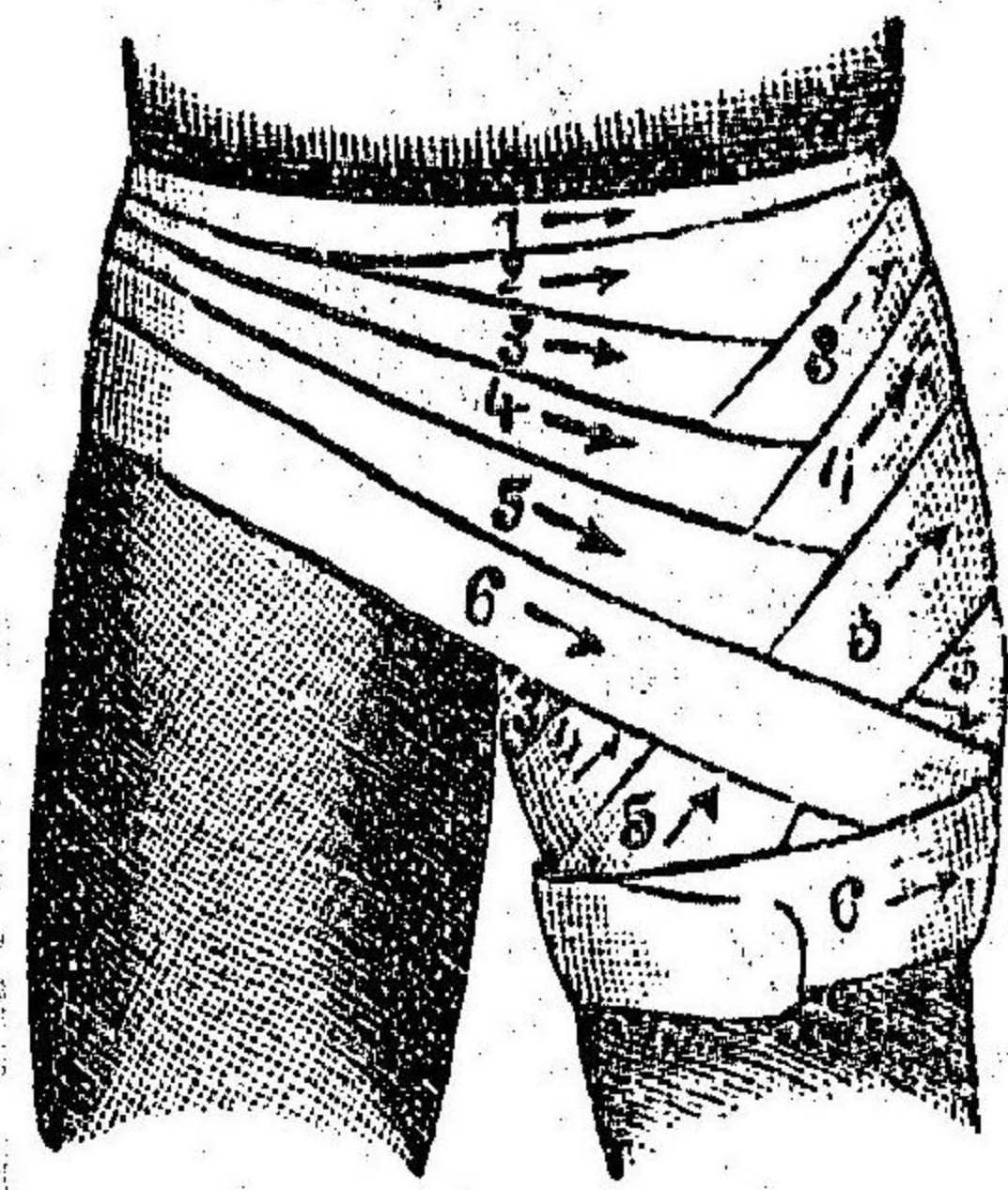


上行上膊麥穗帶

- (六) 上行股麥穗帶 (第百二十四圖) 大腿ノ環行○次ニ麥穗帶○腹部環行ニテ完結ス
- (七) 下行股麥穗帶 (第百二十五圖) 腹部環行次ニ麥穗帶○次ニ大腿ノ環行ニテ完結ス
- (八) 集合龜甲帶 (第百二十六圖) 下腿ノ環行○次ニ膝膕ヲ斜ニ通過シ大

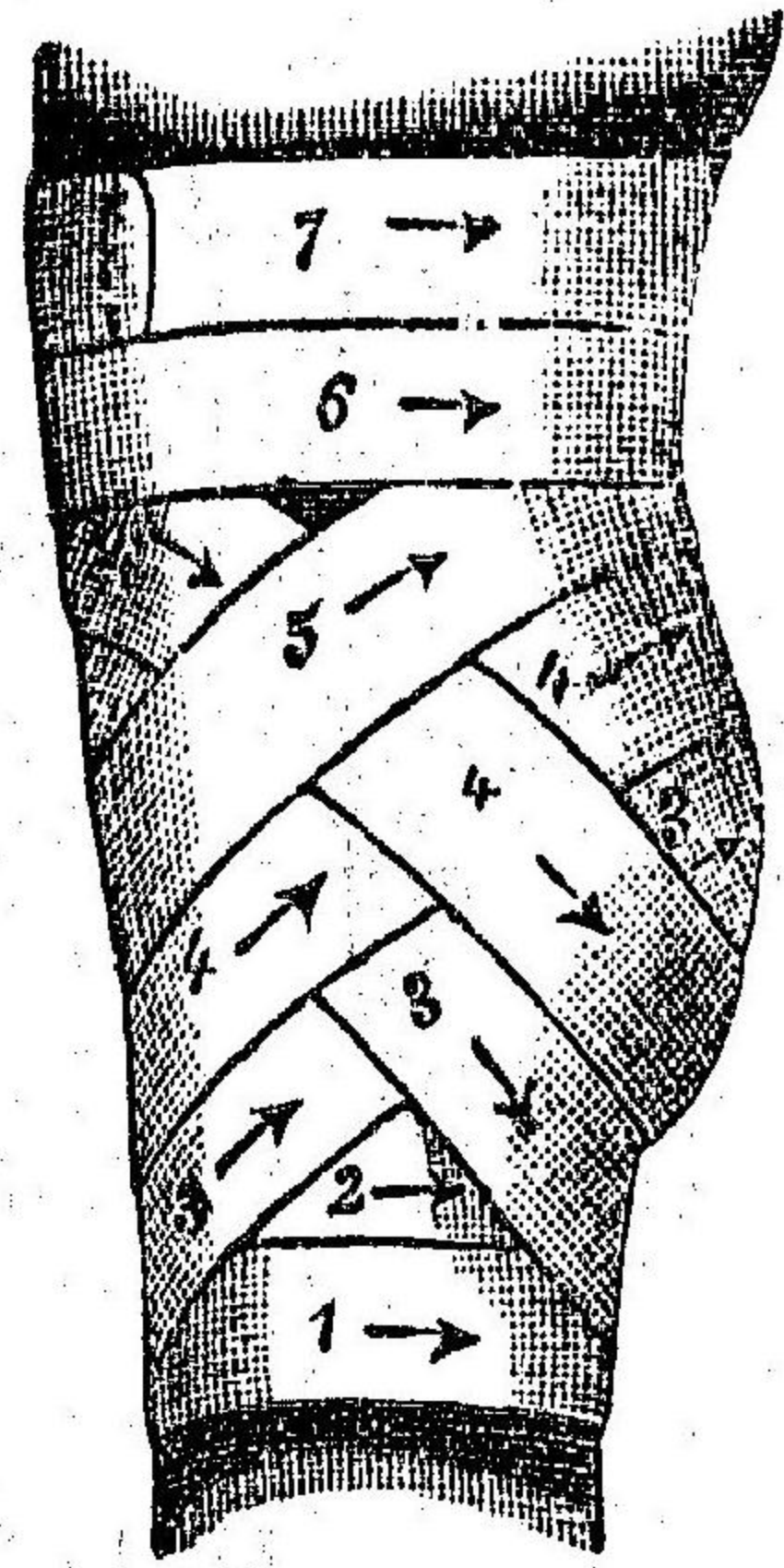
附錄 繙帶ノ用法

圖五十二百第



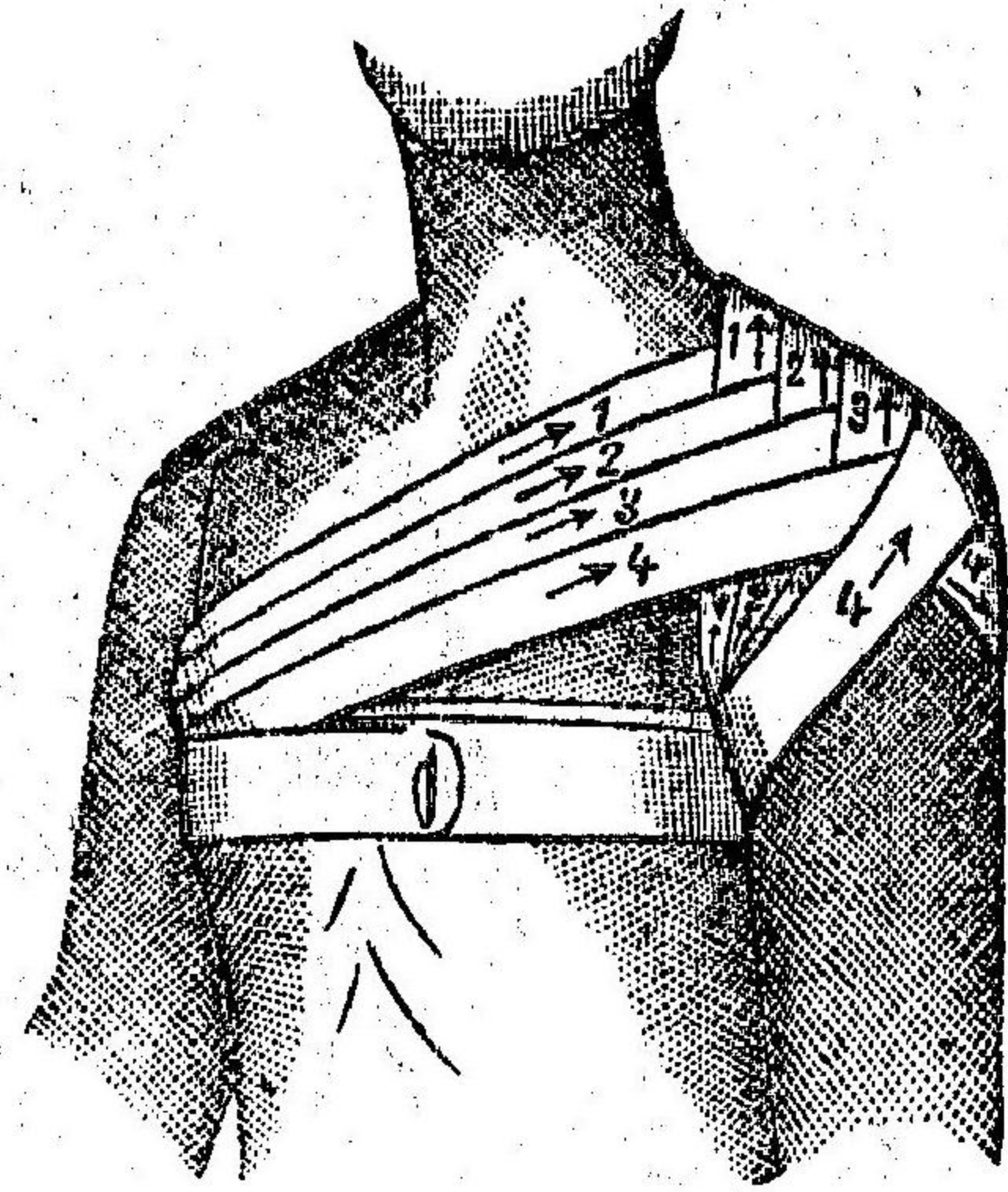
帶穗麥股行下

圖四十二百第



帶穗麥股行上

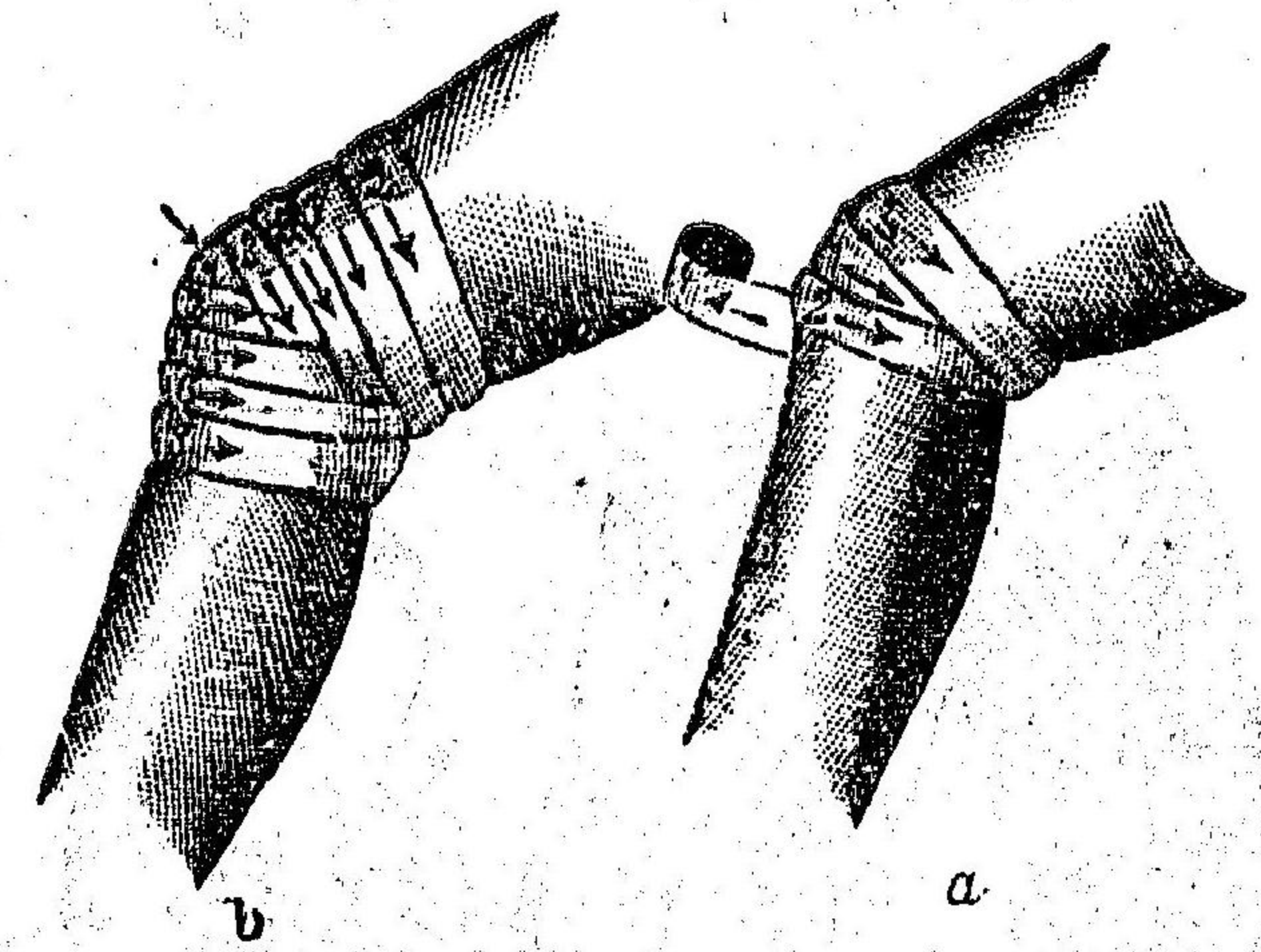
圖三十二百第



帶穗麥膊上行下

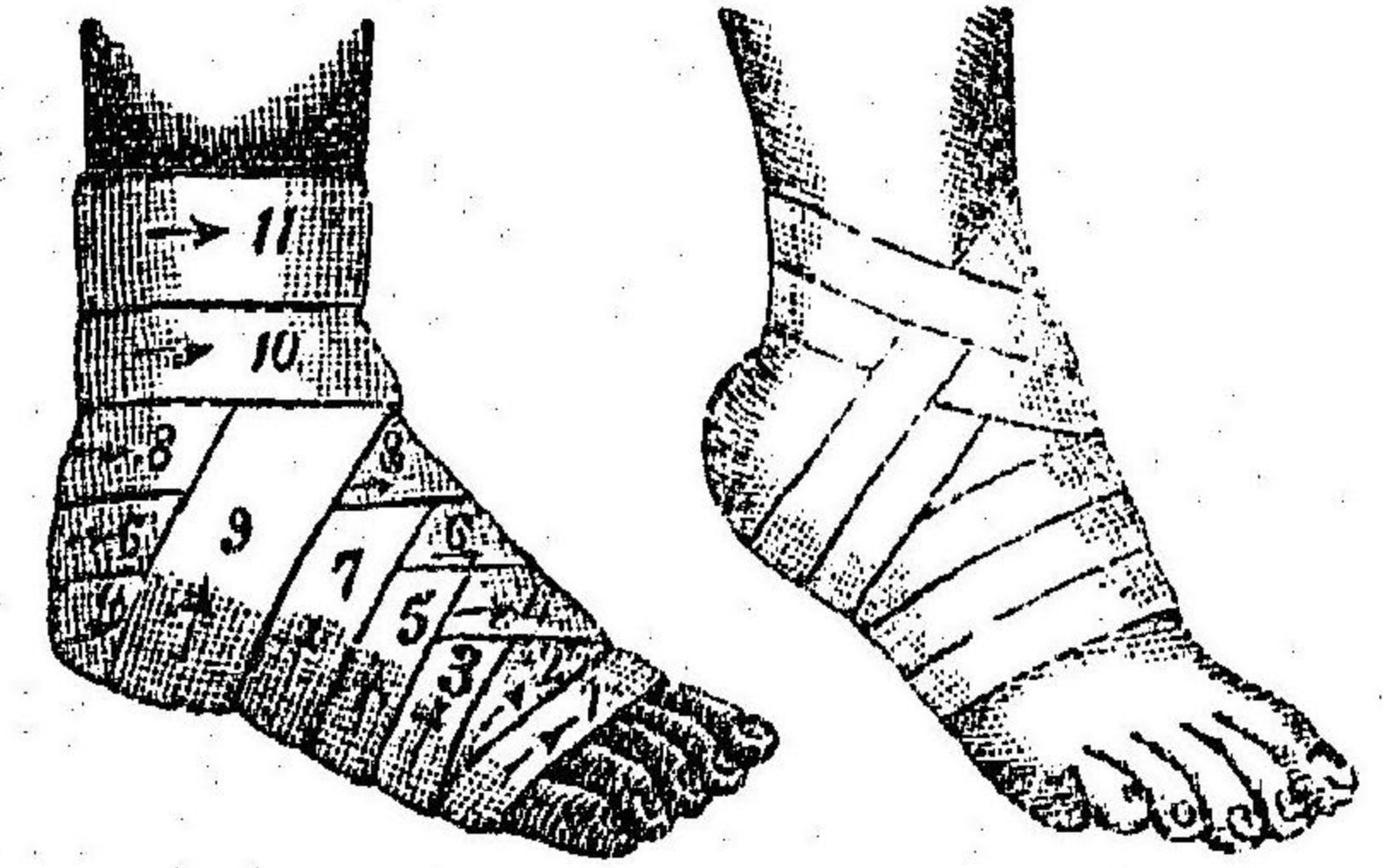
腿ニ至リ〇次ニ交互ニ膝ノ上下ヲ被ヒ〇膝ノ中央ニ於ケル環行ニテ完結ス  
 (九) 離開龜甲帶 (第百二十七圖) 膝ノ中央ニ環行ヲナス〇次ニ交互上下ニ龜甲帶大腿或ハ上腿ニテ完結ス  
 (十) 鏡狀帶(第百二十八圖)(イ) 趾ノ後方ニ環行〇次ニ斜轉或ハ斜行〇次

第 百 二 十 七 圖



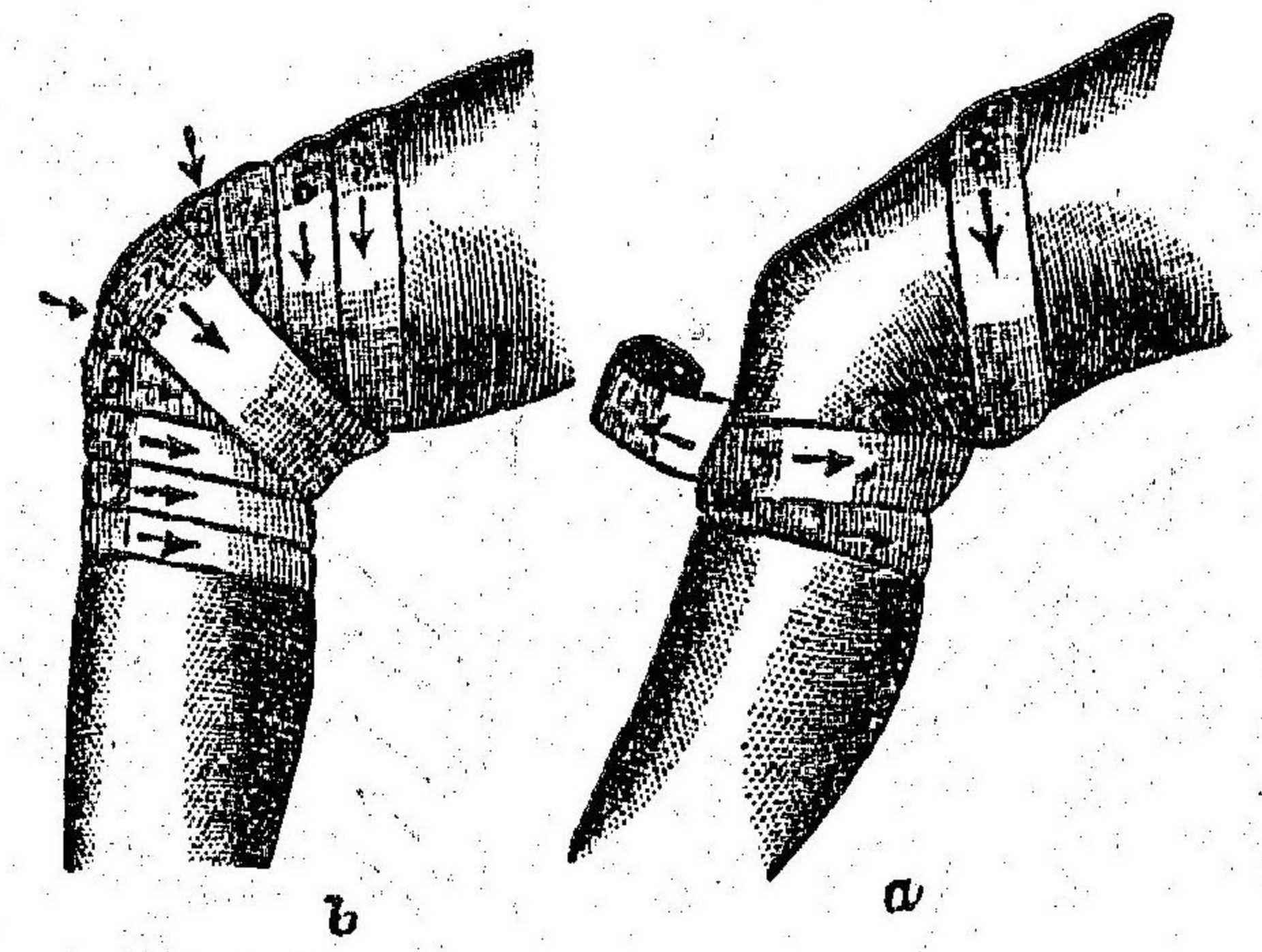
離 閉 龜 甲 帶

第 百 二 十 八 圖



鍙 狀 帶

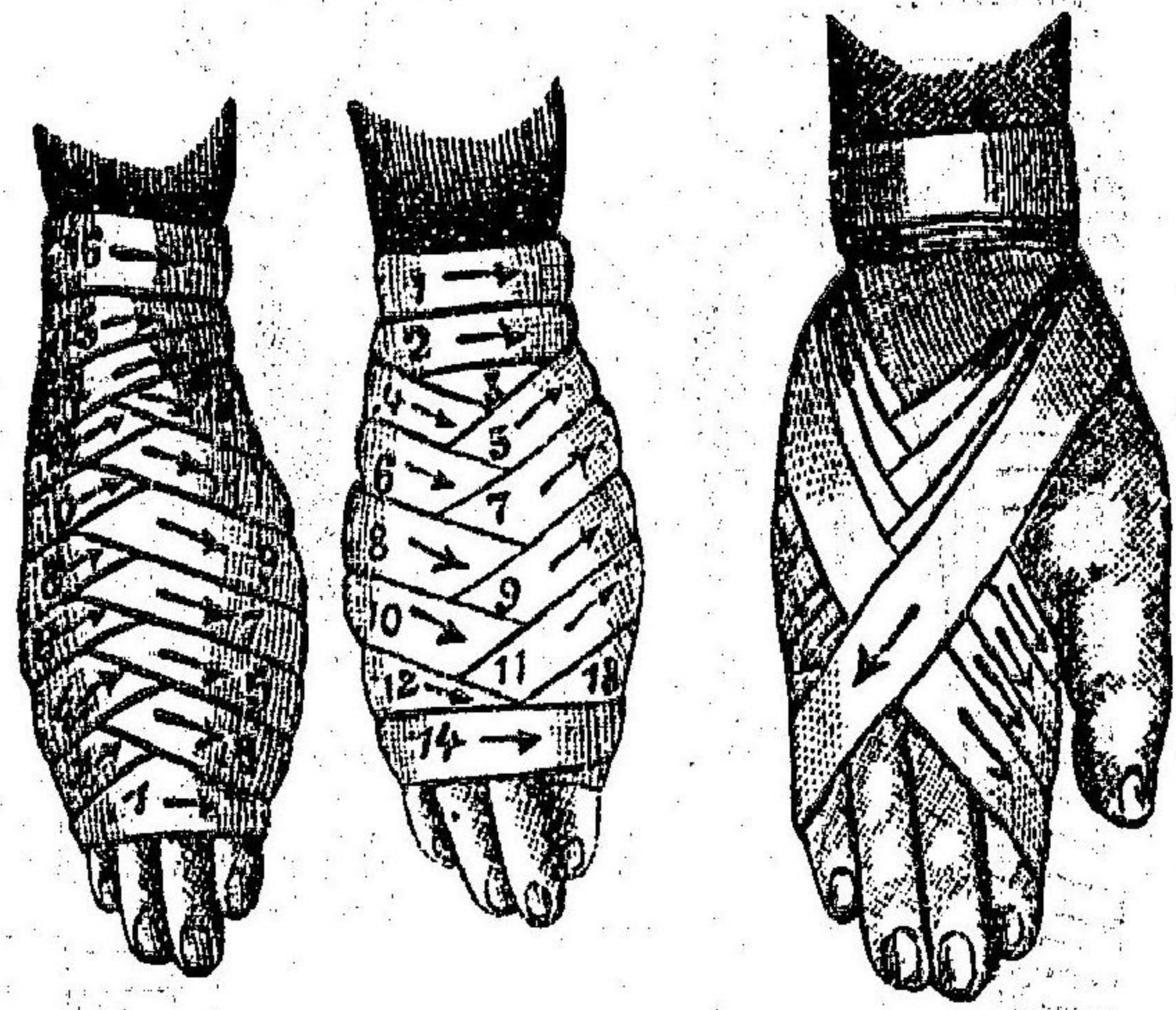
第 百 二 十 六 圖



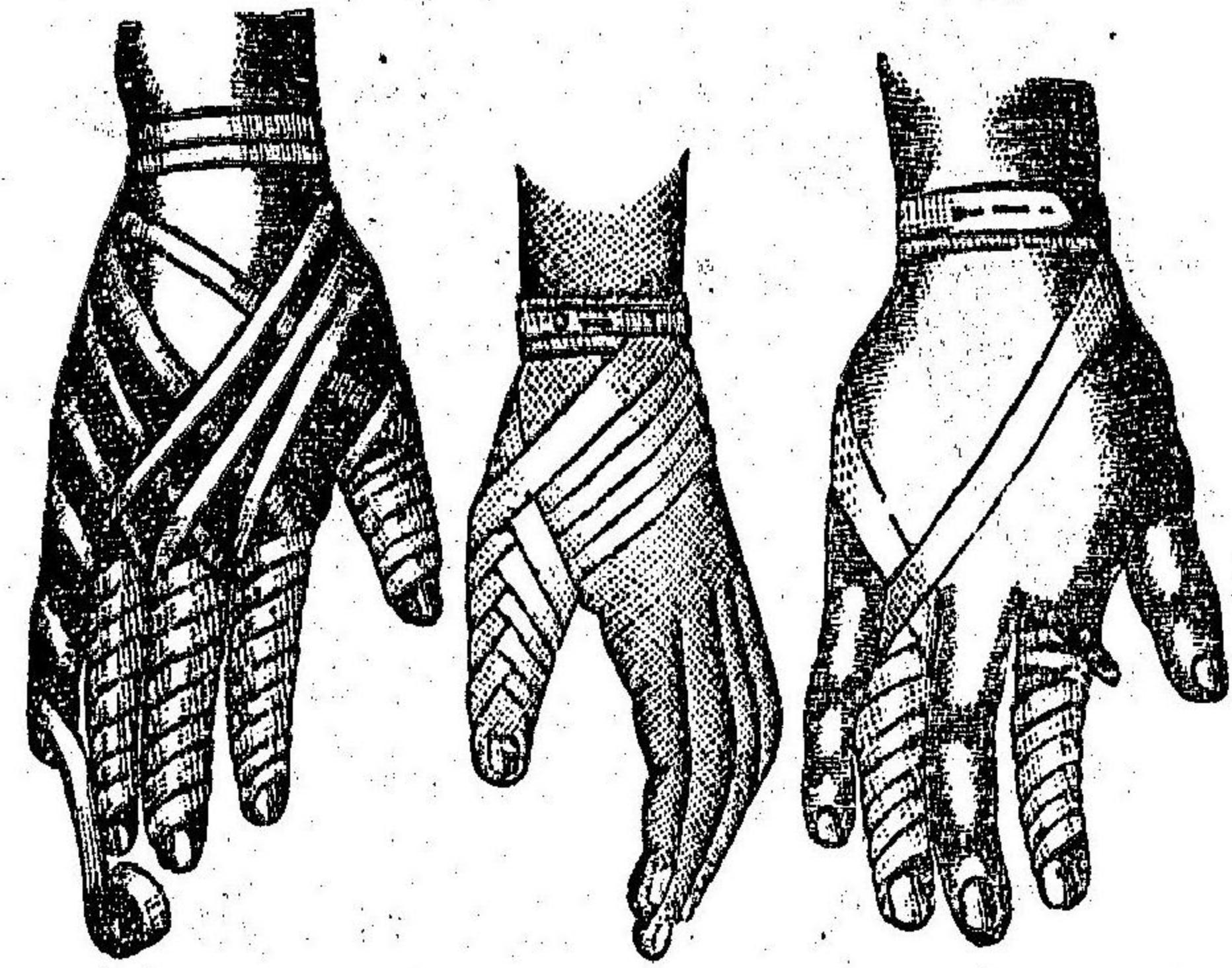
集 合 龜 甲 帶

圖一十三百第

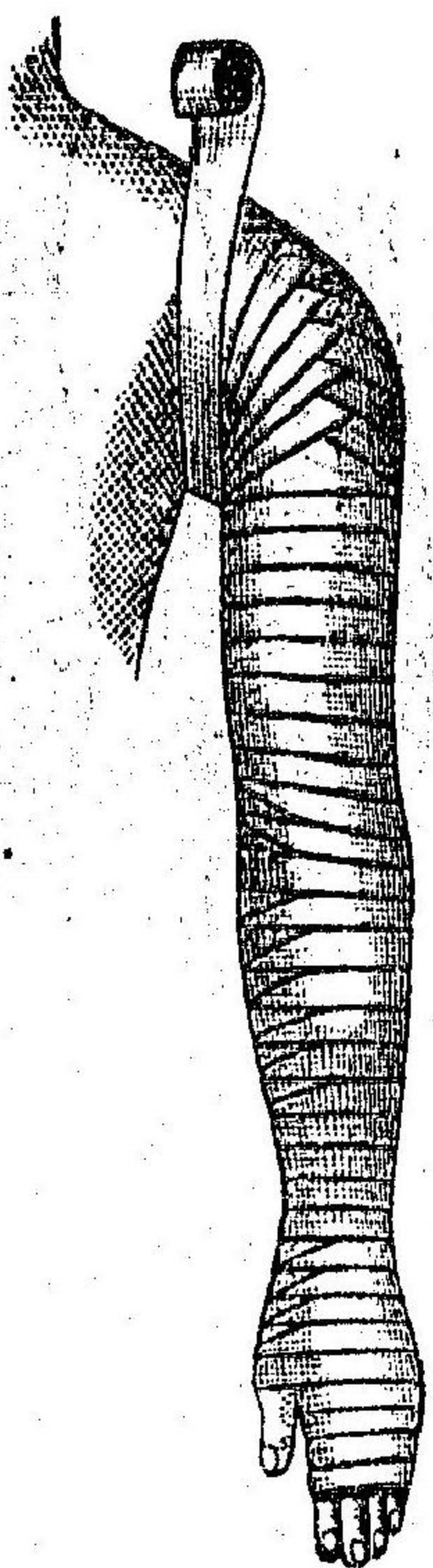
圖十三百第



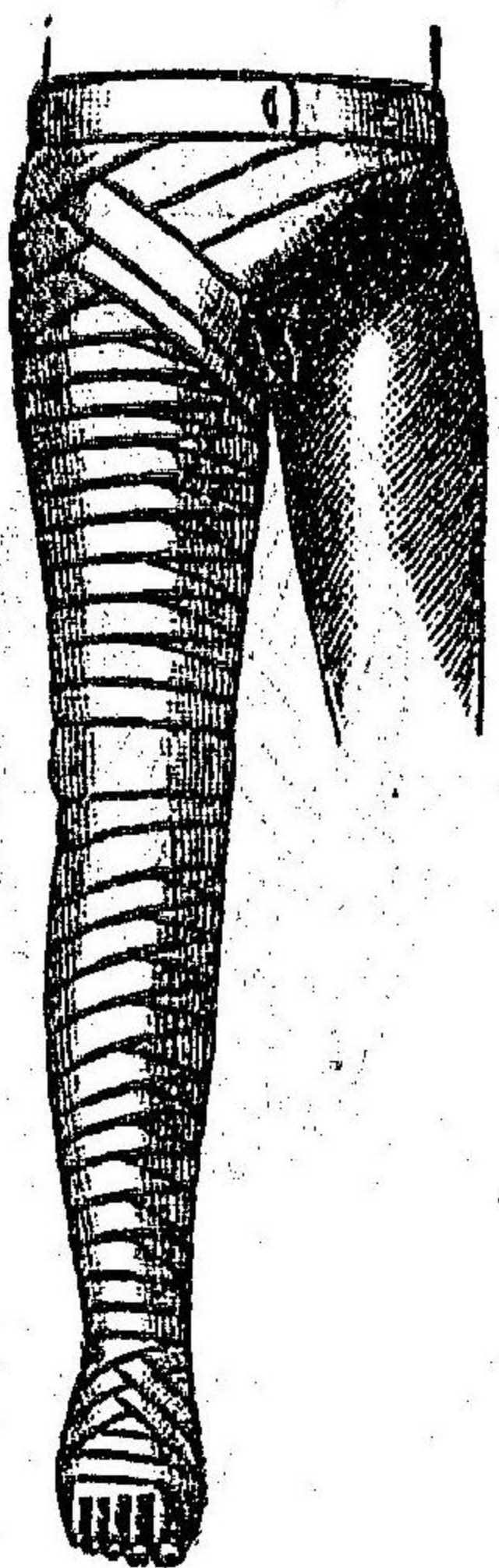
圖九十二百第



圖二十三第



圖三十三第



10110

ニ足ノ外縁ヨリ足背ヲ斜ニ内髁ニ達シ横ニ外髁ニ至リ斜ニ足背ヲ下リテ足ノ内縁ニ達シ横ニ足趾ヲ通過シテ足ノ外縁ニ至ルコト反覆○後下腿ノ環行ニテ完結ス○又腫部ニ被フニハ(ロ)ノ如クス其他ハ圖ヲ熟覽シテ自得スベシ

○乳房ノ卷軸帶

(十一)單提乳帶 (第百二十四圖)乳房ノ下方ニ環行○次ニ斜ニ乳房ノ下縁ヲ被ヒテ他側ノ肩ニ至リ腋窩ニ入り之レヲ出デ、肩ニ歸リ背ヲ經テ乳房ニ復歸スルコトヲ反覆ス但シ始メハ乳房ノ下縁次ハ上縁次ハ下縁後ニ乳房ヲ纏絡ス

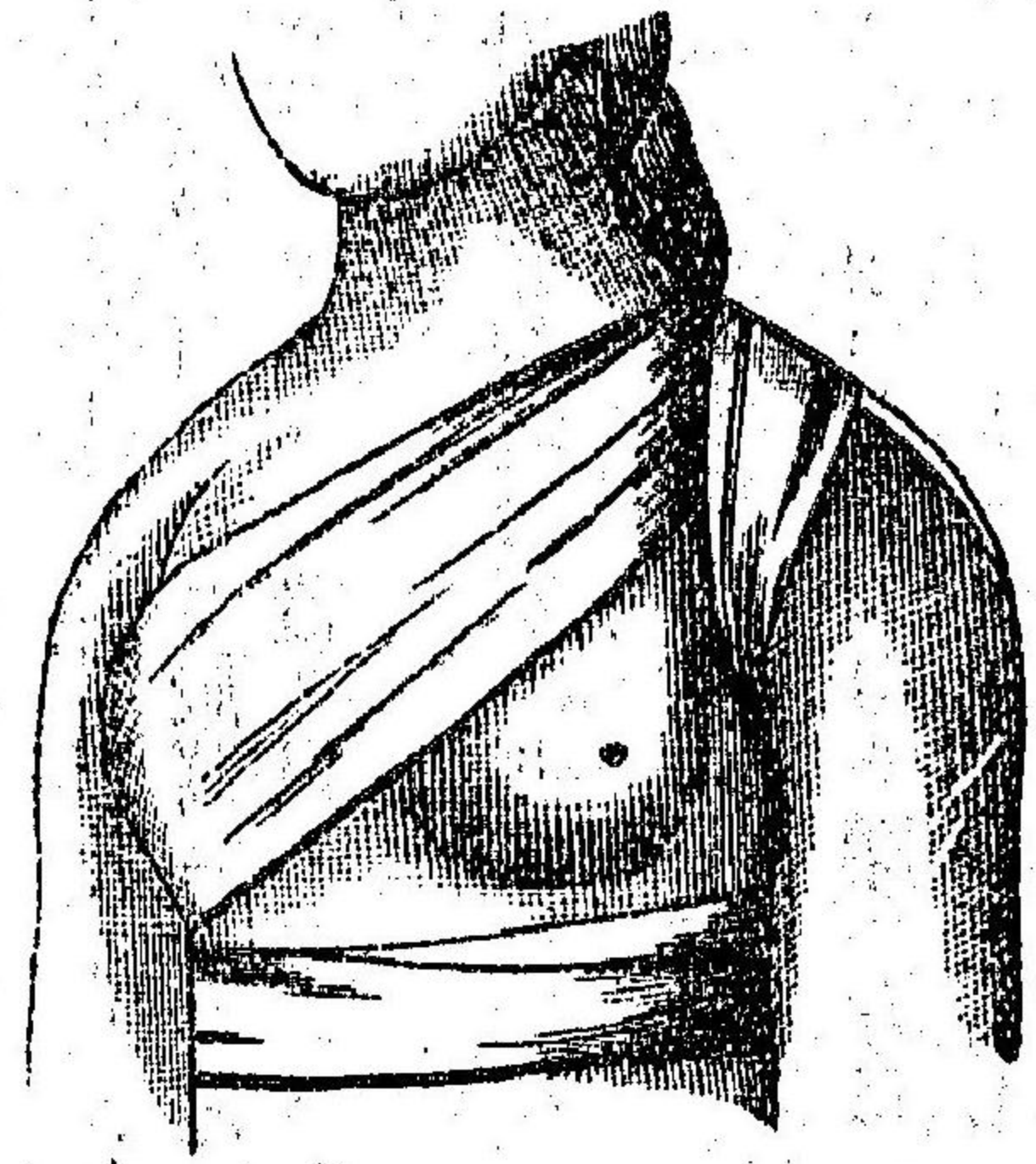
(十二)複提乳帶 單提乳帶ヲ各側ニ行フベシ

○(乙)繃帶巾或ハ繃帕

繃帶巾ヲ作ル法 四角巾ハ金巾ヲ探リ方形ニ裁チテ製ス○大三角巾ハ四角巾ヲ斜メニ二分シタルモノ、小三角巾ハ更ニ之レテ二分シタルモノナリ而シテ三角巾ハ左右ノ兩縁及ビ尖頂、下縁即チ基底ト尖尾即チ基



第 三 百 三 十 四 圖

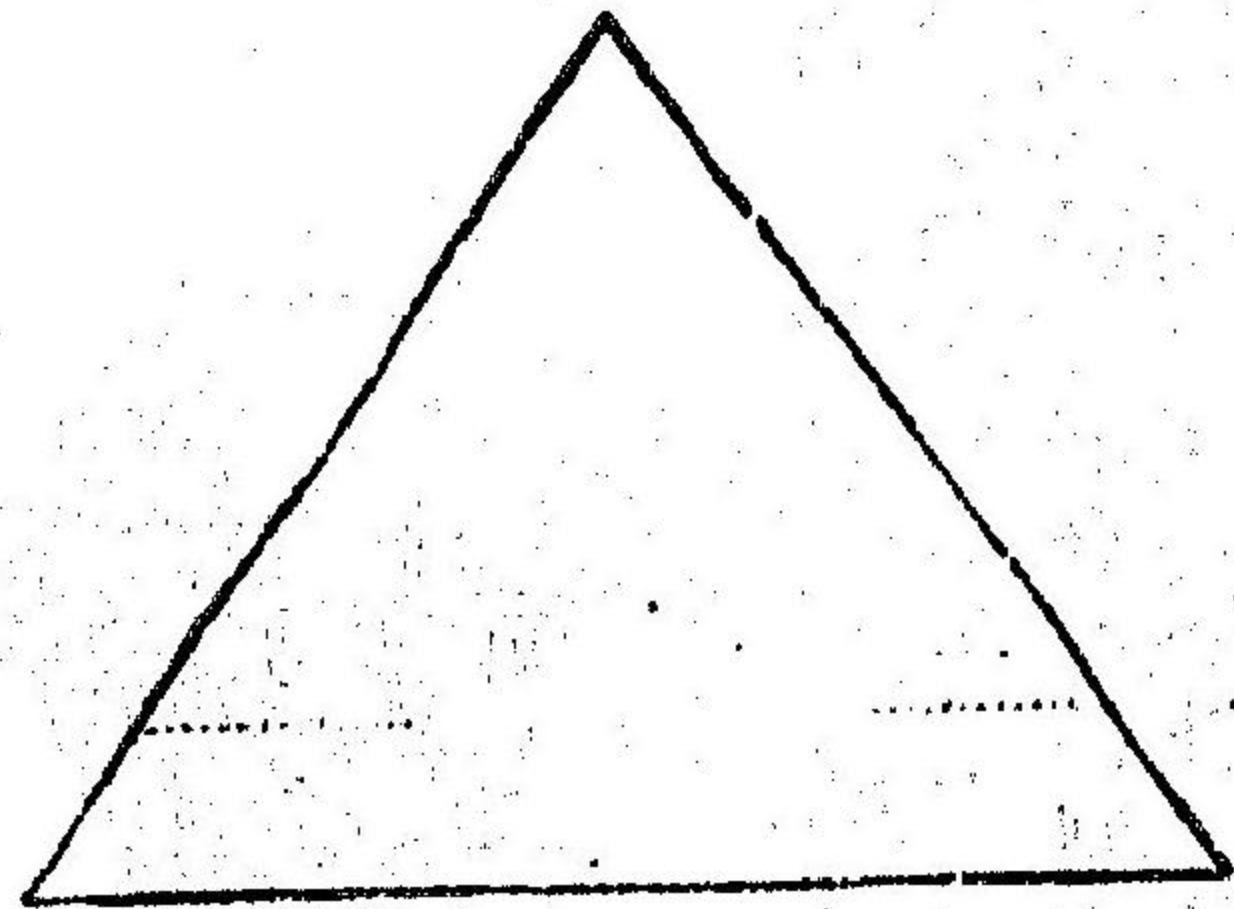


單 提 乳 帶

底ト線ノ相接スル點ヲ有ス(第百三十五圖)○頸巾狀帶トハ三角巾ヲ其  
尖頂ヨリ基底ニ向ヒ數回反折シテ巾ニ二三寸トナシタルモノヲ云フ○重  
複三角帶ハ第百三十五圖ノ點線ニ沿フテ一部ヲ切りタルモノヲ云フ  
三角巾ヲ疊ム法 基底ノ兩端即チ兩尖尾ヲ相重テテ小三角形トナシ○次

10111

第 三 百 三 十 五 圖



第 三 百 三 十 六 圖



小 頭 帽

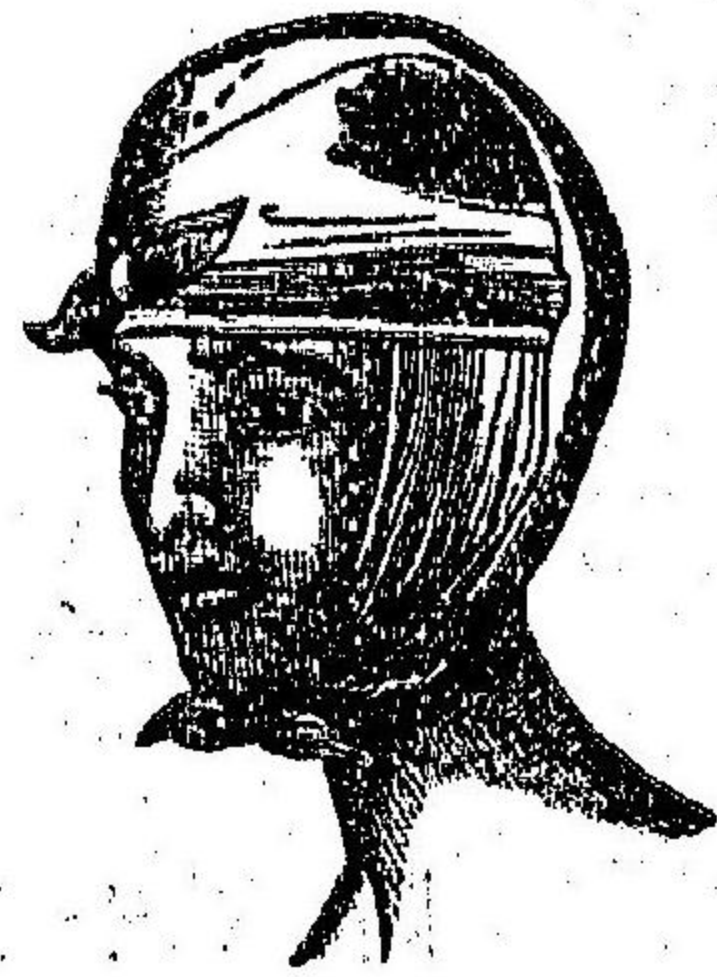
ニ此小三角形ノ兩尖尾ヲ各其尖頂ニ向テ反折シ四角形トナス○次ニ右  
ノ方形ヲ兩ツニ折リテ長方形トナシテ○次ニ此長方形ヲ更ニ二折シテ  
再タビ四角形トナシ○此四角形ヲ二ツニ折リテ長方形トナシ安全針ニ  
テ縫ヒ止ムベシ

附錄 縲帶ノ用法

10111

(一)小頭巾 (第三百二十六圖)又小頭帕ト稱ス三角巾ノ下縁ノ中央ヲ前額ニ當テ尖頂ヲ頂ニ垂レ其尖尾ヲ耳上ヲ經テ後頭ニ送り左右相交又シ前額ニ至ラシメテ之ヲ結合ス○其尖頂ハ上方ニ翻轉シ頭上ニ於テ安全針ニテ固定ス

圖七十三百第



大頭巾

(二)大頭巾 (第三百二十七圖)又大頭帕ハ重複三角巾ヲ採リ其底ノ中央ヲ前額ニ當テ尖頂ヲ頂ニ垂レ兩尖尾ヲ耳上ヲ經テ後頭ニ送り相交又シテ之ヲ前額ニ於テ結合ス○側方ニ驅垂セル兩端ヲ頤下ニテ結ブ○次ニ尖頂ヲ翻轉シ頭上ニ安全針ヲ以テ固定スベシ

(三)提頸帶 (第三百二十八圖)提頸帶投石帶又下頸帶ト稱ス重複三角巾ヲ

採リ其上部三角形ノ部ヲ反折シテ頸巾狀トナシ其中央ヲ頤下ニ當テ兩端ヲ頭上ニ於テ結ブ○次ニ殘リノ兩端ハ之ヲ頂部ニ送り交叉セシメ前方頭上ニ結合ス

圖八十三百第



提頸帶

(四)四角頭巾 (第三百二十九圖)ハ又四角頭帕ト稱ス四角巾ヲ折リテ二葉トナシ分葉ハ下葉ヨリ狭キコト約十仙迷トナシ之ヲ頭上ニ載セ下葉ノ前縁ヲ鼻縁上ニ上葉ノ前縁ヲ眉上ニ當テ○次ニ上葉ノ兩尖端ヲ頤下ニ於テ結ビ○次ニ下葉ノ前縁ヲ翻轉シテ其兩端ヲ後方ニ牽引シテ後部ニ於テ結ブベシ

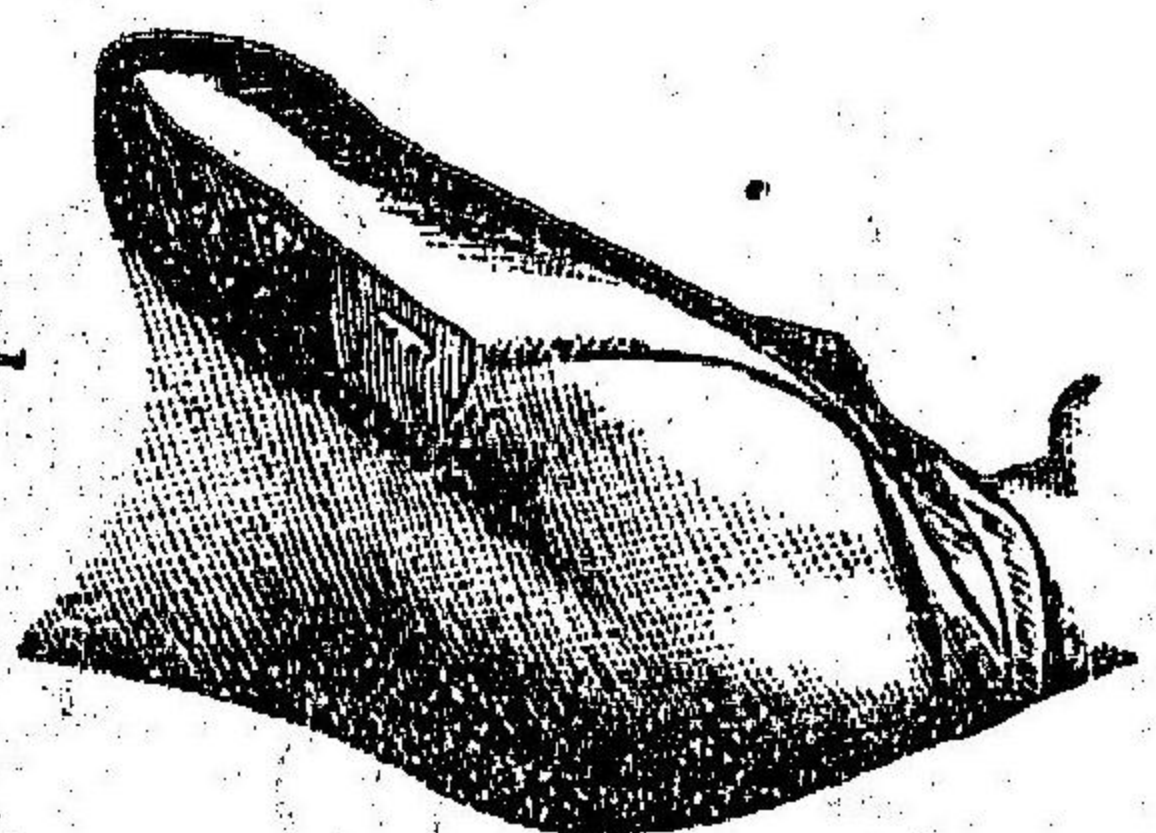
第百三十九圖



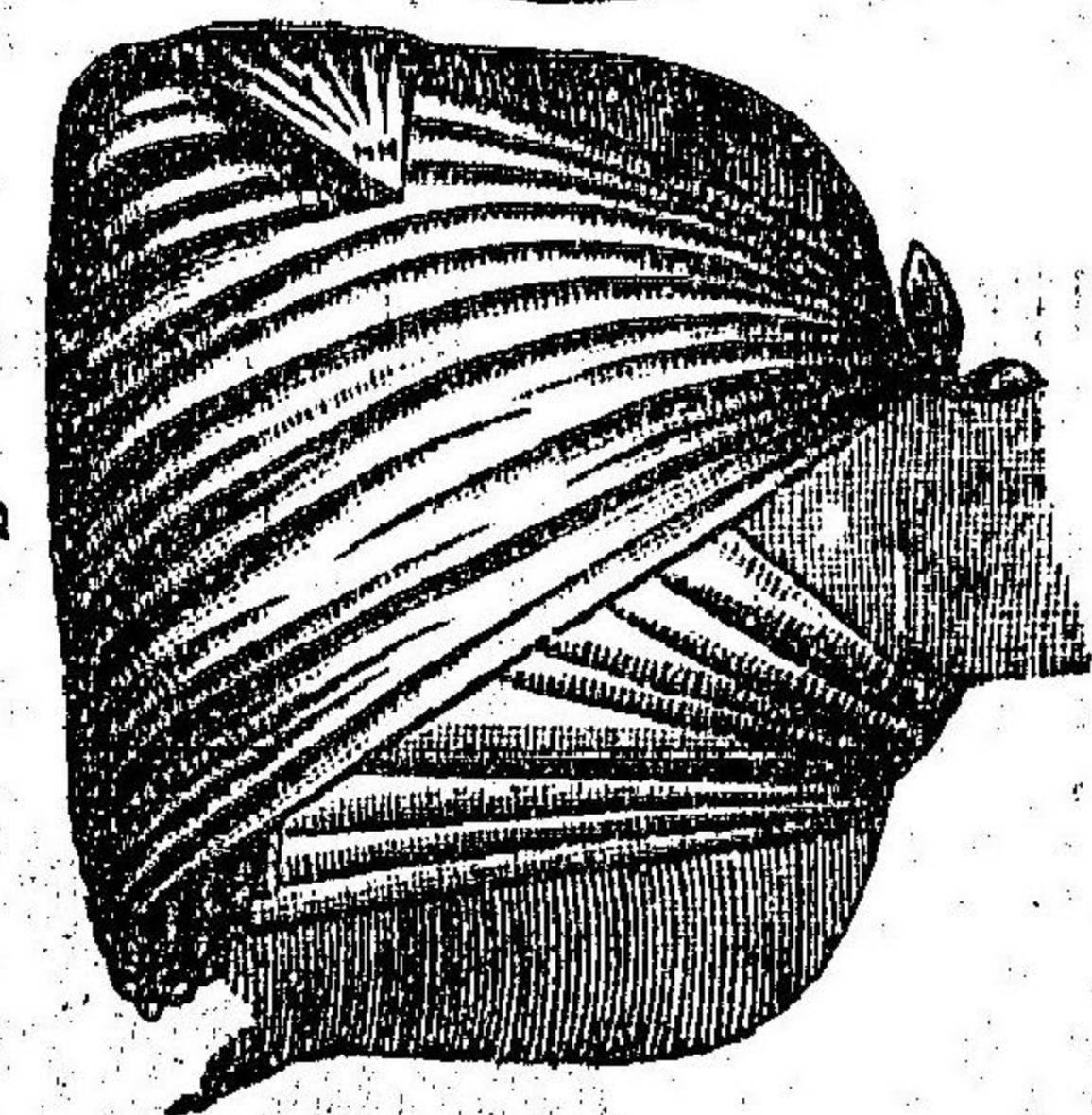
(五) 擔布 (第百四十圖) ハ一尖尾ヲ探リテ健側ノ肩上ヲ越エテ背部ニ垂レシメ○他ノ尖尾ヲ胸前ニ垂レ患側ノ肘關節ヲ直角ニ屈曲シ前膊ヲ三角巾ノ中央ニ當テ尖頂ヲ背後ニ餘スコト一寸五六分○故ニ前面ニ垂レタル尖尾ヲ患側ノ肩ニ送リ○次ニ背部ニ垂レタル尖尾ト肩止ニテ結合ス○次ニ尖頂ヲ前方ニ翻轉シ安全針ヲ以テ固定ス

其他三角巾ハ頸巾狀帶トナシテ諸種ノ卷軸帶ニ代用シ又反折スルコトナクシテ諸種ノ復帶ニ應用スルコト次ノ圖ニ就テ見ル可シ

第百四十圖



布



擔

圖五十四百第

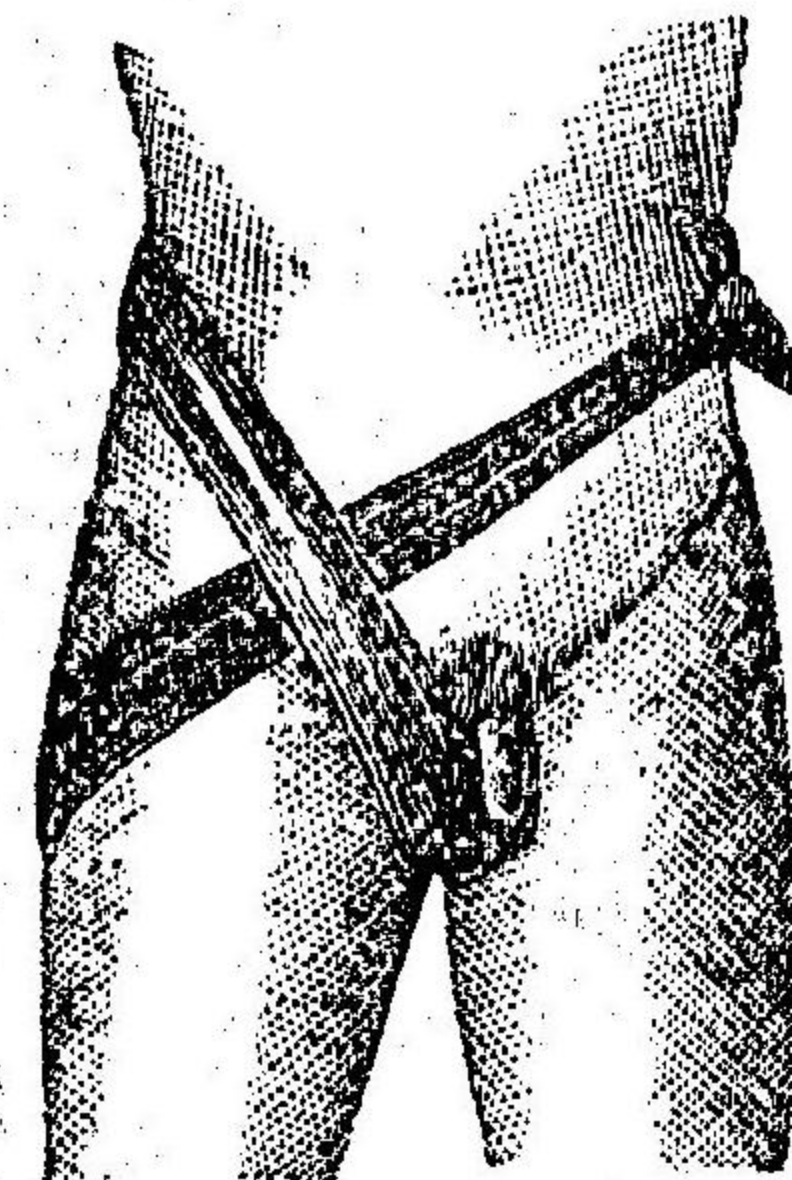


圖六十四百第

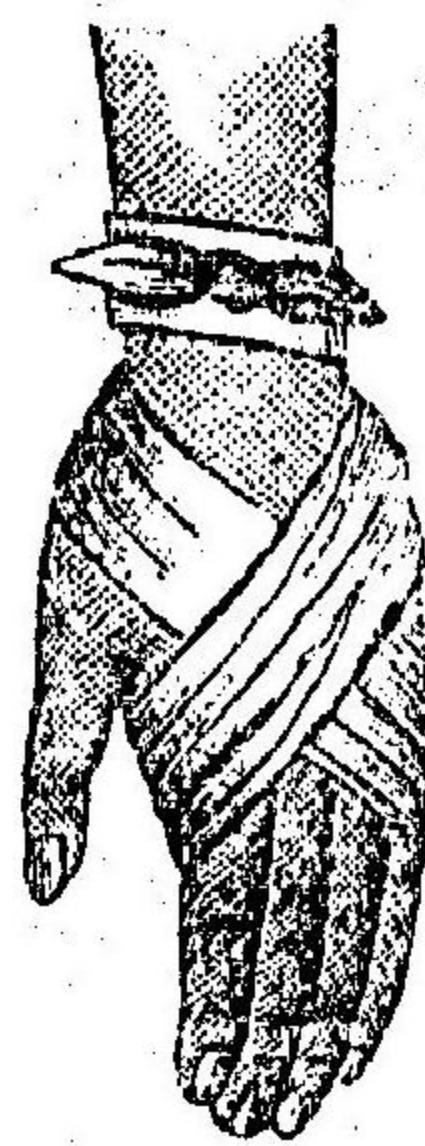


帶角四部頭

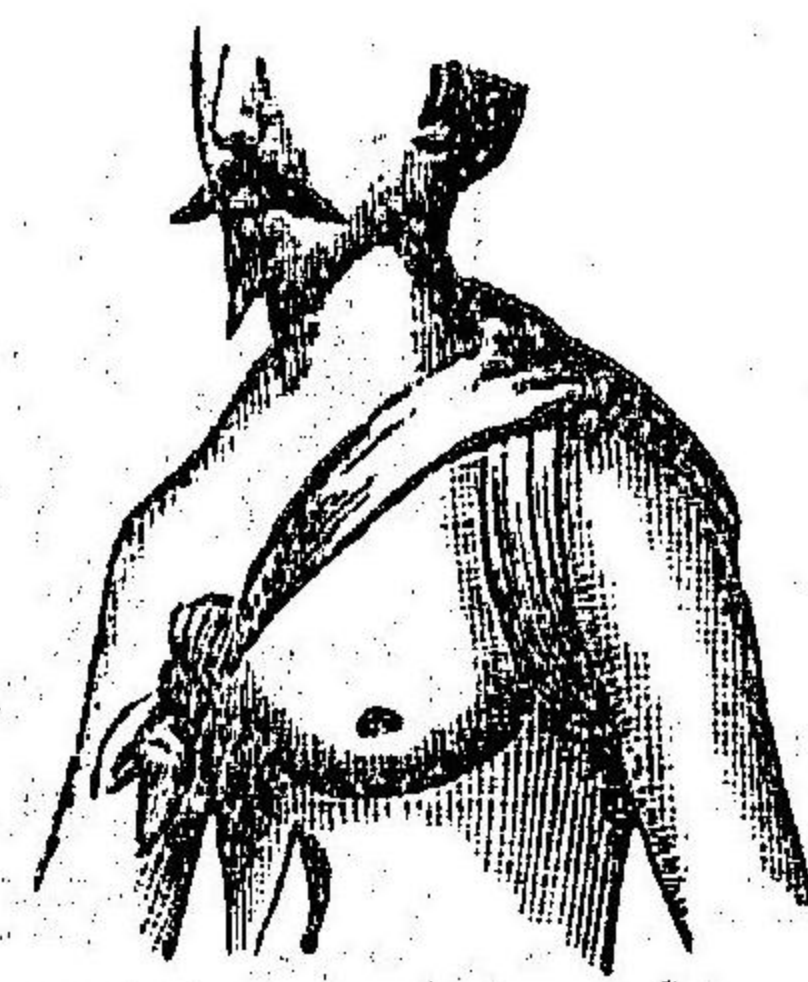
圖三十四百第



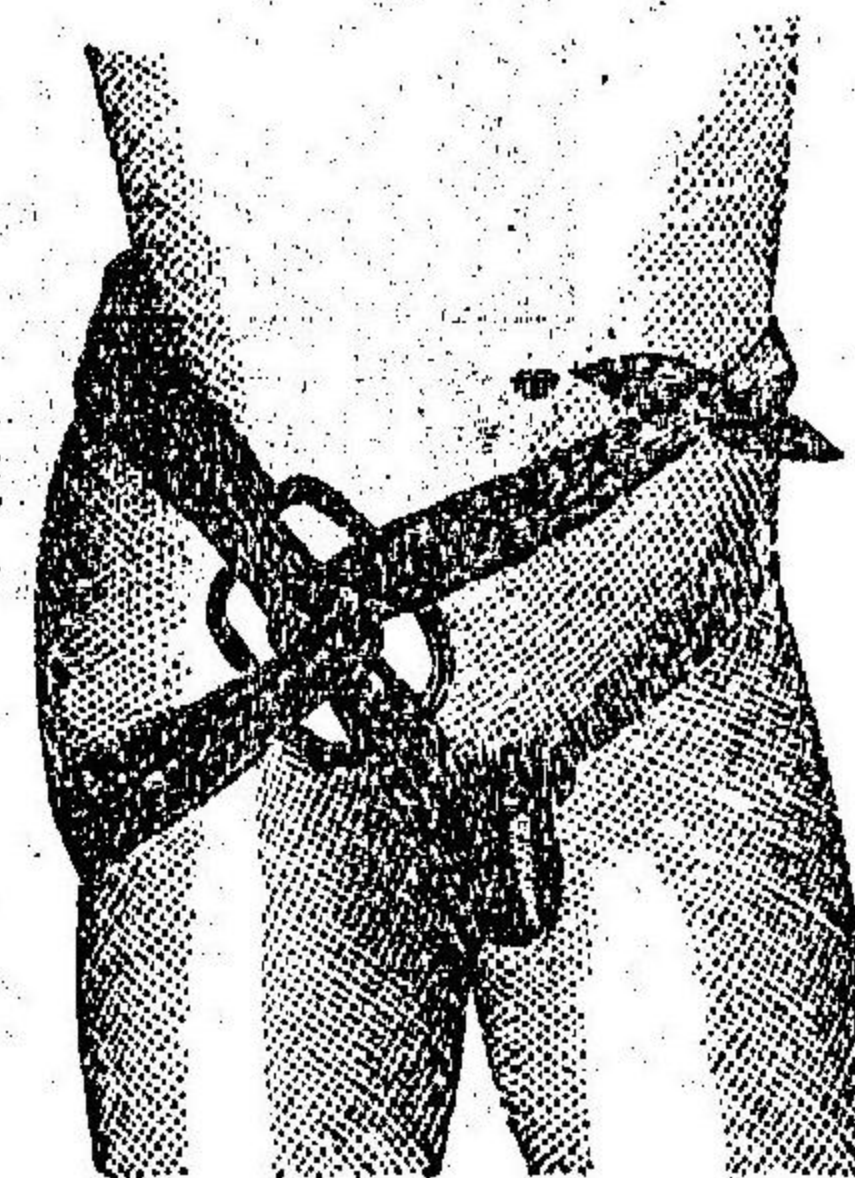
圖四十四百第



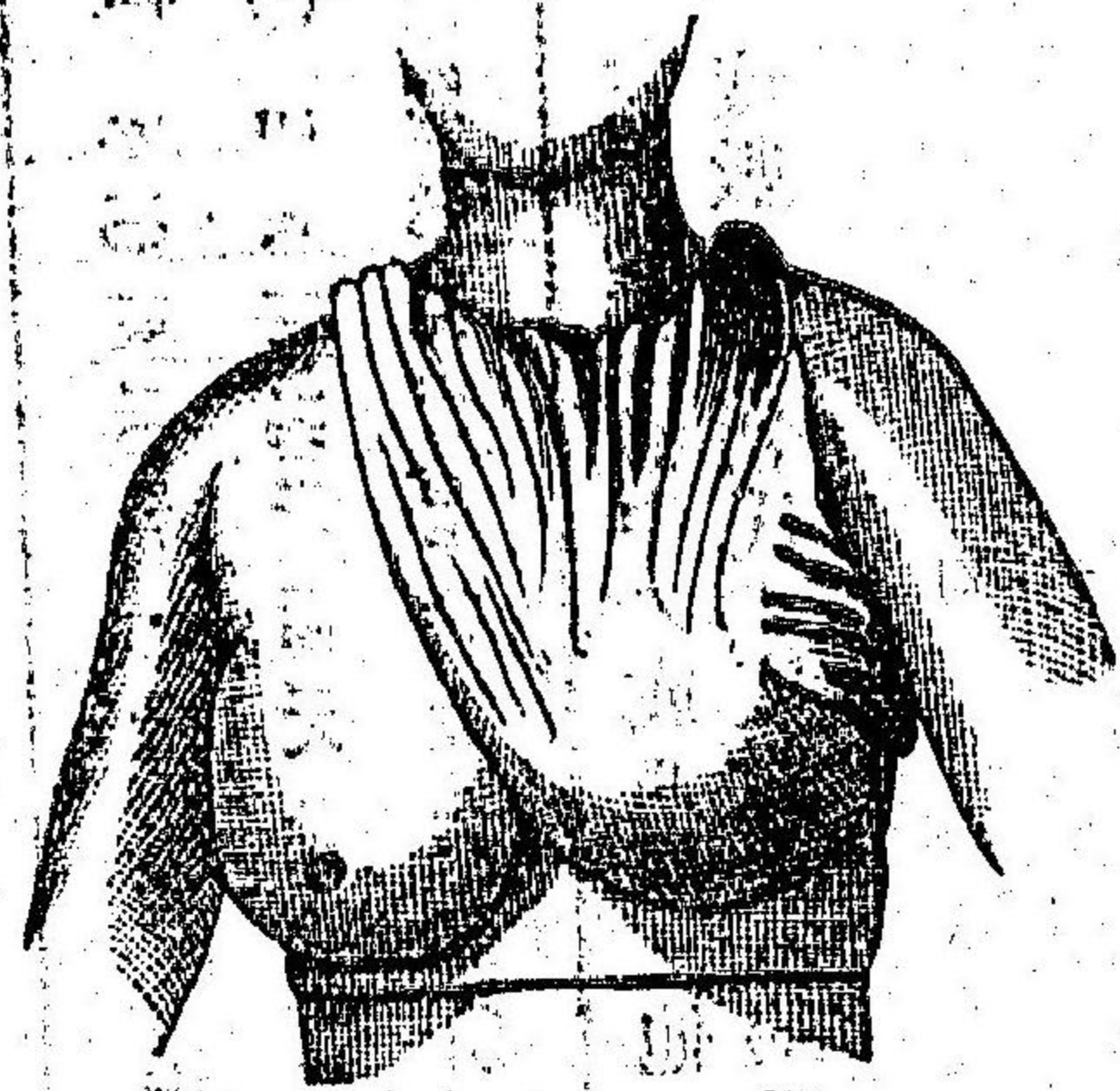
圖一十四百第



圖二十四百第



第四百九十九圖



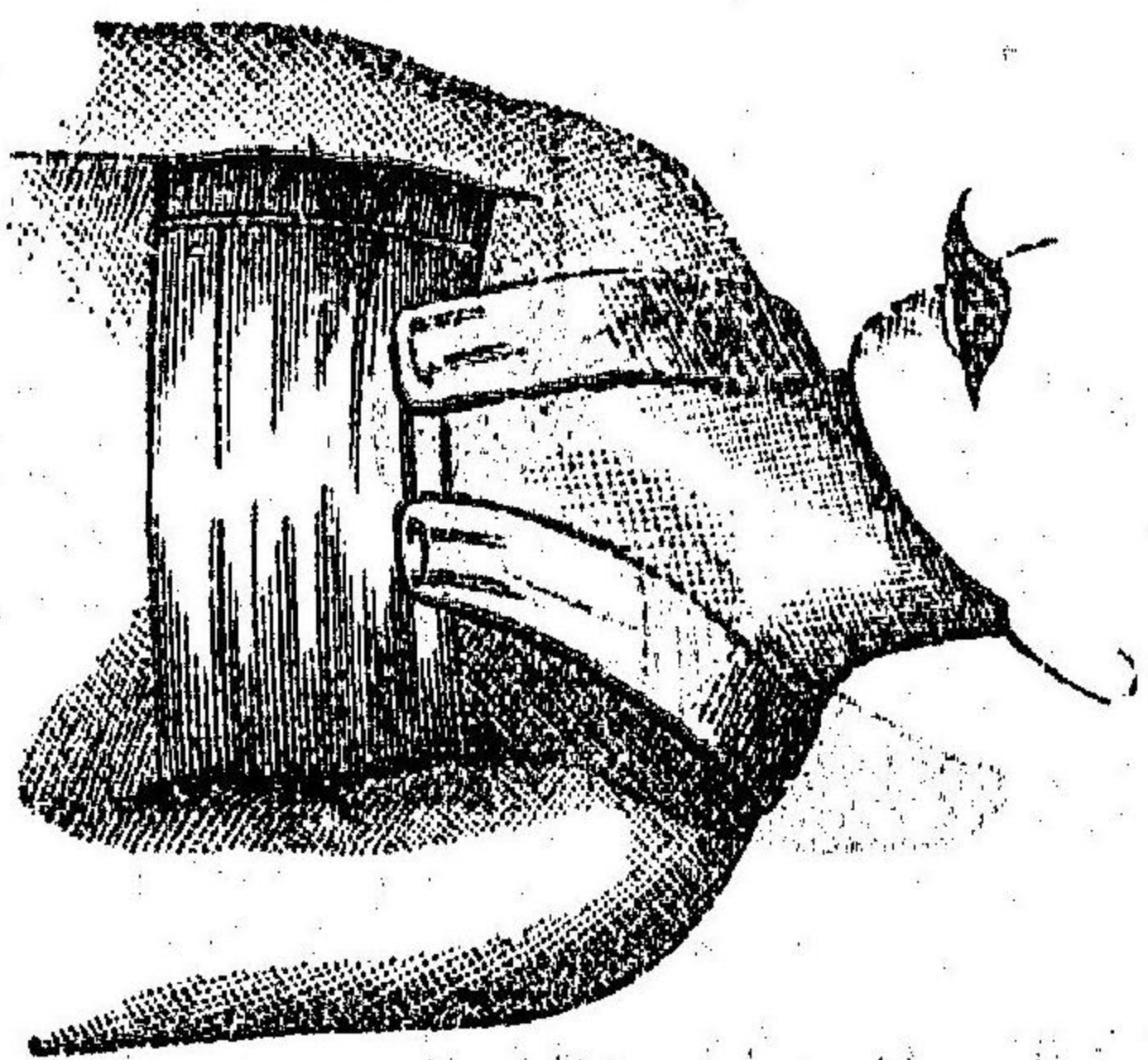
第五百一十一圖



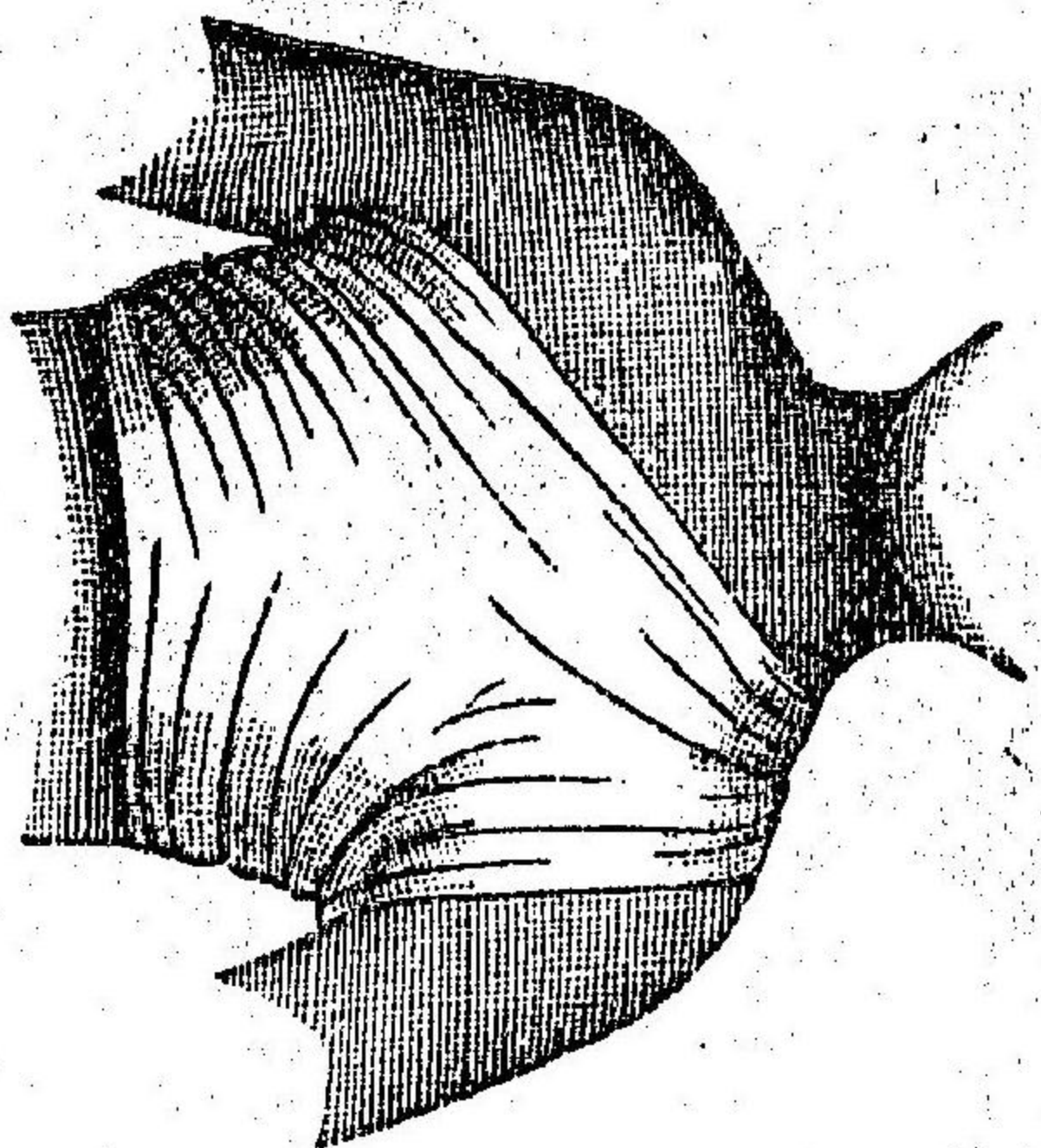
第五百十五圖



第四百八十八圖



第四百七十七圖



○第四十六章 溫度比較表

C ハ攝氏 R ハ列氏 F ハ大華氏

|   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| C | 0  | 5  | 10 | 15 | 20 | 25 | 30 | 35 | 40 | 45 | 50 |
| R | 0  | 4  | 8  | 12 | 16 | 20 | 24 | 28 | 32 | 36 | 40 |
| F | 32 | 37 | 41 | 45 | 49 | 53 | 57 | 61 | 65 | 69 | 73 |

三氏驗溫器中ノ或ル度ヲ他ニ換算スルノ方式ハ左ノ如シC ハ攝氏ノ  
 度數R ハ列氏ノ度數F ハ華氏ノ度數ナリ

$$C = \frac{5}{4}R$$

$$C = \frac{5}{9}(F - 32)$$

$$R = \frac{5}{4}C$$

$$R = \frac{4}{9}(F - 32)$$

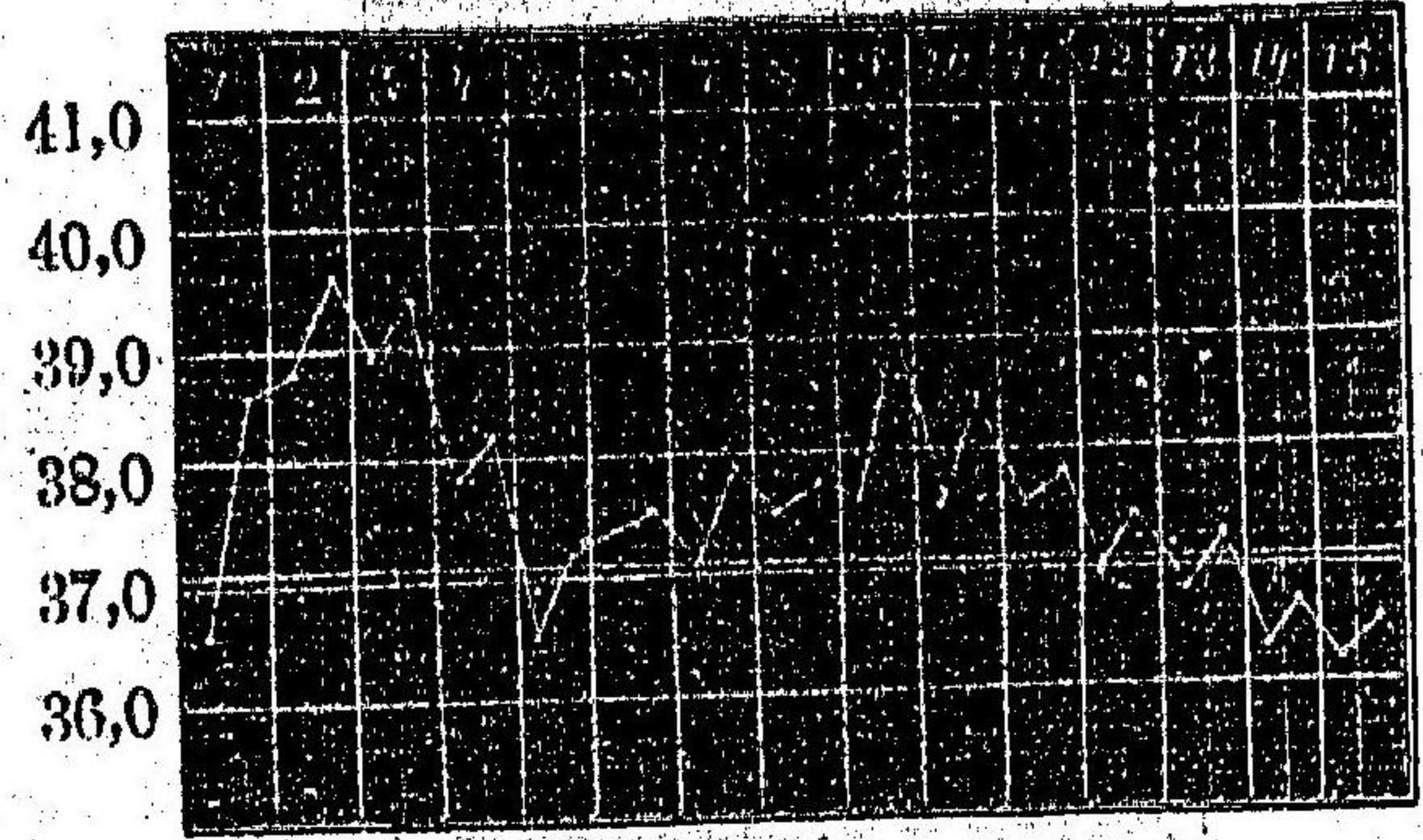
$$F = \frac{9}{4}C + 32$$

$$F = \frac{9}{4}R + 32$$

○第四十七章 熱ノ定型附表

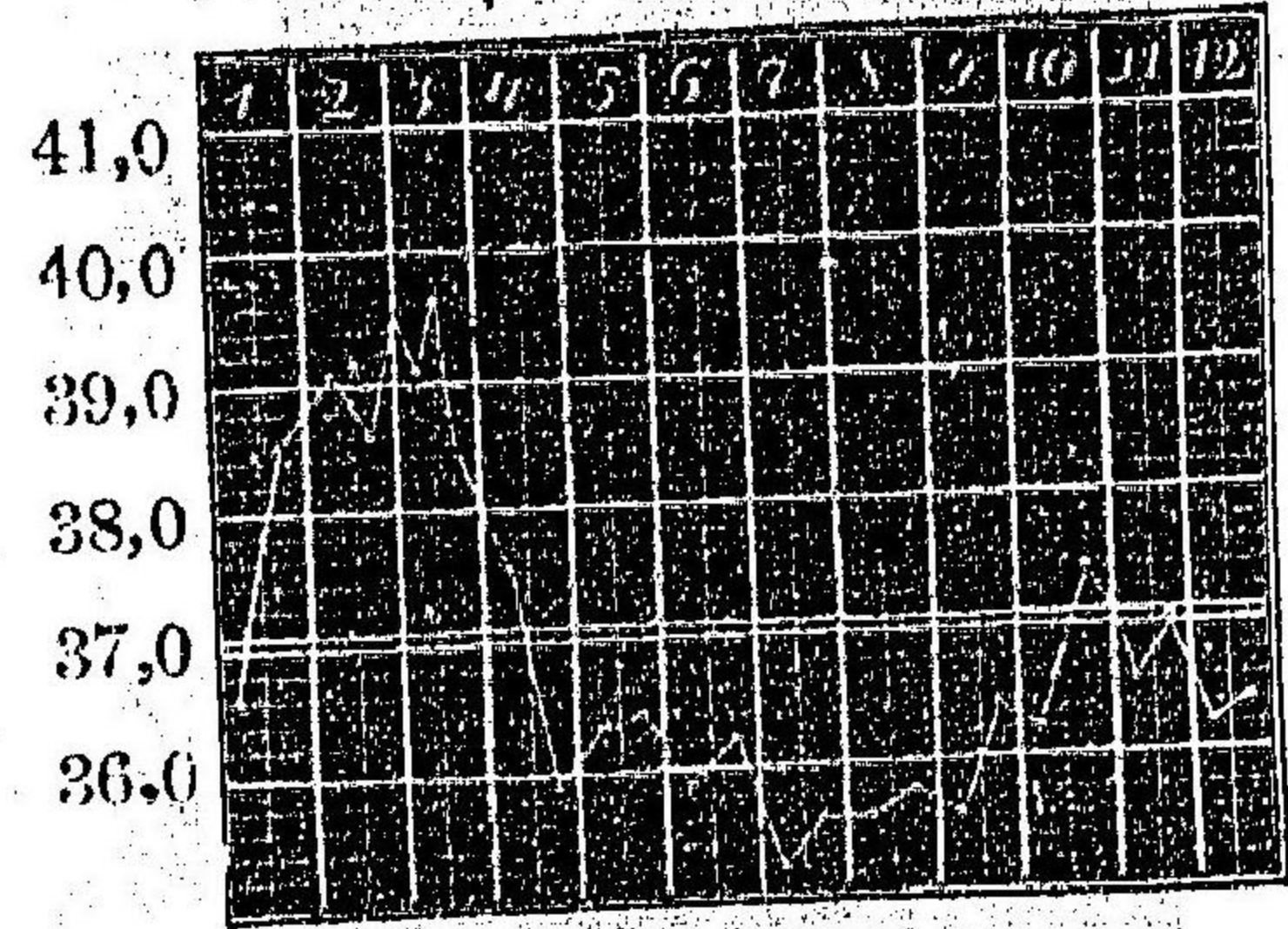
- (一) 常溫 Normale Temperatur 攝氏三七・〇乃至三七・五度
- (二) 亞熱溫 Subfebrile Temperatur 攝氏三七・五乃至三八・〇度
- (三) 熱性溫 Febrile Temperatur (イ) 微熱 Leichtes Fieber 攝氏三八・〇乃至三八・五度 (ロ) 輕熱 Massiges Fieber 朝三八・五乃至三九・〇度 夕三九・五度 (ハ) 劇熱 Beträchtliches Fieber 三九・五乃至四〇・五度 (ニ) 高熱 Sehr Hohes Fieber 朝四〇・五乃至四一・五度 (ホ) 過熱溫 hyperpyretische Temperatur 四〇・五度以上一日内ニ於ケル體溫昇降ノ度ニ從ヒ熱ノ定型ヲ四種ニ區別ス
- (一) 稽留熱 Febris continua 痘瘡、肺炎、窒扶斯ノ極期ニ見ル朝夕ノ差〇・五度以下ニシテ四〇乃至四一度ニ達ス
- (二) 弛張熱 Febris remittens 一度以上朝夕ニ於テ異ナル熱ヲ云フ是レ亞急性及慢性病ニ見ル所ナリ其弛ムトキ常溫ヨリ降ル者ヲ消耗熱 Febris hectica ト云フ
- (三) 間歇熱 Febris intermittens ハ數時間持續スルトコロノ高熱ノ發作ト

圖 四 十 五 百 第



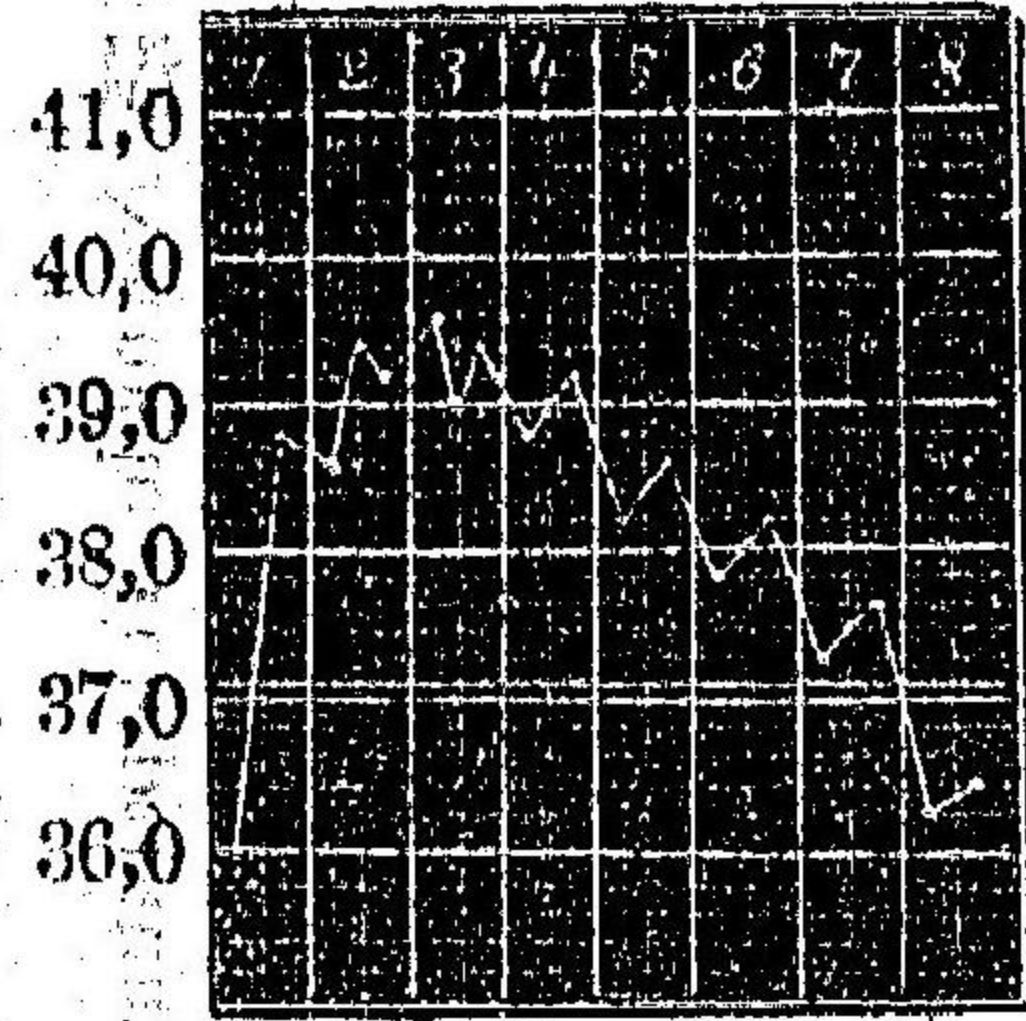
序 期 發 疹 痘 然 天

圖 五 十 五 百 第



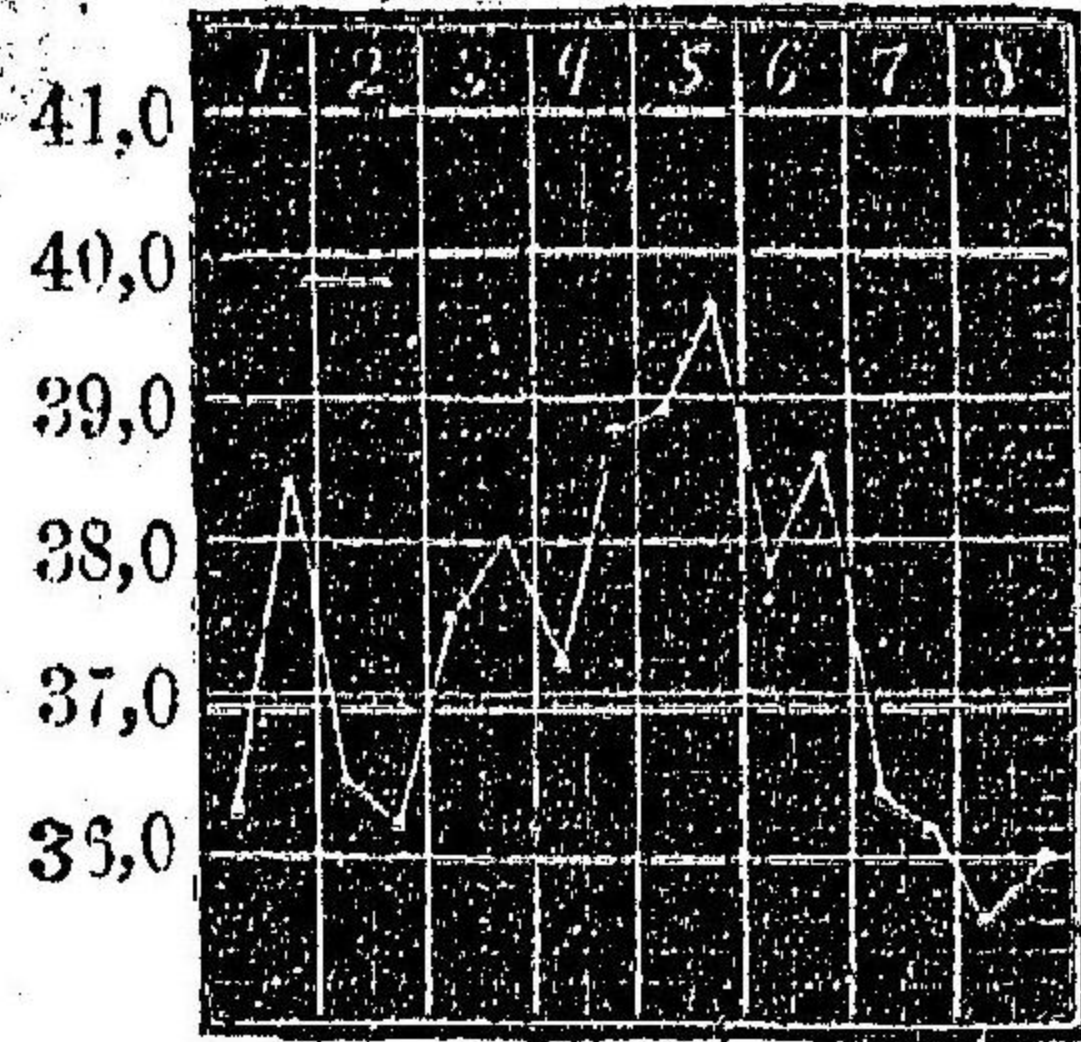
痘 假

圖 二 十 五 百 第



熱 紅 猩

圖 三 十 五 百 第

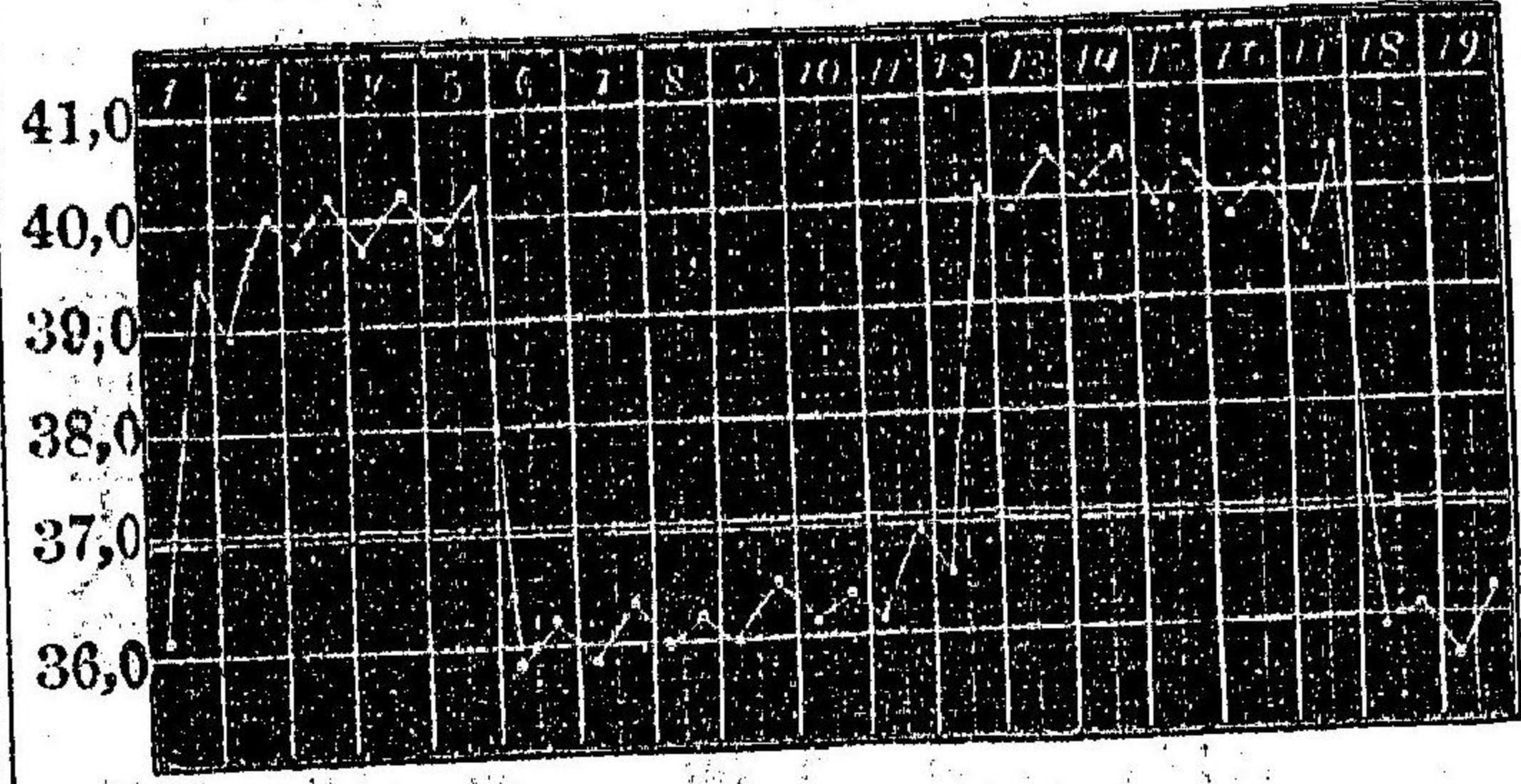


疹 麻

久時ノ免熱期トヲ呈スルモノニシテ專ラ「マラリア」ニ見ルトコロイモ  
 ノナリ  
 (四)回歸熱 *Febbris recurrens* ハ回期熱ニ於テ見ル〇熱性病ニ左ノ期ヲ區  
 別ス  
 發熱期 *Pyrogenische Stadium* 極期 *Fastigium* 分利 *Krise* 散換 *Lyse* 快  
 復期 *Rekonvalescenz* 再期 *Recidiv*

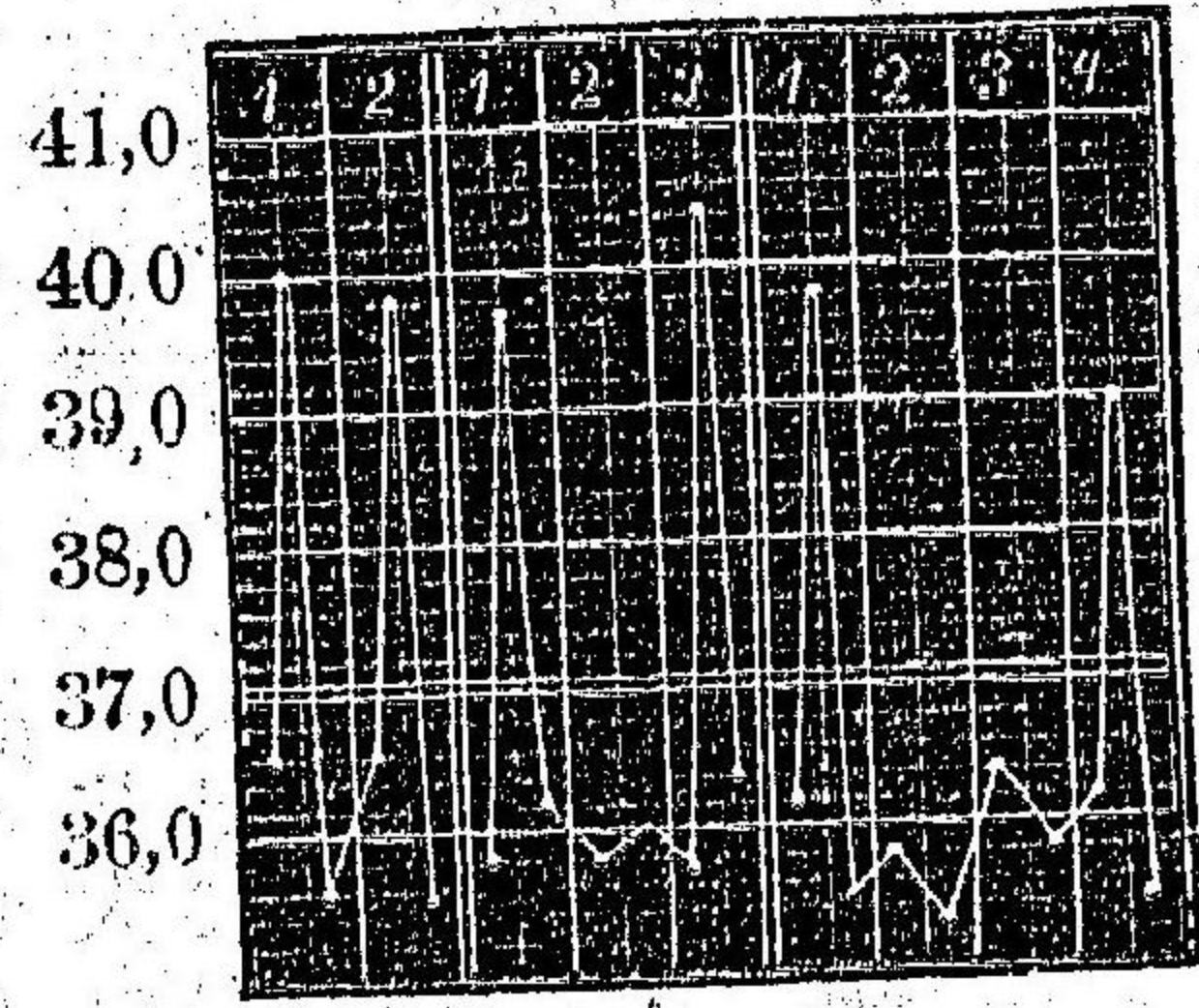
附錄  
熱ノ定型附表

圖七十五百第



熱 歸 回

圖八十五百第

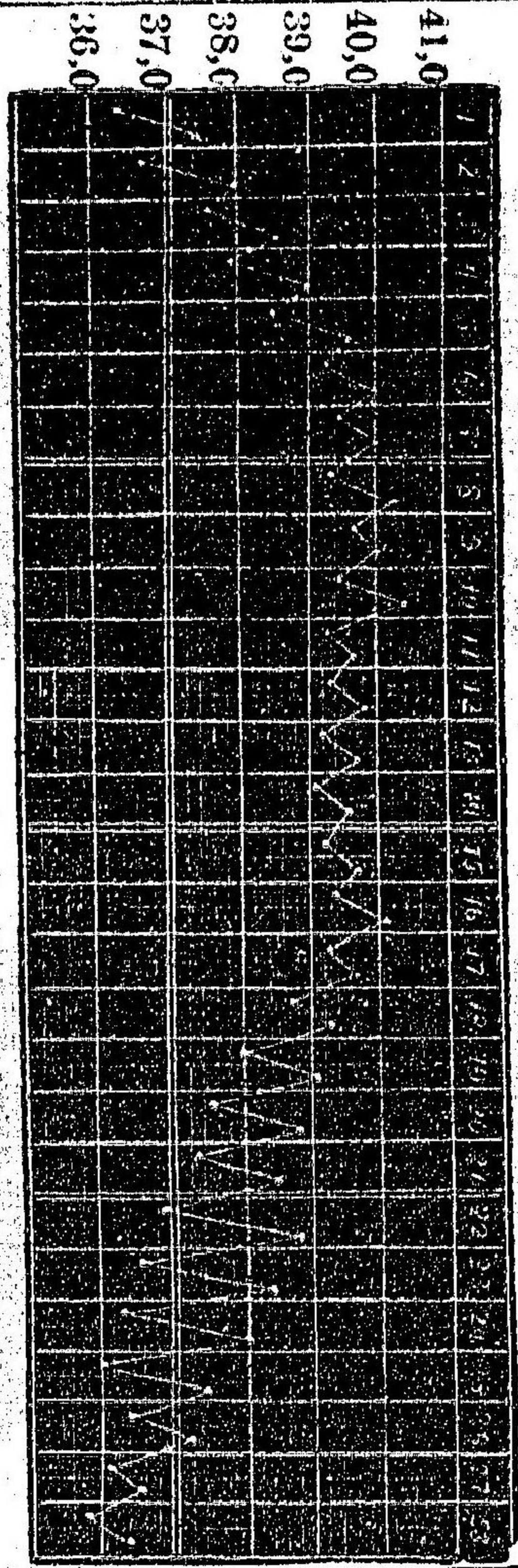


熱日每 熱日隔 熱日四  
熱 歇 間

一〇三七

腸 察 扶 斯

圖 六 十 五 百 第



第一週

第二週

第三週

第四週

一〇三六



○第四十八章 比較物體ノ大小

醫學上獨逸國ニ於テ屢々大サヲ比較スルニ用ユル物體アリ、獨逸ノ醫書或ハ其譯書ヲ讀ムニ際ソ其物ノ大小ヲ審カニスルコト能ハザルモノ多シ「キール」大學教授エスマルヒ氏ノ圖ニ從ヒ數種ヲ示シテ其大小ヲ明ラカニス其白豆ト譯セルモノハ普通蠶豆ト譯セルモノナリ（卷末ノ圖ヲ見ルベシ）

○第四十九章 傳染病潜伏期一覽表

| 病名  | 人                           | 名 | 日數   | 摘要         |
|-----|-----------------------------|---|--|------------|
| 麻疹  | パーヌム<br>フアイルヌチケル<br>シルベルベルヒ |   | (九日乃至十日)<br>十三日乃至十四日<br>十三日乃至十五日<br>十三日乃至十四日<br>七日(四日乃至八日) | 傳染ヨリ發疹ニ至ル迄 |
| 猩紅熱 | ムルヒソン                       |   | 六日以下   |            |

風疹

天然痘

水痘

|  |  |  |
|--|--|--|
| スウエストル<br>マルシヤンド   | 五日乃至六日以下<br>三日                         |  |
| レオン<br>フホン、ホイジン<br>ケル<br>フルード                            | 二週間半<br>十七日<br>十六日乃至十七日<br>十五日         |  |
| フホン、ペーレン<br>スプルング<br>チームゼン<br>ケルハルト<br>マルシヤンド<br>アイヒホルスト | 十三日乃至十四日<br>十三日乃至十四日<br>十三日乃至十四日<br>十日 |  |
| トーマス<br>リーベルマイステ<br>ル                                    | 九日八時間<br>十三日乃至十七日<br>十三日乃至十五日          |  |

附録

比較物體ノ大小 傳染病潜伏期一覽表 一〇三九

|   |      |       |  |  |    |         |
|---|------|-------|--|--|----|---------|
| 發疹瘰癧斯   | 腸窒扶斯 | 實扶的里  | 百日咳  | 亞細亞虎列刺                                   | 赤痢 | 流行性耳下腺炎 |
| グリーシンゲル<br>ウキツス<br>リーベルマイステ<br>ル                            | ゲラー  | レツシネル | パンデー<br>グットマン                                  | ロート<br>リ、エー及ピロン<br>パール                   |    |         |
| 七日乃至十四日<br>八日乃至九日以上<br>九日乃至十四日<br>二週乃至三週<br>二日乃至三日<br>多キモ六日 |      |       | 五日乃至六日以下<br>二日乃至四日<br>廿六時乃至四十五<br>時間<br>長キモ四日半 | 三日乃至八日<br>七日乃至十四日<br>四日乃至二十五日<br>廿日乃至廿二日 |    |         |
| 二週以下ナルモノ<br>及ビ四週ニ達スル<br>モノ稀ニ之レアリ                            |      |       | 尙ホ其以下ナルコ<br>トアリ<br>(廿四時乃至卅時<br>間ナルコトアリ)        | (稀ニ二十四日乃至<br>十八日)                        |    |         |

|   |                                      |                            |                |                      |               |
|---|--------------------------------------|----------------------------|----------------|----------------------|---------------|
| 肺炎  | インフルエンツア                             | ペスト                        | 徹毒             | 乙                    | 恐水病           |
| テノメ<br>カハバル<br>フリント<br>ラルル<br>子ツテル                  | ホイムレル<br>グラッスマン                      | フルニニ<br>ローレー               | 局處症狀チ<br>發スルマデ | 發疹期マデ                | バウエル<br>バステール |
| 八日乃至十五日<br>四日(二日乃至七<br>日)<br>長キモ二日<br>少キモ三日<br>平均五日 | 二日乃至四日<br>二日乃至八日<br>二日乃至七日<br>三週乃至四週 | 廿一日(平均)<br>廿五日<br>九週乃至十一週間 |                | 廿日乃至五十九日<br>四十日乃至六十日 |               |
|   |                                      |                            | 通十五乃至廿五日       |                      |               |

附錄 傳染病潜伏期一覽表

○第五十章 精神病者入院ニ對スル鑑

定ノ要領 マイ子ルト氏

- 第一 姓名
- 第二 年齢 身分 宗教
- 第三 性質 職業
- 第四 誕生地
- 第五 在籍地
- 第六 最終ノ住居
- 第七 如何ナル發意或ハ如何ナル矛盾ノ爲メ入院セントスルカ患者ハ尋常ニアラサルモノ、如キカ
- 第八 鑑定者ハ被鑑定ニ就テ如何ナル病症ヲ觀察若クハ探知シタルカ
- 第九 疾病ハ幾時間持續スルカ定期性ナルカ或ハ再發性ナルカ
- 第十 疾病ノ原因トナルベキモノニシテ明テカナルモノハ何ナルヤ
- 第十一 患者ハ妨害ヲナスノ觀アルヤ或ハ公衆ニ對シ危險ナルノ觀アル

第十二 注意

年月日

何之誰

以上十二項ヲ悉ク記載シ得ルコト能ハザル場合アルハ論テ俟タズ然レトモ第七第八項及ビ第十一項ハ每常必ラス精密ニ記載センコトヲ要ス蓋シ此三項ニ因リテ入院ノ諾否ヲ決スベキノミナラス患者ノ診察及ビ治療ニ對シテモ最モ緊要ナレバナリ

第八項ニ於テハ精神症候ノ傍ラ左ノ身體的關係ヲ必要トス

- 第一 年齢 身長 體重 營養狀態 皮膚色澤
- 第二 頭蓋ノ構造(直徑及ビ周圍ヲ測リテ確定ス)
- 第三 顔面ノ構造特ニ顎骨ノ構造(上顎骨前ニ下顎骨ノ突出スルハ貴要ナル變質ノ徵ナリ) 顔面ノ畸形(兔唇等ノ如シ)
- 第四 五官器○眼 眼光 瞳孔及ビ眼球諸筋ノ狀態○耳 耳垂ノ癒着 耳輪缺損 感覺 知覺過敏及ビ麻痺
- 第五 舌ヲ出ストキ震顫ノ有無 癩痕(癩癩發作ノアリタル徵候)
- 第六 筋肉ノ狀態一部若クハ全部ノ筋肉全麻痺或ハ不全麻痺震顫

搖擗 自發運動

第七 生殖ニ對スル諸件 陰部ノ異常 陰部發育不全(畢丸隱匿 尿道下破裂及ビ上破裂、子宮ノ發育不全(子宮ノ閉鎖或鎖陰)色慾ノ發現

第八 植物性官能ノ狀態

第十項ニ於テハ疾病ノ原因ヲ專ラ検査スルニ際シ左ノ諸件ヲ貴要ナリトス

- 第一 遺傳 (父母祖父母等ノ中精神病或ハ神經病、腦症ヲ發シテ頓死シタル者自殺者自殺ヲ謀リタル者、犯罪、大酒家ノ有無、兩親間血族ナルヤ否ヤ生殖ノ時ハ兩親ノ甚タ幼年ナル時或ハ甚タ老年ナル時ニアリシカ或ハ生殖前兩親ノ内疾病ノ爲メ衰弱ヲ呈セザリシカ或ハ父若クハ母生殖ノ際大醉ノ狀態ニアリシヤ否ヤ)
- 第二 先天性神經病の體質ノ有無
- 第三 不適當ナル教育
- 第四 年齡 春機發動期 壯年期 老年期
- 第五 疾病特ニ小兒期ニ發シタル搖擗(頭部損傷 腦膜炎 腦卒中

腦炎 腦腫瘍 脊髓癆 舞踏病 癲癩 ヒステリー 神經衰弱 症)急性傳染病(就中窒扶斯、痘瘡、肺炎)急性貧血若クハ慢性貧血弱症例令ハ結核癰腫等ノ如キ疾病ニ因テ生シタル貧血微毒婦人生殖器疾患

- 第六 手淫 房事過度
- 第七 妊娠 分娩 產後 授乳
- 第八 劇甚ナル感動精神ノ過勞 心痛
- 第九 アルコホル濫用
- 第十 炭酸中毒 慢性水銀及ビ鉛中毒 モルヒネ中毒 コカイン中毒等

○第五十一章 日本醫家須知法律及規則摘錄

○刑法摘錄

(明治四十一年改正新刑法)

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

第一百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護人、公證人又ハ此等

ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ故  
ナク漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
以下畧ス

第一百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 文書偽造ノ罪

第一百六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛  
偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

第二十章 偽證ノ罪

第一百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ  
三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲  
戒處分ノ前自白シタルトキハ其刑ノ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

第一百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲  
ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女

ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第一百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ  
強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦

淫シタル者亦同シ  
第一百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ

喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル  
ル者ハ前二條例ニ同シ

第一百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第一百八十一條 第一百七十六條乃至第一百七十九條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷

ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
第一百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ姦行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セ

シメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二十六章 殺人ノ罪

第一百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ  
處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役

ニ處ス

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條 第九十九條 第二百條及ビ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ら人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料

ニ處ス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以上ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル

附錄

日本醫家須知法律及規則摘錄

トキハ一年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條 醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條 前項ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

○刑法施行法

(明治四十一年法律第二十九號)

第四十條 刑事訴訟法第二百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第一 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護人、公證人、又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ビ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ黙秘ス可キモノニ關スルトキ

第四十九條 刑事訴訟法第二百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ  
ハ事故ノ止ムマデノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一、心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ  
二、刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハザル虞アルトキ  
三、受胎後七月以上ナルトキ  
四、分娩一月ヲ經過セザルトキ

第六十三條 證人、鑑定人及ビ通事日當ハ左ノ範圍ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一、證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス  
二、鑑定人及ビ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付金三十錢乃至金五圓

第六十四條 證人、鑑定人及ビ通事旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上ナルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス  
前項ニ掲ゲタル者ノ止宿料ハ一日ニ付金二十錢乃至一圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事ハ受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非ザレバ之ヲ給與セズ

第六十五條 證人鑑定人及ビ通事ノ日當旅費及ビ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求セルニ非ザレバ之ヲ給與セズ

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得  
本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

### 改正警察犯處罰令

#### ○警察犯處罰令

(明治四十一年九月三十日公布內務省令第十六號)

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ゲタル者

十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者  
二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ゲ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者

三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者  
三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混ジテ不正ノ利ヲ圖リタル者  
三十六 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スベキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス



- 一、許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レガ保存ヲ爲シタル者
  - 二、公衆ノ目ニ觸ルベキ場所ニ於テ袒裼、裸裎シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
  - 六、石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
  - 七、開業ノ醫師、産婆故ナク病者又ハ妊婦産婦ノ招キニ應ゼザル者
  - 八、故ナク官公署ノ召喚ニ應ゼザル者
  - 九、炮糞、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スベキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケズ店頭ニ陳列シタル者（覆蓋トハ硝子ノ蓋カ蚊帳張網杯ヲイフ）
  - 十、濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又之レガ取除ヲ怠リタル者
  - 十一、監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタルモノ
- 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス
- 但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

○民事訴訟法摘錄 (明治二十三年三月法律第二十九號)

- 第二百九十八條 左ノ場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得
  - 第一、官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者ガ其職務上黙秘ス可キ義務アル事情ヲ關スル本件其職務上之行為ニ關シテ
  - 第二、醫師、藥商、産婆辯護士公證人、神職及ビ僧侶ガ其身分又ハ職業ニ爲メ委託ヲ受ケタルニ因テ知りタル事實ニシテ黙秘ス可キモノニ關スルトキ
  - 第三、問ニ付テノ答辯ガ證人又ハ前條ニ掲ゲタル者ノ耻辱ニ歸スルカ又ハ其ノ刑事上ノ訴訟ヲ招ク恐アルトキ
  - 第四、問ニ付テノ答辯ガ證人又ハ前條ニ掲ゲタル者ノ爲メ直接ニ財産權上ノ損害ヲ生ゼシム可キトキ
  - 第五、證人ガ其技術又ハ職業ハ秘密ヲ公ニスルニ非ザレバ答辯スルコト能ハザルトキ

第二百二十二條 鑑定ニ付テハ以上數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケザル限  
リハ證人ニ付テノ規定ヲ準用ス

○刑事訴訟摘錄

(明治二十三年十月六日法律第九十六號)

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ビ豫審

第三章 豫審

第六節 證人訊問

第一百十六條 證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應ズル能ハザルコト  
ヲ證明シタルトキハ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ訊問スベシ

第一百十七條 證人ト爲ルベキ者豫備後備ノ軍籍ニ在ラザル軍人軍屬ナル  
トキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官又ハ隊  
長ハ即時ニ出頭セシムベキコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得ザル  
差支アルトキハ其事由ヲ附記シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ  
第一百十八條 豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除ク外證人呼出  
ニ應ゼザルトキハ檢事ノ意見ヲ聞キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償

及ビ二圓以上二十圓以下罰金ヲ言渡スベシ但シ其決定ニ對シテハ抗告  
ヲ爲スコトヲ得此抗告執行ノ停止スル効力ヲ有ス

豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ  
直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得若シ證人再度ノ呼出ニ應ゼザルトキハ  
費用賠償ノ外二倍ノ罰金ヲ言渡ス可シ又拘引狀ヲ發スルコトヲ得  
豫備後備ノ軍籍ニ在ラザル軍人軍屬ニ對スル罰金ノ言渡シ及ビ執行ハ  
軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ拘引ニ付  
テモ亦同シ

第二百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者其職務上黙秘スベキ義務ア  
ル事情ニ關スルトキ

第二 醫師、藥商、產婆、辯護士、公證人、神職、僧侶、其身分職業  
ノ爲メ委任ヲ受ケタルニ因リ知リタル事實ニシテ黙秘ス可キモノニ  
關スルトキ

證言ヲ拒ム者ハ拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ證明ス可シ

第七 鑑定

第三百三十五條 豫審判事ハ犯罪ノ性質方法及ビ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ學術職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得ベキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定ノ爲メ必要アリトスルトキハ死體ノ解剖ヲ命シ又既ニ埋葬シタル死體ヲ解剖シ若クハ檢視スル爲メ墳墓ノ發掘ヲ命スルコトヲ得

第三百三十六條 鑑定ニ付テハ第一百五條第一百八條乃至第二百一一條第一百二十三條乃至第二百五條及ビ第二百二十八條ノ規定ヲ準用ス但鑑定人ニ對シテハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第三百三十七條 鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ但宣誓ハ第二百二十二條ノ式ニ從フ

第三百三十八條 鑑定人宣誓ヲ肯ゼズ又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯ゼザルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聞キ刑法第七十九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

第三百三十九條 豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得

第四百十條 鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其手續結果及ビ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ

若シ結果ヲ得ザルトキハ其推測スル所ヲ記載スベシ鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作り又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載スベシ

第四百十一條 鑑定人ハ旅費日當及立替金ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得

第八節 現行犯ノ豫審

第四百十四條 地方裁判所檢事及ビ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルニ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及ビ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ズ證人及鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトナク之ヲ聽ク可シ

第四編 公判

第一章 通則

第八十三條 被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハザルト

キハ痊癒ニ至ルマデ辯論ヲ停止ス但罰金以下形ノ刑ニ該ルベキ事件ニ付被告人代人ヲ差出シタルトキハ此限ニ在ラズ  
辯論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタル時ハ其痊癒ノ後新ニ辯論ヲ爲ス可シ其他疾病ニ罹ル時ハ痊癒ノ後前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求アリタル時ハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ若シ被告事件及ビ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタルトキハ其痊癒ノ後更ニ取消シテナスコトナク裁判ヲ爲ス可シ

第百八十九條 豫審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲナシタル鑑定人ハ更ニ之ヲ呼出スコトヲ得

豫審ニ於ケル證人ノ供述書又ハ鑑定人ノ鑑定書ハ更ニ其證人鑑定人ヲ呼出サ、ルトキ證人鑑定人呼出ヲ受ケ出頭セザルトキ又ハ豫審及ビ公判ニ於ケル供述鑑定ヲ比較ス可キトキハ檢事其他訴訟關係ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルコトヲ得

第百九十條 第百十五條以下ノ規定ハ公判ノ證人ニ第百三十五條以下ノ規定ハ公判鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス

第百九十五條 證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出デ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ拘引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致ス可シ  
其證人又ハ鑑定人ノ供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致ス可シ本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

第五編 上訴

第二章 控訴

第二百五十八條 控訴ノ裁判ニ於テハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用ス第一審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ控訴裁判所ニ於テ其再度ノ訊問鑑定ヲ必要ナリトセザルトキハ之ヲ呼出サバルコトヲ得

○第五十二章 傳染病豫防ニ關スル諸法

甲 癩病豫防ニ關スル法律

(明治四十年法律第十號)

第一條 醫師癩病ヲ診斷シタルルハ患者及ビ家人ニ消毒其ノ他豫防方法ヲ指示シ且三日以内ニ行政官廳ニ届出ベシ其ノ歸轉ノ場合及ビ死體ヲ檢案シタルル亦同ジ

第二條 癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他豫防法ヲ行フベシ

第三條 癩患者ニシテ療養ノ道ヲ有セズ且救護者ナキモノハ行政官廳ニ於テ命令ノ定ムル所ニ從ヒ療養所ニ入ラシメ之ヲ救護スベシ但シ適當ト認ムルルハ或扶養義務者ヲシテ患者ヲ引取ラシムベシ  
必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲スベシ  
前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルルハ市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ニアリテハ市町村長ニ準スヘキ者)ヲシテ癩患者及

ビ其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ其ノ道府縣内ニ於ケル前條ノ患者ヲ收容スル爲メ必要ナル療養所設置ヲ命ズルコトヲ得  
前項療養所ノ設置及ビ管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム主務大臣ハ私立療養所ヲ第一項ノ療養所ニ代用セシムルヲ得

第五條 救護ニ要スル費用ハ被救護者ヨリ負擔トシ被救護者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

第三條ノ場合ニ於テ之ガ爲メ要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徴法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 扶養義務者ニ對スル患者引キ取り命令及費用辨償ノ請求ハ扶養義務者中何人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ費用ノ辨償ヲ爲シタルモノハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スベキ者ニ對シ求償ヲ爲スヲ妨グズ

第七條 左ノ諸費ハ北海道地方費又府縣ノ負擔トス但シ沖繩縣及東京府下伊豆七島小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス  
一、被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得ザル救護費

二、檢診ニ關スル諸費三、其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關スル諸費

第四條第一項ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ關係地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム若シ協議調ハザルハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル第四條第三項ノ場合ニ於テ關係道府縣ハ私立ノ療養所ニ對シ必要ナル補助ヲ爲スベシ此場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ前項ノ方法ニ依ル

第八條 國庫ハ前條道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス

第九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ癩又ハ其ノ疑アル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者ハ其扶養義務者ニ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得

第十條 醫師第一條ノ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除クノ外行政官廳ニ於テ救護

中死シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

勅令第二百八十四號

明治四十年法律第十一號ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

內務省令第十九號

明治四十年七月廿日法律第十一號癩豫防ニ關スル件施行規則

第一條 明治四十年法律第十一號第一條ノ届出ハ死體所在地ノ警察官署

ニ之レヲ爲スベシ

癩患者ヲ診斷シタル醫師ハ故ナク其ノ事實ヲ漏泄スルコトヲ得ズ

第二條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セズ且救護者ナキモノアルハ警察

官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其ノ旨

ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍住所姓名及ビ病況

并扶養義務者ノ住所氏名等ヲ具シ地方長官ニ報告スベシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經

タル上送致ノ手續ヲ爲スベシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命ズベシ

警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムベシ

第三條 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムベキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル設立地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スベシ

第五條 明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ療養所所在地地方長官ハ療養所ノ設立者ニ對スル命令條件ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 明治四十年法律第十一號第九條第一項第二項行政廳官ノ職權ハ警察署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其扶養義務者ハ警察署之ヲ行フ

發病以來症候經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ檢診ノ場所及ビ日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムベシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルコトヲ得檢診ノ爲メ病院其ノ他ノ現所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セザル片ハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムル片ハ此ノ限ニアラス

第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行旅病人及ビ行旅死亡人取扱法規定ヲ準用ス但シ市町村長ニ於テ救護中死亡シタル場合ヲ除ク外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳之ヲ行フ第九條第二條及第六條ノ地方長官職權其ノ他癩豫防上警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

署

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

內務省令第二十號

療養所設置區域ニ關スル事項 署ス

勅令第二百八十五號

療養所精算國庫補助ニ關スル事項 署ス

癩病患者輸送法 (明治四十二年)

鐵道院ニ關スル事項 署ス

內務大臣ノ訓示 (明治四十二年二月)

主文 署ス

- 一、患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人ハ雜居セザルヲ
- 二、患者ノ衣類寢具其他日用器具等ハ特ニ專用ノ物ヲ備ヘ他ト混同セザル様注意スルヲ
- 三、患者ノ常用衣類敷布寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルヲ
- 四、患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルヲ

五、患者ノ居室ハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルヲ

六、病毒ニ汚染シタル繻帶手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑、襪類ハ燒却スルヲ

七、患者ノ外出ハ可成避ケシメ止ムヲ得ズ外出セントスルハ清潔ナル衣類ヲ着用シ又潰瘍アルモノハ其ノ繻帶ヲ更ムルヲ

八、患者ハ可成他ノ交通ヲ避シメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場寄席乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラザルヲ

九、患者ハ牛乳ノ搾取飲食物飲食物具金屬陶器類ヲ除ク玩具ノ調製又ハ其販賣ト他ノ病毒傳播ノ虞レアル業ニ從事セザルヲ

一〇、患者ノ住居シタル家屋ハ消毒シタル後ニ非ラザレバ他ニ使用貸與又ハ授與セザルヲ

一一、患者ノ使用シタル衣類寢具器具ハ勿論家人ノ常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニ非ラザレバ他ニ使用授與移轉又ハ遺棄セザルヲ

一二、患者ノ一時滯留シタル場合ニ於ケルモ其ハ占居シタル室并ニ使用シタル衣類寢具等ニ對シテ亦前ニ號ヲ適用スベシ



- 一三、看護等ノ爲メ常ニ患者ニ接近シ又ハ病毒汚染物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上被服ヲ着用シ時々之ヲ消毒スル
- 一四、癩患者ノ屍體ハ消毒ヲ行ヒタル後可成火葬スル
- 一五、消毒方法ハ明治卅年内務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スル

乙 傳染病豫防法摘錄

(明治三十年三月法律第三十六號)

第一條 此ノ法律 於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶斯、痘瘡、發疹瘰扶斯、猩紅熱、實布の利亞(格魯布)及「ベスト」ト謂フ  
前項ニ掲クル八病人外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若クハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若クハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

第十條 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用授與、移轉遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

間内ニ埋葬スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リテ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサルモノハ五圓以下ノ罰金又ハ料料ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時

間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條、第五條、第九條、第十條、第十一條第一項、第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答解ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者、又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其届ヲ妨ケタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(本條ハ明治三十八年三月十三日法律第五十六號ノ改正ニ據ル)

○第五十三章 傳染病豫防法施行規則抄錄

(明治三十年五月一日發布内務省令第十一號 同三十八年六月十三日内務省令第十四號改正)

第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病患者死者其他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アルヲ知リタルトキハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ但警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ報告スヘシ

第四條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病患者死者其他病毒汚染ノ事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ傳染病患者死者アリタル家其他病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ清潔法消毒方法ヲ施行セシム「ベスト」病ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ虎列拉、赤痢、發疹瘰扶斯、「ベスト」ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

- 一 患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒法ノ施行ヲ了ルマテ其ノ家ノ交通ヲ遮斷ス
- 二 前號ノ外病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通ヲ遮斷スルコト
- 三 前二號ノ家ノ住居者其他病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若クハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト

虎列拉、赤痢 滿五日間  
發疹瘰扶斯 滿七日間

「ベスト」 満十日間

四 交通遮断又ハ隔離中ニ新ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト

傳染病豫防法第十九條第二ニ依ル交通遮断及隔離ノ施行ハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前項ニ準シ之ヲ行フヘジ但特ニ府縣知事（東京府ハ總監視）ノ命アル場合ニ限ル市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ本條ノ交通遮断及隔離ニ關スル事務ニ従事スヘシ

附 則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ施行ス

○第五十四章 清潔方法消毒方法

（明治三十年五月六日發布内務省令第十三號）  
（全三十八年六月十四日内務省令第十七號改正）

第一章 清潔方法

第一條 清潔方法ノ要項左ノ如シ

- 一 傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其他病毒汚染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃除ヲ行ヒ其塵芥ハ之ヲ焼却スヘシ
- 二 家屋掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他ノ不潔物ハ之ヲ取除キ燒却スヘシ
- 三 傳染病患者アリタル家ノ井戸流、臺所流、便所又ハ芥溜ノ掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル之後ヲ行フヘシ但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸浚ヲ爲スヘシ
- 四 「ベスト」ニ對シテハ前各號ノ外屋根裏、天井、羽目板間、床下等ニ就テ鼠族ノ搜索驅除ヲ行フヘシ
- 五 傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル場合亦前各號ヲ準用スヘシ
- 第二條 傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病毒蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシトセス必要ノ場合ニハ消毒藥（生石灰末若クハ石灰）ヲ投シタル後浚滌スヘシ
- 第三條 傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠ノ浚滌ヲ爲ス場合ニ於テハ濫リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

第四條 溝渠ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラザル様一定ノ場所ニ棄ツヘシ汚泥ヲ路傍ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス

第二章 消毒方法

第五條 消毒方法ハ左ノ四種トス

一 燒却

二 蒸汽消毒

三 煮沸消毒

四 藥物消毒

第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 傳染病患者若クハ死體ニ用キタル被服、臥具、布片、便器其他ノ器具等ニシテ甚タシク病毒ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナル者
- 二 傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物塵芥動物ノ死體等

第七條 蒸汽消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 衣服、臥具、布片等總テ絹布、綿布、麻布、毛織物類
- 二 硝子器、陶器、瓷器其ノ他鑄製若クハ木製品類等ニシテ汽熱ニ堪フ

ルモノ

第八條 蒸汽消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス

- 一 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、ゴム製品、ゴム用品、糊附品、膠附品、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸汽消毒ヲ避クヘシ
- 二 被服類ニ蒸汽消毒ヲ施スニハ豫メ袖中又ハ衣囊中ヲ檢索シ若シ彈丸、火藥等爆發又ハ發火シ易キ物品アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ虞アルモノハ蒸汽消毒ヲ避クヘシ
- 三 蒸汽消毒ハ流通蒸汽ヲ用ヒ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

第九條 煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸汽消毒ニ適スルモノニ同シ

煮沸消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ全部水中ニ浸シ沸騰後三十分間以上煮沸スヘシ

第十條 藥物消毒ニ供スル藥劑竝ニ其用法ハ左ノ如シ

- 一 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分

石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ定量ノ水ヲ注ギ後鹽酸一分ヲ加フベシ温湯ヲ用フレハ其ノ溶解殊ニ速カナリトス但使用ノ際ハ毎回振盪スルヲ要ス

石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但シ使用ノ際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ

- 一 吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ攪拌スヘシ
- 二 器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撒布スヘシ
- 三 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ
- 四 衣服等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘザルモノヲ用ヒ六時間以上浸漬シ其ノ後淨水ヲ以テ更ニ洗滌スヘシ
- 一ノ二 クレゾール水クレゾール石鹼液六分水九十四分  
クレゾール水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液六分ニ定量ノ水ヲ加フベシ  
クレゾール水ハ各種物件ノ消毒ニ適シ其用量及應用ハ石炭酸水ニ準ズベシ

二 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸十分 水九百八十九分

昇汞水ヲ製スルニハ昇汞ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽酸ヲ加フベシ昇汞水ハ猛毒ニシテ無臭無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ又其ノ危險ヲ防ガシ爲メ「スカレット」又ハゾイレフクシン」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘテ着色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス但金屬製ノ器ニ貯藏スベカラズ

昇汞水ハ陶器、硝子器、木製器具又ハ室内ノ消毒ニ適ス飲食用器具、玩具ノ消毒飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒及金屬製品、糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス

手足ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

三 生石灰

少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シテ崩壞スルモノ

生石灰水

生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ

生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其ノ他ノ排泄物、溝渠等ノ消毒ニ用フヘシ吐瀉物其他排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其容量五十分

一 投シ能ク攪拌スヘシ

石灰乳(十倍) 生石灰一分  
水 九分

石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スヘシ其ノ用量ハ吐瀉物其ノ他排泄物等ノ容量四ノ一分以上トス但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス  
普通石灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り代用トシテ其ノ倍量ヲ用フヘシ

四 クロール石灰水(二十倍) クロール石灰五分  
水 九十五分

クロール石灰水ノ應用并用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

五 カリ石鹼又ハ綠石鹼

カリ石鹼又ハ綠石鹼三分ヲ熱湯百分ニ溶解シ使用ノ際ニハ加熱スルヲ要スカリ石鹼又ハ綠石鹼ハ不潔ナル木製器具戸障子床面ノ消毒ニ適ス

六 フオルムアルデヒード

「フオルムアルデヒード」ハ「フオルマリン」ヲ噴霧發生セムメ又ハ適當ノ装置ニ依リテ發生セシムヘシ

一 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒函内又ハ土藏造、洋風建物、船舶、瀛車等ニテ戸、扉窓、窻孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス

二 消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付フオルマリン四十瓦以上ヲ噴霧セシメ若クハ「フオルマリン」アルデヒード瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

「フオルムアルデヒード」ハ左ノ消毒ニ用キルコトヲ得

一 土藏造、洋風建物、船舶、瀛車等ノ密閉シ得ル室内又ハ室内ニ定着セル器物ニシテ他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサルモノ

二 他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサル貴重品其ノ他ノ物件ニシテ其内部ニ至ルマテ消毒方法ヲ施スノ必要ナシト認メタルモノ

第十一條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ

第一 患者

傳染病患者治癒シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムヘシ  
場合ニ依リテハ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代ユルモ妨ナシ

第二 死體

傳染病ノ死體ヲ棺ニ歛ムルニハ其ノ被服ニ昇汞水若クハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇汞若クハ石炭酸水ニ浸漬シタル布ヲ以テ包ミ又ハ石灰ヲ以テ填ツヘシ

第三 看病人、病家ノ家人其ノ他病毒ニ觸接シタル者

看病人、病家ノ家人其ノ他消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物ノ運搬等ノ爲病毒ニ觸接シタル者ハ時々若クハ其ノ都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ

第四 患者「死體」ノ運搬器

傳染病ノ患者、死體ヲ運搬シタル駕籠釣臺ノ類ハ使用後毎回昇汞水若クハ石炭酸水ヲ以テ擦拭スヘシ

第五 便所、芥溜、溝渠等

傳染病患者ノ吐瀉物ノ他排泄物ノ入りタル便所ノ糞池、肥料溜等ニハ生石灰末、石灰乳若クハ「クロール」石灰水ヲ灌ギ能ク攪拌スヘシ但便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒シタル後直ニ使用シ糞便ハ一週間ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得病毒ニ汚染シタル土地ニハ石灰乳若

クハ「クロール」石灰水ヲ灌ギ消毒スベシ

病毒ノ混入シタル芥溜ニハ石灰乳若クハ「クロール」石灰水ヲ灌ギ其

ノ塵芥ハ燒却スベシ

病毒ノ混ジタル溝渠ニハ生石灰末、石灰乳若クハ「クロール」石灰水ヲ

灌グベシ

第六 衣服、器具、敷物

傳染病患者ノ着用セル衣類臥具并ニ病室内ニ在ル諸器具又ハ看病人及患者ニ接シタル家人ノ衣類其ノ他病毒汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スベシ

第八條第一ニ掲ゲタル物品ノ類ハ「カリ」石鹼又ハ綠石鹼（毛皮ニハ避クベシ）ヲ以テ洗ヒ又ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨若ハ撒布シ又ハ「フオルムアルデヒド」ヲ第五條ニ掲グル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハザルモノハ日光ニ曝シ若クハ大氣中ニ乾燥セシムベシ

第七 家屋

患者ノ居室其ノ他ノ傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル室内各部ハ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ拭淨スベシ但土藏造、洋風建物等密閉

シ得ベキ室内ニハ「フオルムアルデヒド」ヲ用キルコトヲ得  
消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要ス

第七ノ二 井戸、水槽等

傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル井戸、水槽等ニハ水量五十分  
ノ一ノ生石灰ヲ乳狀トナシテ投入シ能ク攪拌シタル後十一時間以上  
放置シ又ハ適當ノ装置ニ依リテ熱蒸氣ヲ通ジ三十分間以上沸騰セシ  
ムベシ

第八 瀉車

傳染病患者若クハ死體アリタル瀉車内ノ消毒ハ第七第八ニ準ズベシ  
傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ混ジ適宜處置  
スヘシ

車室ニ附屬スル便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スベシ

第九 船舶

傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七第八ニ準ズベシ  
其他ノ場所ニ對シテハ消毒藥ノ撒布擦拭等適宜處置スベシ  
船底水ニハ其ノ容量二百分ノ生石灰水ヲ加ヘ二十四時間ヲ徑タル後

汲出サシム

附 則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ施行ス

○第五十五章 死亡診斷書及死産證書并檢案書

内務省訓令第二十八號

本年九月當省令第四十一號ヲ以テ規定シタル醫師ノ作爲スベキ死亡診斷書  
死體檢案書、及醫師又ハ産婆ノ作爲スベキ死産證書、死體檢案書ノ様式  
并ニ其記載方ハ左ノ各項ニ準據セシメラルベシ

明治三十三年十月九日

内務大臣侯爵 西郷從道

第一 死亡診斷書、死體檢案書

様式

死亡診斷書(死體檢案書)

- 一 氏名
- 二 男女ノ別
- 三 出生ノ年月日
- 四 職業  
死者ノ職業  
家計ノ重ナル職業

附錄

死亡診斷書及死産證書并檢案書



- 五 病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別
- 六 病名(自殺者ニ手段及中毒者ニ在テハ)種類
- 七 發病年月日(變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)
- 八 死亡ノ年月日
- 九 死亡ノ場所

右證明(檢案)候也

醫師何 住所

某印

記載方

- 一 戶籍上ノ氏名ヲ記スベシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラザルトキハ不詳ト記スベシ
- 二 經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラザルトキハ不詳ト記スベシ
- 三 自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラザルトキハ推定年齢何歳ト記シ若シ推定シ能ハザル場合ニ於テハ不詳ト記スベシ
- 四 死亡者ノ家計 主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記

シ、死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スベシ又死亡者一定ノ職業アルモ他家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スベシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラズシテ何商又ハ何工等成ルベク細密ニ記スベシ

自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スベシ

五 病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スベシ

六 病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スベカラズ

同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スベシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハザルトキハ各種ノ病名ヲ併記スベシ

附錄

死亡診斷書及死産證書并檢案書

全ク病因タル病名ヲ診定シ能ハザルトキハ不詳ト記スベシ  
 自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之バ縊死及傷入水等ノ別ヲ明記スベシ  
 自殺以外ノ變死者中毒者ニ在テハ其種類例之溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒アルコル中毒等ノ別ヲ記スベシ  
 七 病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スベシ若シ明瞭ナラザルトキハ推定何年月何日ト記スベシ又全ク推シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スベシ  
 八 病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラズ變死ノ年月日ト記スベシ若シ自殺者、變死者等ニ在テハ死亡ノ時明瞭ナラザルトキハ推定セル年月日時ヲ記スベシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス  
 九 死亡ノ場所ハ郡市區町村大字及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スベシ若シ自殺者、變死者此等ニシテ漂着セル死體ナルトキハ其漂着シタル場所ヲ明記スベシ此場合ニハ其下ニ漂着ト記スルヲ要ス

第二 死亡證書死胎檢案書

樣式

死産證書(死胎檢案書)

一 父ノ氏名(私生子ノ場合母ノ氏名合ニ在テハ)

二 父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク)

三 母ノ出生ノ年月日

四 父ノ職業(私生子ノ場合母ノ職業合ニ在テハ)

五 妊娠ノ月數

六 分娩ノ年月日

七 分娩ノ場所

八 死胎ノ男女ノ別

九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明(檢案)候也

年 月 日

醫師(産婆) 住 所 某 印

記載方

一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スベシ若

- 一 私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スベシ
- 二 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スベシ
- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スベシ
- 四 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スベシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スベシ
- 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラズシテ何商又ハ何工等成ルベク細密ニ記スベシ
- 六 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト見做シタル第幾月目ニ該當スルカヲ記スベシ
- 七 分娩ノ年月日ヲ記スベシ若シ明瞭ナラザルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スベシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 八 分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スベシ
- 九 死胎ハ男女孰レニ屬スルカヲ記スベシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハザル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スベシ
- 九 死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記ス

注意 滿三ヶ月以下ノ流産ニハ死産證書ヲ要セズ、胎芽ハ隨意ニ之ヲ處置シテ可ナリ

○第五十六章 精神病者監護法

(明治三十三年三月九日法律第三十八號)

- 第一條 精神病者ハ其ノ後見人配偶者四親等内ノ親族又ハ戶主ニ於テ之ヲ監護スルノ義務ヲ負フ但シ民法第九百八條ニ依リ後見人タルコトヲ得ザル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 監護義務者數人アル場合ニ於テ其ノ義務ヲ履行スベキモノ、順位ハ左ノ如シ但シ監護義務者相互ノ同意ヲ以テ順位ヲ變更スルヲ得
- 第一 後見人
- 第二 配偶者
- 第三 親權ヲ行フ父又ハ母
- 第四 戶主
- 第五 前各號ニ掲ゲタル者ニ非ラザル四親等内ノ親族中ヨリ親族會ノ

選任シタル者

第二條 監護義務者ニ非ラサレバ精神病者ヲ監置スルコトヲ得ズ

第三條 精神病者ヲ監置セントスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受クベシ

但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ベシ

前項假監置ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ズ

行政廳ノ許可ヲ受ケテ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シタル後三箇年内ニ更ニ之ヲ監置セムトスルトキハ民法第九百二十二條ニ依リ禁治產者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ニ届出ベシ

第四條 精神病者ノ監置ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ベシ

第五條 監置シタル精神病者治癒シ死亡シ若ハ行方不明トナリタルトキ又ハ其ノ監置ヲ廢止シタルトキハ七日内ニ行政廳ニ届出ベシ

第六條 精神病者ヲ監置スルノ必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其義務ヲ履行スルコト能ハザル事由アルトキハ精神病者ノ住所地、住所地ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市區町村長又ハ勅

令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スベシ

第七條 行政廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルハ監置ノ許可ヲ取消シ監置ノ廢止ヲ命ジ又ハ監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ其ノ廢止ヲ命ゼラレタル者監置ヲ廢止セザルトキハ行政廳ハ直接ニ監置ヲ廢止スルコトヲ得

第八條 精神病者監置ノ必要アルトキ又ハ監置不適當ト認ムルトキハ行政廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラズ監護義務者ヲ指定シ之ガ監置ヲ命ズルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市區町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

本條ニ依リ精神病者ノ監置ヲ命ゼラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市區町村長ニ於テ之ヲ監護スベシ

本條ニ依リ監護義務者ノ監置シタル精神病者ニ關シテハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更

スルコトヲ得ズ

第九條 自宅監置室公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ  
私宅監置、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其扶養義務者ノ負擔トス

市區町村長ニ於テ監護スル場合ニ於テ之ガ爲メ要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徴方法ハ行旅死亡人取扱ノ規定ヲ準用ス

第十一條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル尋問ヲ爲サシメ又ハ精神病者アル家宅病院其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ執行ニ關スル行政廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十五條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十六條ノ例ニ照ラシテ處斷ス

第十六條 左ニ掲グル者ハ一年以上ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一 詐僞ノ行爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若ハ虛僞ノ届出ヲ爲シ精神病者ヲ監置シ又ハ拘束ノ程度ヲ加重シタル者

二 醫師精神病者ノ診斷書ニ虛僞ノ事實ヲ記載シ又ハ自ラ診斷セズシテ診斷書ヲ授與シタル者

前項第一條ノ場合ニ於テハ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過グル毎ニ一等ヲ加フ

第十七條 左ニ掲グル者ハ二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過グル毎ニ一等ヲ加フ

一 許可ヲ受ケズ又ハ届出ヲ成サズ若ハ命ヲ受ケズシテ精神病者トシテ人ヲ監置シタル者

二 禁治産ノ宣告又ハ監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ監置ノ廢止ヲ命ゼラレ若ハ假監置ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セザル者

三 許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ若ハ命ヲ受ケタル程度ヲ超エテ精神病者ヲ拘束シタル者

第十八條 左ニ掲クル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 精神病者ノ監置ニ關シ虛偽ノ事實ヲ記載シタル願届其ノ他ノ書類ヲ行政廳ニ提出シタル者

二 監護義務ヲ履行スヘキ順位ニ在ラザル者ニシテ許可ヲ受ケズ又ハ命ニ依ルニ非ズシテ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更シタル者

三 官吏又ハ行政廳ノ指定シタル醫師ノ臨檢若クハ檢診ヲ拒ミ又ハ其尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者

第十九條 左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命ゼラレ其命ヲ履行セザル者

二 監護義務者精神病者ノ監置ヲ命ゼラレ其ノ命ヲ履行セザル者

三 第八條第四項及第九條第一項ニ違背シタル者

第二十條 第四條及第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第二十一條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ精神病者ヲ監置シタル者ニシテ尙ホ之ヲ繼續セシメントスルトキハ本法施行ノ日ヨリ二箇月内ニ第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スヘシ

第三條ノ許可ヲ受ケズ又ハ届出ヲ爲サズシテ前項ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セザル者ハ第十七條ノ例ニ照ラシテ處斷ス

本法中市町村長ニ屬スル職務ハ市制區制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ市區町村長ニ準ズベキ者之ヲ行フ

第二十二條 外國人タル精神病者ノ監護ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 人事訴訟人手續法第五十條又ハ第六十條ニ依リ裁判所ニ於テ精神病者ノ監護ニ付必要ナル處分ヲ命ジタル場合ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用セズ

○第五十七章 精神病者監護法施行規則

(明治三十三年六月二十八日內務省令(第三十五號))

第一條 精神病者監護法第一條第二項但書ニ依リ監護義務者ノ順位ヲ變更シタルトキハ關係者ハ七日內ニ連署ヲ以テ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ベシ

第二條 精神病者監護法第一條第二項第五號ニヨリ監護義務者ヲ選任シタルトキハ親族會ハ七日內ニ警察署ヲ經テ地方長官ニ届出ベシ

第三條 精神病者監護法第三條ニヨリ精神病者ヲ私宅病院其ノ他ノ場所ニ監置セントスルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出又ハ届出ヘシ

第三條第一項但書ニ依リ精神病者ヲ監置シタルトキハ監護義務者ハ警察官署ニ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要セス

第四條 精神病者ヲ監置セントスル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受クルノ暇ナシト認ムルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ警察官ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ監護義務前ハ三十日內ニ前條ニ依リ更ニ地方長官ニ届出ヘシ

第五條 前二條ノ届出又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ監置ノ方法及場所ヲ記シ若シ私宅監置室ヲ設クルトキハ其ノ構造設備ヲ記シタル書類ヲ添付スヘシ

第六條 本則第四條第一項ニ係リ監置シタル精神病者ニ關シ三十日內ニ地方長官ニ監置ノ届出ヲ爲サ、ルトキ又ハ地方長官ニ於テ届出ニ對シ不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ警察官署ノ與へタル許可ハ取消サレタルモノトス

第七條 精神病者監護法第四條又ハ第五條ノ届出ハ監護義務者ニ於テ醫

師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ  
但シ行方不明ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案ヲ添フルコトヲ要  
セス

本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シテハ前項ノ届出ハ  
警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第八條 私人監置室ハ精神病者ノ資産又ハ扶養義務者扶養ノ程度ニ應シ  
相當ノ構造設備ヲ爲シ之ヲ管理スルコトヲ要ス

第九條 府縣立ヲ除ク外公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ヲ設置  
セントスルトキハ其構造設備及管理ニ關スル事項ヲ具シ地方長官ノ許  
可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十條 精神病者監護法第七條及第八條行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行  
フ但シ急迫ノ事情アルハ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直ニ地方長官ノ指  
揮ヲ請フベシ

第十一條 精神病者監護法第九條第一項行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行  
フ但シ私宅監置室ニ關シテハ警察官署之ヲ行フ

第十二條 精神病者監護法第十一條行政廳ノ職權ハ内務大臣地方長官又

ハ警察官署之ヲ行フ  
第十三條 本則第九條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 本則第一條及第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ料  
料ニ處ス

第十五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

○第五十八章 精神病者監護法第六條及第八條

第三項ニ依レル監護ニ關スル件

(明治三十三年六月二十九日勅令第二百八十二號)

第一條 精神病者監護法第六條ニ依リ市區町村長ニ於テ精神病者ヲ監置  
スヘキ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項地方長官ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ市區町村長ハ警察官署ノ同  
意ヲ經テ三十日內精神病者ヲ監置スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルト  
キハ警察官署ノ同意ヲ經サルモ七日內假ニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ

場合ニ於テハ警察官署ニ通知スヘシ

第二條 精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ該當スル精神病者アル

附錄 精神病者監護法第六條及第八條第三項  
ニ依レル監護ニ關スル件 一一〇一



トキハ地方長官ハ警察官署ヲシテ之ヲ市區町村長ニ引渡サシムヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ハ假ニ之ヲ市區町村長ニ引渡シ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第三條 市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者治癒シ死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキハ第一條第一項及第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者及第二條但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知スヘシ  
市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更セントスルトキハ第一條第一項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知シ第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ノ同意ヲ經ヘシ但シ監置ノ方法又ハ場所ノ變更ヲ要スル急迫ノ事情アルトキハ假ニ之ヲ變更シ直ニ認可ヲ受ケ又ハ同意ヲ經ヘシ  
第四條 市區町村長ハ其ノ監置スル精神病者ノ監置ヲ適當ナル公私ノ施設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得

第五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

附 則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○第五十九章 種痘法

(明治四十二年四月十二日法律第三十五號)

第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此限ニ在ラズ

- 一 第一期 出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フベシ
- 二 第二期 十歳但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フベシ

定期前二年以内ニ善感シタル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス

第二條 保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ

第三條 左ニ掲グルモノハ未成年ノ生徒、院生若クハ之ニ準スベキ者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其義務ヲ履行セシムベシ

一 學校、育兒院又ハ之ニ準ズベキ場所ノ校長、院長、ソノ他首長  
 二 教育、監護又ハ傭使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者  
 前項各號ニ掲グル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ前項ノ規定  
 ナ適用ス

第四條 新ニ保護者ト爲リ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生シタルトキハ種痘ヲ  
 受ザルカ又ハ之ヲ受ケタル証跡不明ナル未成年者ヲシテ六月以内ニ種  
 痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムベシ  
 前項ノ期限内ニ其手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長 區長ヲ以テ  
 ツルニ於テハ 二届出ツベシ  
 長以下之ニ準ス

未成年者ヲ傭使スル雇主ニ關シテハ其ノ之ヲ寄寓セシメザル場合ト雖  
 モ前二項ノ規定ヲ適用ス  
 前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 市町村ハ種痘ヲ施行スベシ

第六條 市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スベシ

第七條 疾病其他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受  
 ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ其事

由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコトヲ得前項ニ依リ種痘ヲ猶豫シ  
 タルトキハ市町村長ハ其證ヲ交付スヘシ

第八條 市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リタル者  
 ヲ戸籍吏ハ戸籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ  
 前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戸籍法第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條 市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其他種痘ヲ怠リ又ハ  
 之ヲ受ケタル証跡不明ナル未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ  
 指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條 種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル証跡不明ナルモノノ定期外  
 ニ受ケタル者又ハ第一條第二項ノ場合ヲ除クノ外其定期種痘ト看ナス

第十一條 第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市  
 町村長ノ指定シタル期日ニ於テ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ其期日ニ檢診  
 ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ

市町村長ハ前項ノ檢診ヲ經タル者ニ種痘濟證ヲ交付スヘシ  
 第一項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ痘漿ハ收採スルコトヲ得  
 第十二條 醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ診斷シタルトキハ種痘證ヲ交付

スヘシ

前項ノ場合ニ於テ種痘證ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ツヘシ

第十三條 醫師ハ其診療ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキ之ニ痘瘡經過證ヲ交付スヘシ

第十四條 當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘證ヲ又ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハコノ限ニ在ラス

第十五條 地方長官ハ痘瘡豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受クヘキノ範圍及ビ期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得

第十六條 醫師虛偽ノ種痘證ヲ交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 左ニ掲クル者ハ科料ニ處ス

- 一 第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者
- 二 保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ

種痘ヲ受ケシメサル者

第十八條 第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十九條 官廳公署及ビ官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項及ビ第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其措置ヲ爲スヘシ

第二十條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戸主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

附 則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ヘ歳七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモノノ時期不明ナル者ハ本法ニ依ル第一期ノ種痘數ヘ歳八歳以後ニ種痘ヲ受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス本法施行前第一條第一項

ノ種痘定期ヲ経過シタル未成年者ニ付テハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又之ヲ受ケタル證據不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

○第六十章 種痘法施行規則

(明治四十二年十二月廿一日内務省令第廿六號)

第一條 市町村長 區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ市町村長ニ準スベキモノヲ含ム以下

之ニハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ現住人中左記各號ニ該當スル者ノ種痘期日ヲ指定スベシ

一 前年中出生ノ者

二 數ハ歳十歳ノ者

三 前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者

地方長官 東京府ハ警視總監以下之ニ做フ 必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ種痘期日ヲ指定セシムルコトヲ得

本條ノ指定ハ之ヲ公告スベシ

第二條 市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告スベシ

第三條 保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未成年者ヲシテ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ就キ又ハ前條ノ種痘所ニ以テ種痘ヲ受ケシムベシ

第四條 市町村長ハ痘瘡、猩紅熱、實布埜利亞 格魯布ヲ含ム 丹毒、麻疹、百日咳ノ患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シ又ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行フベシ

第五條 種痘ヲ猶豫セラレタル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ事故ノ消滅シ又ハ猶豫期間ノ経過シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムベシ

第六條 種痘法第九條ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ遅クモ次回ノ種痘施行期ニ於テ種痘期日ヲ指定スベシ

前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケザルトキハ市町村長ハ直ニ種痘ヲ行フベシ

第七條 檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ間ニ於テ之ヲ指定スベシ

第八條 種痘濟證、種痘證及種痘猶豫證ハ附錄樣式ニ據ルベシ

第九條 左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ種痘濟證交付後又ハ届出ヲ受ケタル後二月以内ニ其ノ本籍地ノ戸籍吏ニ通知スヘシ

- 一 第一期種痘善感シタル者
  - 二 第二期第二回ノ種痘不善感ナル者
  - 三 第一期種痘施行前瘡ヲ經過シタル者
- 第十條 市町村長ハ戸籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘法第八條ニ依ル符號ノ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ其ノ者ガ本籍地外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ市町村長ニ通知スヘシ
- 第十一條 種痘法第十二條第二項ノ届出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ醫師ノ證明書ヲ得テ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第十二條 種痘法第十四條ニ依リ警察官又ハ市町村吏員ノ請求アル場合ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セザルコトヲ證明スル者ハ種痘濟證ヲ提示スルコトヲ要セス
- 一 痘瘡經過

- 二 種痘猶豫
  - 三 小學校之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ保育證書ニ種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ
  - 四 第一期種痘法第八條ニ依レル符號ノ記入アル戸籍謄本又ハ抄本
  - 五 市町村長ノ證明書
  - 六 種痘又ハ痘瘡ノ痕跡但シ第二期種痘ニ付テハ其ノ痕跡
- 第十三條 地方長官ハ臨時種痘ヲ命セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ

附 則

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ施行ス（様式ハ略ス）

又同法ニ依ル施術心得ハ、同日内務省告示第百七十九號ヲ以テ、左ノ通り改正セリ

○第六十一章 種痘施術心得

（同日内務省告示第百九十七號）

第一條 種痘ニ要スル痘苗ハ牛痘苗ヲ用フベシ

附錄 種痘規則 種痘施術心得

第二條 痘苗ハ冷暗所(氷室、地下室又ハ深井内等)ニ貯藏シ製造所ノ指定シタル期間内ニ之ヲ使用スベシ

第三條 種痘ノ接種量ハ製造所ノ指定ニ從フベシ  
痘苗ハ之ヲ稀釋スベカラズ

第四條 痘苗使用ノ際ハ其ノ内容ヲ漿盤上ニ出シ能ク之ヲ攪拌混和スベシ

第五條 痘苗接種ノ部位ハ上膊ノ伸側ヲ可トス  
接種ニ臨ミテハ先ツ局所ヲアルコホル又ハ他ノ消毒藥液ヲ以テ消毒シ次ニ滅菌シタルガーゼ又ハ脱脂綿ヲ以テ丁寧ニ之ヲ拭淨スベシ

第六條 種痘ノ場所ハ相當廣潤ニシテ清潔ナル場所ヲ撰ビ其ノ換氣、採光暖室ニ注意スベシ

第七條 施術者ハ成ルベク上衣ヲ着シ且豫メ手指ヲ消毒スベシ

第八條 漿盤及種痘針使用ニ先チ「アルコホル」又ハ他ノ消毒藥液ヲ以テ之ヲ消毒シ次ニ滅菌シタルガーゼヲ以テ之ヲ拭淨スベシ但シ適當ナル他ノ消毒方法ニ依ルモ妨ナシ  
種痘針ハ受痘者人毎ニ前項ニ依リ之ヲ處置スベシ

第九條 接種ノ方法ハ切種式ニ依ルベシ即チ局部ノ皮膚ヲ緊張シ相當量ノ痘苗ヲ塗布シタル後切種用種痘針ヲ以テ其ノ部ニ淺キ十字切(長サ一分乃至二分)若ハ單線切(長サ約二分)ヲ施シ更ニ種痘針ノ平面ヲ以テ痘苗ヲ擦入スベシ  
切種ニ際シテハ成ルベク出血セザル様注意スベク僅ニ紅痕ヲ呈スルヲ以テ適度トス

第十條 接種數ハ第一期種痘ニ在リテハ右上膊四切乃至六切、第二期種痘其ノ他ニ在リテハ左上膊六切トシ各切ノ距離ハ五分以上ナルヲ要ス但シ必要アルトキハ他側又ハ他ノ部位ニ接種スルモ妨ナシ

第十一條 施術者ハ受痘者ノ健康状態ニ注意シ左ノ各號ニ該當スル者ニハ成ルベク種痘ヲ猶豫スベシ但シ第四號ヲ除ク外痘瘡流行ノ場合ハ此ノ限ニアラス

- 一 出生後九十日未滿ノ者
- 二 著シク榮養障礙ニ陷レル者
- 三 蔓延性皮膚病ニ罹リ居ル者
- 四 熱性病又ハ重症疾病ニ罹リ居ル者

附錄 種痘施術心得

第十二條 檢診ノ場合ニ依テ注意スベキ要項左ノ如シ

- 一 定型痘顆粒ニ以上發痘シタルモノヲ善感トス但シ第二期種痘以後ニアリテハ接種ノ日ヨリ第三日後ニ於テ一顆以上ノ小結節又ハ水泡ヲ生シタルモノモ亦善感トス
- 二 接種ノ痕跡消失シタルモノ、不正ナル膿疱ヲ生ジタルモノ潰瘍ニ陥リ又ハ痂皮ヲ結ビタルモノ又ハ第一期種痘ニ在リテ發痘一顆ナルモノヲ不善感トス

第十三條 施術者又ハ當該吏員ハ受痘者又ハ其ノ保護者ニ對シ種痘後注意スヘキ事項ヲ指定スヘシ

○第六十二章 藥品營業並ニ藥品取扱規則

明治三十二年三月十六日法律第十號藥品營業并ニ藥品取扱規則略ス

內務省令第四號(同追加)

明治二十二年三月法律第十號藥品營業并藥品取扱規則第三十五條ニ依リ  
 明治二十五年三月當省令第二號毒藥劇藥品目中劇藥ノ部「コツホ氏ツベルクリン」トアルヲ「コツベルクリン」ト改メ「コツホ氏新ツベルクリン」ノ次ヘ左ノ通追加シ明治三十六年三月一日ヨリ施行ス

明治三十六年六月二十四日 內務大臣 男爵 内海 忠勝  
 チフテリア血清 破傷風血清 ジウレチン 鹽酸ヘロイン

○第六十三章 痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則

內務省令第五號

痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則左ノ通定ム

明治三十四年六月二十四日 內務大臣 男爵 内海 忠勝

痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則

第一條 痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ製造セムトスルモノハ左ノ事項ヲ具シテ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

- 一、製造所ノ名稱及位置
  - 二、製造品ノ種類、製造ノ方法、有効期限、販賣價格
  - 三、製造所ノ建物畜舎ノ構造、敷地ノ坪數及圖面
  - 四、所長及主任技術者ノ氏名履歷
- 前項ノ認可ヲ受ケタル後前各號ノ事項ニ變更ヲ要スルトキハ更ニ認可

附錄

藥品營業並ニ藥品取扱規則 痘苗及血清 一一一五  
 其他細菌學的豫防治療品製造取締規則

ヲ受クベシ

第二條 地方長官ハ必要ト認ムルトキハ本則ノ認可ヲ取消スルアルベシ  
第三條 本則施行ノ際痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品ヲ販賣ノ目的  
ヲ以テ製造スルモノハ本則施行ノ日ヨリ四ヶ月内ニ本則ニ據リ認可ヲ  
受クベシ

第四條 本則ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下  
ノ重禁錮ニ處ス

第五條 本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ施行ス  
第六條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

○第六十四章 學校醫職務規程  
(明治三十三年三月二十六日文部省令第五號)

第一條 學校醫ハ本令ニ規定アルモノ、外地方長官ノ命ヲ受ケ學校衛生  
ニ關スル職務ニ從事ス

第二條 學校醫ハ毎月少クトモ一回教授時間内ニ於テ當該學校ニ至リ衛  
生上ノ事項ヲ視察スベシ  
學年ノ終及始メニ於テハ特ニ該學校ニ到リ視察スルコトヲ要ス

第三條 學校醫ハ學校視察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ視察簿ニ記入スベ  
シ

- 一 換氣ノ良否
  - 二 採光ノ適否
  - 三 机腰掛ノ適否
  - 四 前列及最後列ノ机ト黑板トノ距離
  - 五 煖爐ノ有無及煖爐ト最近生徒トノ距離
  - 六 室内ノ温度
  - 七 圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否
  - 八 學校清潔方法實行ノ情況
  - 九 飲料水ノ良否
  - 十 其ノ他衛生上ニ必要ナル事項
- 第四條 學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル生徒ヲ發見シタルトキハ其  
病症ニ依リ缺課休校又ハ療治ヲナサシムベキヲ學校長ニ申告スベシ
- 第五條 學校醫ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規定ニ  
依リ生徒ノ身體ヲ檢查シ身體檢查票ヲ調製スベシ



學校醫ハ生徒ノ入學退學等ニ際シ學校長ノ請求ニ應ジ其生徒ノ身體ヲ  
検査スベシ

第六條 學校醫ハ學校ノ近傍若クハ學校内ニ於テ傳染病ノ發生シタルト  
キハ數次學校ニ到リ必要ナル豫防消毒方法ヲ施行シ尙其狀況ニ依リ學  
校ノ全部若クハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理者及學校  
長ニ申告スベシ

通學生徒ノ所在地ノ傳染病ノ發生シタル場合ニ於テ其通學生徒ノ昇校  
ヲ禁ズベキ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スベシ

第七條 學校醫ハ衛生上必要ト認メタル事項ニ就テハ管理者及學校長ニ  
申告スベシ

第八條 此規程施行ノ爲メ必要ナル細則ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得  
○第六十五章 學生生徒身體検査規程

(明治三十三年文部省令第四號)

第一條 學生生徒ノ身體検査ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スベシ

第二條 明治三十一年勅令第二號第一條第二項ニ依リ學校醫ヲ置カザル

場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三條 身體検査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ但シ學校醫ヲ置カザ  
ル場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムコトヲ得

第四條 身體検査ハ左ノ項目ニ就キ施行スベシ  
一身長、 一體重、 三胸圍、 四脊柱、 五體格、 六視力、

七眼疾、 八聽力、 九耳疾、 十齒牙、 十一疾病、  
小學校ニ在リテハ視力聽力ノ二項目ヲ検査スルコトヲ要セズ、但シ著  
シキ障害アリト認ムルモノハ此限ニアラズ

第五條 身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スベシ

一 検査器械ハ「メートル」式ニ從ヒ衡器ハ水準器ヲ具ヘタルモノヲ可  
トス

二 検査ノ表記ニハ衡ハ「キログラム」度ハ「センチメートル」ヲ以テ一  
位トシ以下四捨五入法ヲ用ヒテ小數一位ヲ作ルベシ

三 身長ヲ測定スルニハ足袋靴等ヲ脱セシメ兩膝ヲ密接シテ直立シ兩  
上肢ヲ鉛直シテ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムベシ又女子ニシテ鬚アル  
者ハ小髻ヲ鬚下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スベシ

- 四 體重ハ着衣ノ儘測定シタルトキハ其着衣ノ重量ヲ全重量ヨリ却去スヘシ
  - 五 胸圍ハ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ自然ノ位置ニアラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ當時ヲ測定スベシ充盈空ノ虛差ヲ測定スルル亦同シ但小學校生徒ニアリテハ當時ノミヲ測定スル者トス
  - 六 脊柱ハ正、左彎、右彎、後屈及屈彎ノ程度ヲ検査シ強中弱ノ三種ニ區別スベシ
  - 七 體格ハ強健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スベシ
  - 八 視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キ各別ニ検査スベシ
  - 九 聽力ハ其障害ノ有無ヲ検査スベシ
  - 十 齒牙ハ齲齒ノ有無ヲ検査スベシ
  - 十一 疾病ハ腺病、榮養不良、貧血、脚氣、肺結核、頭痛、衄血、神經衰弱其他慢性疾病等ノ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スベシ
- 前各號ノ外身體検査上必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フ行シ
- 第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ左ノ様式ニ依リ身體検査票ヲ調製スヘシ

身體検査票 (男女)

| 校何名(科) | 姓名 | 出生年月 | 身長 | 體重 | 胸圍 |      | 體格 | 検査年月 | 校何名(科) | 姓名 | 出生地 | 學年 | 視力 |   | 眼疾 | 聽力 | 耳疾 | 齒牙 | 疾病 | 備考 | 検査醫姓名印 |  |
|--------|----|------|----|----|----|------|----|------|--------|----|-----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|--------|--|
|        |    |      |    |    | 常時 | 圍盈虛差 |    |      |        |    |     |    | 右  | 左 |    |    |    |    |    |    |        |  |
|        |    |      |    |    |    |      |    |      |        |    |     |    |    |   |    |    |    |    |    |    |        |  |



○第六十六章

日本帝國自明治四十年最近公私立小學校中學校體格檢查成績表  
文部省第三十二號報至四十一年高等女學校師範學校等

(一) 公立私立小學校兒童身長體重胸圍各體格年齡別(男)

成績表

| 年齡    | 檢 查    |        |      | 體 格  |        |        |
|-------|--------|--------|------|------|--------|--------|
|       | 人 員    | 平 均    | 平 均  | 強 健  | 中 等    | 薄 弱    |
| 七 年   | 八二・〇四  | 一〇六・五  | 一七・四 | 四四・〇 | 四六・〇二五 | 六・三六七  |
| 八 年   | 八五・六二五 | 一一〇・四  | 一九・〇 | 五五・六 | 四八・〇〇四 | 六・二九四  |
| 九 年   | 八四・六四四 | 一一一・〇三 | 二〇・九 | 五七・六 | 四六・六五三 | 五・五八五  |
| 十 年   | 八三・二八〇 | 一一三・〇〇 | 二二・九 | 五九・四 | 四七・六二二 | 四・六二〇  |
| 十 一 年 | 八三・九八五 | 一一三・五  | 二四・七 | 六二・五 | 四七・六二二 | 四・六二〇  |
| 十 二 年 | 八三・三二八 | 一一三・八  | 二七・〇 | 六三・二 | 四七・八三二 | 四・〇九九  |
| 十 三 年 | 八〇・〇五六 | 一一三・九  | 二九・五 | 六五・二 | 四五・八七九 | 三・〇一八  |
| 十 四 年 | 七三・二二五 | 一一三・九  | 三二・八 | 六八・四 | 四五・〇六九 | 一・八一五  |
| 十 五 年 | 六六・六九六 | 一一四・五〇 | 三五・八 | 七〇・〇 | 四六・七七七 | 三・六一七〇 |
| 十 六 年 | 六一・七五  | 一一四・五〇 | 三六・八 | 七二・七 | 四六・〇   | 三・〇    |

(二) 公立私立小學校兒童身長體重胸圍各體格年齡別(女)

| 年齡    | 檢 查    |       |      | 體 格    |        |       |
|-------|--------|-------|------|--------|--------|-------|
|       | 人 員    | 平 均   | 平 均  | 強 健    | 中 等    | 薄 弱   |
| 七 年   | 七三・一六  | 一〇五・三 | 一六・四 | 四二・六九  | 四三・三三九 | 六・四九九 |
| 八 年   | 七五・五七七 | 一〇九・七 | 一八・四 | 四四・二五  | 四五・五三四 | 六・六二八 |
| 九 年   | 七三・一六〇 | 一一四・二 | 二〇・二 | 四五・九五六 | 四三・七九四 | 五・九三二 |
| 十 年   | 七二・一〇〇 | 一一二・〇 | 二二・九 | 四六・二四〇 | 四三・六七三 | 五・四四八 |
| 十 一 年 | 七二・七三三 | 一一三・二 | 二二・三 | 四七・一   | 四三・九三三 | 五・四四八 |
| 十 二 年 | 七三・三六〇 | 一一二・一 | 二二・八 | 四七・二三四 | 四三・九三三 | 五・四四八 |
| 十 三 年 | 七三・四二七 | 一一三・六 | 二二・三 | 四七・二三四 | 四三・九三三 | 五・四四八 |
| 十 四 年 | 七三・三三七 | 一一三・一 | 二二・八 | 四七・二三四 | 四三・九三三 | 五・四四八 |
| 十 五 年 | 七三・三〇〇 | 一一三・〇 | 二二・三 | 四七・二三四 | 四三・九三三 | 五・四四八 |
| 十 六 年 | 七三・三〇  | 一一三・〇 | 二二・三 | 四七・二三四 | 四三・九三三 | 五・四四八 |

附錄

學生生徒身體檢查規程

(三) 中學校 (男)

| 年齡   | 檢查  |     | 體格  |     | 視力 |    | 胸圍  |
|------|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|
|      | 人員  | 平均  | 強健  | 中等  | 正視 | 近視 |     |
| 三十三年 | 六〇六 | 三三九 | 三〇三 | 三〇八 | 正視 | 正視 | 六〇〇 |
| 三十二年 | 九〇五 | 四八三 | 二〇五 | 二〇五 | 正視 | 正視 | 五八〇 |
| 三十一年 | 三〇三 | 一八三 | 一〇五 | 一〇五 | 正視 | 正視 | 五七〇 |
| 三十年  | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |
| 二十九年 | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |
| 二十八年 | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |
| 二十七年 | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |
| 二十六年 | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |
| 二十五年 | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |
| 二十四年 | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |
| 二十三年 | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |
| 二十二年 | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |
| 二十一年 | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |
| 二十年  | 二〇五 | 一四九 | 八〇  | 八〇  | 正視 | 正視 | 五六一 |

(四) 公立私立高等女學校生徒身長體重胸圍體格視力年齡別 (女)

| 年齡   | 檢查  |     | 體格  |     | 視力 |    |
|------|-----|-----|-----|-----|----|----|
|      | 人員  | 平均  | 強健  | 中等  | 正視 | 近視 |
| 三十三年 | 三〇七 | 一三七 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 三十二年 | 四〇七 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 三十一年 | 三〇三 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 三十年  | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 二十九年 | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 二十八年 | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 二十七年 | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 二十六年 | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 二十五年 | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 二十四年 | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 二十三年 | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 二十二年 | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 二十一年 | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |
| 二十年  | 二〇五 | 一四三 | 一〇三 | 一〇三 | 正視 | 正視 |

附錄 學生生徒身體檢查規程

(五) 師範學校生徒身長體重胸圍體格視力年齡表(男)

| 年齡   | 檢查 |       | 體格 |    | 視力 |    |
|------|----|-------|----|----|----|----|
|      | 人員 | 平均    | 健全 | 中等 | 正視 | 遠視 |
| 十六年  | 九七 | 一五七.七 | 三〇 | 八〇 | 二〇 | 一〇 |
| 十七年  | 九七 | 一五七.八 | 三〇 | 八〇 | 二〇 | 一〇 |
| 十八年  | 九七 | 一五七.九 | 三〇 | 八〇 | 二〇 | 一〇 |
| 十九年  | 九七 | 一五八.〇 | 三〇 | 八〇 | 二〇 | 一〇 |
| 二十年  | 九七 | 一五八.一 | 三〇 | 八〇 | 二〇 | 一〇 |
| 二十一年 | 九七 | 一五八.二 | 三〇 | 八〇 | 二〇 | 一〇 |
| 二十二年 | 九七 | 一五八.三 | 三〇 | 八〇 | 二〇 | 一〇 |
| 二十三年 | 九七 | 一五八.四 | 三〇 | 八〇 | 二〇 | 一〇 |
| 二十四年 | 九七 | 一五八.五 | 三〇 | 八〇 | 二〇 | 一〇 |
| 二十五年 | 九七 | 一五八.六 | 三〇 | 八〇 | 二〇 | 一〇 |

(六) 師範學校(女)

| 年齡   | 檢查 |       | 體格 |    | 視力 |    |
|------|----|-------|----|----|----|----|
|      | 人員 | 平均    | 健全 | 中等 | 正視 | 遠視 |
| 十五年  | 七五 | 一四七.三 | 八〇 | 三〇 | 一〇 | 一〇 |
| 十六年  | 七五 | 一四七.四 | 八〇 | 三〇 | 一〇 | 一〇 |
| 十七年  | 七五 | 一四七.五 | 八〇 | 三〇 | 一〇 | 一〇 |
| 十八年  | 七五 | 一四七.六 | 八〇 | 三〇 | 一〇 | 一〇 |
| 十九年  | 七五 | 一四七.七 | 八〇 | 三〇 | 一〇 | 一〇 |
| 二十年  | 七五 | 一四七.八 | 八〇 | 三〇 | 一〇 | 一〇 |
| 二十一年 | 七五 | 一四七.九 | 八〇 | 三〇 | 一〇 | 一〇 |
| 二十二年 | 七五 | 一四八.〇 | 八〇 | 三〇 | 一〇 | 一〇 |
| 二十三年 | 七五 | 一四八.一 | 八〇 | 三〇 | 一〇 | 一〇 |
| 二十四年 | 七五 | 一四八.二 | 八〇 | 三〇 | 一〇 | 一〇 |

附錄 學生生徒身體檢查規程 一一二九

○第六十七章 學校清潔方法

(明治三十年 文部省訓令第一號)

清潔方法ヲ分チテ日常清潔方法定期清潔方法及浸水後清潔方法トス

甲 日常清潔方法

- 一 教室及寄宿者ハ毎日人ナキ時ニ於テ先ツ窓戸ヲ開キ如露ヲ以テ少シク牀板及階段ヲ潤シ掃出シタル後濕布ヲ以テ建具學具等ヲ拭フハシ、但掃除ノ爲メニ室内ヲ潤スハ生徒ノ再ヒ之ニ入ル迄テニ充分ニ乾燥シ了ルヲ度トスヘシ
- 二 教室及寄宿舎ハ其人員ニ應ジ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺トヲ備ヘ紙片其他棄却物ハ必ス紙屑籠ニ投入シ痰唾ハ必ス唾壺ニ於テシ決シテ室内廊下等ニ放下セシム可ラス紙屑籠及唾壺ハ毎日之ヲ掃除スヘシ
- 三 寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用キル履物ヲ禁スヘシ但止ムヲ得サル事情アリ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラザルコトヲ務ムヘシ
- 四 靴ノ儘昇降スル校舎ノ出入口ニハ人員ニ應シ靴拭ヲ備フヘシ

五 寢具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆寢衣等ハ務メテ洗濯スヘシ

六 便所ノ尿溝及注壁等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ圓房ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ樋箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設クヘシ

七 尿壺内ニハ防臭藥トシテ粗製過滿掩酸加里、粗製格魯兒滿掩(以上乃至三)硝酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燥土粉灰等ヲ撒布シ期ヲ愆ラズ(百倍以上)汲取ラシムヘシ

八 食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭煙氣又ハ湯氣ノ鬱滯ナキヲ務メ且掃除ヲ怠ルベカラズ殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其食卓等ヲ拭フヘシ

九 芥葉場ノ不潔物ハ愆ラズ搬送セシムヘシ

十 下水ハ常ニ疏通セシメ炊事場、浴室、洗面所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フヘシ

十一 庭園、體操場、遊戯場、籬下、椽下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムヘシ

定期清潔方法

定期清潔方法ハ毎年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シテ之ヲ行フモノトス

- 十二 先ツ教室、寄宿舎内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ヲ室外ニ出シ戸、障子、窓掛等ヲ外シ敷物ヲ剥キタル後如露ヲ以テ牀板及廊下ヲ潤ホシ天上、四壁牀板、廊下等悉ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及器具等ハ熱湯汁若クハ石鹼水ヲ以テ洗滌スヘシ
- 十三 簷下、牀下等モ手ノ届ク限り之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及簷廻リハ龍吐水等ヲ以テ洗滌スヘシ
- 十四 寢具、窓掛、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ得ベカラザルモノハ先ツ其塵ヲ拂セ書籍文具ト共ニ數日之ヲ日光ニ曝シ刷掃スヘシ
- 十五 器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラザレハ室内ニ持込ムヘカラス室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムベシ

十六 牀板、壁面等ニ虧隙アルモノハ此際之ヲ填塞シ風抜穴煙突等ノ塵煤ハ之ヲ除去スヘシ

十七 浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中體操場、便所、下水、芥棄場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且大掃除ヲ行フヘシ

丙 浸水後清潔方法

洪水ノ爲メ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ

十八 水ニ浸サレタル校舍殊ニ寄宿舎ノ建築牀板等ハ取外シテ空氣ヲ通シ且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合ニヨリテハ焚火火鉢等ヲ用井テ乾燥セシムヘシ

十九 建具、牀板、校具、腰掛等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後可成之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ

二十 浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ浚渫シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スベシ、但開校後一箇月間ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スベシ

二十一 右ノ外定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スベシ



○第六十八章 學校傳染病豫防及消毒方法

(明治三十一年九月二十八日 文部省訓令第二十號)

其一 豫防方法

第一條 學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ

第一類

甲 痘瘡及假痘、實布埤利亞、猩紅熱、發疹窒扶斯、ペスト

乙 百日咳、麻疹、流行性感胃、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、肺

結核、癩病、

第二類

赤痢、虎列刺、腸窒扶斯、

第三類

傳染性皮膚病、傳染性眼炎

第二條 第一條第一類甲又ハ第二條ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ昇校スルコトヲ得ス

前項ノ職員生徒等其傳染病治癒シタル後昇校セントスルトキハ先ツ全

身浴ヲ行ヒテ衣服ヲ更メ且ツ醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキヲ證明スルコトヲ要ス

第三條 第一條第一類乙又ハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ其病況ニ依リ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタルモノニアラザレハ昇校スルコトヲ得ス

第四條 職員生徒等ニシテ家族又ハ同居人中ニ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタルモノアルトキ又ハ學校内ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其患者死體又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ觸接シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニアラザレハ昇校スルコトヲ得ス

第五條 教員舎監等學校内ニ於テ第一條ノ傳染病若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スベシ學校長ハ醫師ヲシテ診斷セシメ相當ノ處置ヲナスベシ

第六條 學校内、學校所在地及其近傍若クハ生徒通學區域内ニ於テ第一條ノ傳染病發生シタルトキハ其病況ニヨリ必要ト認ムルトキハ全校若クハ其一部ヲ閉鎖スベシ

第七條 學校所在地若クハ其近傍ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ明治三十年文部省訓令第一號ニ從ヒ充分ノ清潔方法ヲ施行スベシ但シ第一條第二類ノ傳染病發生シタルトキハ校舍内ニ於テ使用スル飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用フヘシ

第八條 生徒通學區域内ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四時間以内ニ其旨管理者ニ届ケ出ベシ

第九條 傳染病ノ爲メニ閉鎖シクル學校若クハ其舍室ハ再ビ使用スルニ先チ明治三十三年文部省訓令第一號定期清潔方法ノ各項ヲ施行スベシ

其二 消毒方法

第十條 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其死體排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑ヒアル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒法ヲ施行スヘシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒法ヲ應用スベシ

一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ死體、第一類ノ傳染病患者

ノ用ヒタル睡蓐、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル圍房其他障壁、牀、

疊、建具、寢臺、器具等ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スベシ

二 第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰ヲ以テ

消毒シ強亞爾加里性反應ヲ呈スルニ至ルベシ

三 食器被服寢具等ハ煮沸又ハ蒸氣消毒ニ附スベシ

四 消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ燒却スベシ

五 前各項ノ消毒ニ適セザルモノハ「フオルムアルデヒド」ニ依リ

消毒スルカ又ハ刷掃シ數日間日光ニ曝スベシ

第十一條 消毒ニ供フル藥劑並其應用ハ左ノ如シ

一 石炭酸水(二十倍) (結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十  
四分ヲ攪拌シ溶解シタルモノ)

本品ハ死體、吐瀉物其他ノ排泄物、器具、居室、手足等ノ消毒ニ用  
フ又衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘザルモノヲ用フヘシ

二 生石灰末 (生石灰ニ少量ノ水ヲ灌キ崩壞セシメ  
タルモノ但用ニ臨ミテ之ヲ製スヘシ)

本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一  
ヲ用ユヘシ又溝渠、芥溜、牀下等ヲ消毒スルニ用フ

石灰乳(十倍) (生石灰一分ニ水千分ヲ攪拌混合シタルモノ)

本品ノ應用ハ生石灰末ニ同シク吐瀉物等ニハ其分量ノ四分ノ一ヲ用フ

三 格魯兒石灰水(二十倍) (格魯兒石灰五分ニ水九十) 五分ヲ攪拌混和セルモノ)

格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スベシ

四 「フオルムアルデヒード」

「フオルムアルデヒード」ニ依リ消毒スルニハ消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付日本藥局方「フオルマリシ」四十瓦以上ヲ噴霧スルカ又ハ適當ノ裝置ニ依リ「フオルムアルデヒード」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ但消毒函又ハ室ハ使用前約十二時間寒冷ニ保持スルヲ要ス若シ室ニ虧隙アルトキハ昇汞液中ニ浸漬セル綿ヲ以テ之ヲ栓塞スヘシ

附 則

第十二條 此省令ハ幼稚園ニ適用ス

○第六十九章 肺結核豫防ニ關スル件

(明治三十七年二月四日內務省令第一號)

第一條 學校、病院、製造所、船舶發着待合所、劇場、寄席、旅店其ノ他地方長官ノ指示スル場所ニハ適當數箇ノ唾壺ヲ配置スベシ

警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適當ナルカ若クハ其ノ箇數充分ナラズト認ムルトキハ期間ヲ定メテ唾壺ノ變更ヲ命ジ若クハ箇數ヲ指定シテ之ヲ増置セシムルコトヲ得

前項ノ唾壺ニハ唾痰ノ乾燥飛散ヲ防グ爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キ唾壺内ノ唾痰ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラザレバ投棄スベカラズ

第二條 前條ノ場合ニ於テハ何人ト雖モ唾壺以外ニ唾液ヲ喀出スルコトヲ得ズ

第三條 地方長官ノ指定シタル礦泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲グル事項ヲ遵守スベシ

- 一 營業用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

- 二 前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト
- 三 肺結核患者若クハ其疑アル患者ナルコトヲ知リタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニアラザレバ他人ヲ宿泊セシメザルコト
- 四 前號ニ掲グル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラザレバ他人ニ使用セシメザルコト

第四條 病院ハ左ニ掲グル事項ヲ遵守スベシ

- 一 肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セザルコト
- 二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラザレバ他ノ患者ヲ收容セザルコト
- 三 結核病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト

第五條 監獄、官公立ノ學校、病院、養育院、育兒院、製造所、官設及私設ノ鐵道停車場、同客車ニ於テハ其ノ首長ハ本令ノ規定ニ準ジ相當ノ措置ヲ爲スベシ

第六條 消毒方法ハ明治三十年五月內務省令第十三號ニ依ルベシ但シ唾痰ヲ消毒スルニハ石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十四

分ヲ使用スベシ

第七條 第一條第一項ニ違背シテ唾壺ヲ配置セザル者警察官署ノ指定シタル期間ニ其命令ヲ履行セザル者同條第三項及第三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十條 第七條第九條ノ罰金ハ使用人其他ノ從業者ノ所爲ト雖モ之ヲ其首長又ハ營業者ニ科ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其他ノ從業者法人ノ業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰金ハ之ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スベキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十一條 本令ノ規定ハ廳府縣令ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ妨ゲズ

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

○第七十章

有害性著色料取締規則第二條野菜

果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試験

方法

(明治三十七年十一月七日内務省令第十五號)

檢體五「グラム」ヲ磁製坩堝ニ取り熱灼シテ炭化セシメ冷後硝子棒ヲ以テ搗碎シテ粉末トナシ稀硝酸約五立方「センチメートル」ヲ注加シテ温浸シ「エルレンマイエル」硝子壺中ニ濾入シ濾紙上ノ殘留物ハ濾紙ト共ニ再ビ前ノ磁製坩堝ニ移シ乾燥シ熾灼シテ全ク灰化セシメ此殘灰ニ稀硝酸約二立方「センチメートル」ヲ加ヘ温浸シ濾過シ洗滌シ前ノ濾液ニ合シ「アムモニア」水ヲ以テ中和シタル後鹽酸ヲ性トナシ之ニ硫化水素ヲ通ジテ充分飽和セシメ壺口ヲ寬ク栓塞シ約三時間温所ニ放置シ全ク沈底セル硫化銅ヲ濾紙上ニ採取シ硫化水素水ヲ以テ善ク洗滌シタル後乾燥シ濾紙ト共ニ前ノ磁製坩堝内ニ於テ灰化シ殘灰ヲ數滴ノ硝酸ニ溶解シ重湯煎上ニ温メ「アムモニア」水ヲ注加シテアルカリ性トナシ若シ必要アレバ濾過シ茲ニ

得タル澄明ノ液ヲ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ蒸發シテ過剩ノ「アムモニア」ヲ驅逐シ中性反應ヲ呈スルニ至リ其中性液ヲ二百立方「センチメートル」ノ標線アル硝子壺ニ移シ硝酸「アムモニウム」溶液(硝酸「アムモニウム」百「グラム」ヲ蒸餾水一「リートル」ニ溶解シ其反應全ク中性ノモノ)ニ二十立方「センチメートル」ヲ注加シ水ヲ以テ全容量二百立方「センチメートル」トナス善ク混和シテ其二十立方「センチメートル」(原品〇・五「グラム」ニ相當ス)ヲ内徑約一・五「センチメートル」ノ無色試験管ニ取り又別ニ前ト同一ノ試験管數個ニ標準銅溶液(純結晶硫酸銅液、三九二七「グラム」ヲ蒸餾水一「リートル」ニ溶解シタルモノ)ニシテ其ノ一立方「センチメートル」中、〇・一「ミリグラム」ノ純銅ヲ含有ス)若干立方「センチメートル」ニ取り之ニ硝酸「アムモニウム」溶液二立方「センチメートル」ヲ加ヘ水ヲ以テ全容量二十立方「センチメートル」トナル後各試験管ニ新ニ製シタル黄色血瀉鹽溶液(用ニ臨テ黄色血瀉鹽一「グラム」ヲ蒸餾水一「リートル」ニ溶解シタルモノ)〇・五立方「センチメートル」ヲ加ヘ善ク混和シ十分時間内ニ白紙上ニ於テ上面ヨリ透視シ比色定量法ヲ行フベシ

○第七十一章

痘苗血清類賣捌規則

附錄

有害性著色料取締規則第二條野菜果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試験方法痘苗血清類賣捌規則

○内務省令第十六號

傳染病研究所痘苗血清類賣捌規則左ノ通り定ム

明治三十八年六月十三日 内務大臣 子爵 芳川 顯 正

○傳染病研究所痘苗、血清類賣捌規則

第一條 傳染病研究所ニ於テ製造賣捌ノ痘苗血清類左ノ各種トス

痘苗

チフテリア血清

破傷風血清

ツベルクリン

第二條 前條ノ痘苗、血清類ヲ要スル者ハ傳染病研究所ニ賣渡ヲ請求スベシ但シ血清「ツベルクリン」ノ請求者ハ醫師、藥劑師又ハ藥種商ニ限ル

官衙、公署其他公共團體ニ於テ血清「ツベルクリン」ヲ要スルトキハ其ノ賣渡ヲ請求スルコトヲ得

第三條 外國ヨリ痘苗、血清類ノ請求アリタルトキハ内地ノ供給ヲ妨ゲ

ザル限り之ニ應ズルモノトス

第四條 痘苗、血清類ノ定價ハ左ノ如シ但シ運送費ヲ要セズ

痘苗

チフテリア血清

液體チフテリア血清

第一號 一塚(六〇〇免) 疫單位 金六拾錢

第二號 一塚(一〇〇〇免) 疫單位 金一圓

第三號 一塚(一五〇〇免) 疫單位 金一圓五十錢

乾燥チフテリア血清 一塚(五〇〇〇免) 疫單位 金五圓

破傷風血清

液體破傷風血清

第一號 一塚(一〇〇〇免) 疫單位 金七十五錢

第二號

一 塚 (四〇〇免) 疫單位 金三圓

乾燥破傷風血清

一 塚 (一〇〇〇免) 疫單位 金六圓五十錢

ツベルクリン

一 塚 (三〇〇立) 方センチチ 金二圓

第五條 市町村 (之ニ準スヘキ) (モノヲ含ム) ニ於テ施行スル種痘ニ要スル痘苗ノ代價

ハ前條定價ノ半額トス

外國ヨリノ請求ニ係ル痘苗ハ清朝兩國ニ在リテハ其ノ代價ヲ前條定價ノ二倍其ノ他ノ國ニ在リテハ六倍トシ血清ツベルクリンハ總テ其ノ代價ヲ同定價ノ二倍トス

藥劑師 (現ニ藥品營業) (ヲ爲スモノ) 藥種商ニハ痘苗、血清類ヲ通ジテ特ニ前條定價ノ

一割ヲ減ジ賣渡スベシ

傳染病研究所長ハ特別ノ事情アリト認ムル者ニ限り内務大臣ノ認可ヲ經條件ヲ附シテ痘苗、血清類ノ定價ノ幾分ヲ減ジ之ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ代價ハ前條定價ノ半額ヲ下ルコトヲ得ズ

第六條 痘苗、血清類ノ代價ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ但シ官衙及外國ヨリノ請求ニ係ルモノハ此ノ限ニアラス

第七條 痘苗、血清類請求數量ニ對シ納付ノ收入印紙ニ過不足アルトキハ印紙相當ノ數量ヲ送付スルモノトス但シ一具若ハ一塚ノ代價ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第八條 傳染病研究所長ハ腸管扶斯血清、赤痢血清、虎列刺血清、ペスト血清、飯匙蛇毒血清、連鎖球菌血清、丹毒治療液ヲ相當代價ヲ以テ血清類ニ關スル本則ノ規定ニ準シ賣渡スコトヲ得

附 則

第九條 本則ハ明治三十八年六月二十日ヨリ施行ス

第十條 明治二十九年內務省令第八號痘苗賣下規則及同三十五年內務省令第十五號血清賣下規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

○第七十二章 醫師法

法律第四十七號(明治二十九年五月一日)

醫師法

第一條 醫師タラントスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 帝國大學醫科大學醫學科又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者

二 醫師試験ニ合格シタル者

三 外國醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

醫師試験ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學校ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非ザレハ之ヲ受クルヲ得ス

第二條 左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 公權停止中ノ者

三 未成年者、禁治產者、准禁治產者、聾者、啞者及盲者

第三條 禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 内務省ニ醫籍ヲ與ヘ醫師免許ニ關スル事項ヲ登録ス

登録スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 醫師ハ自ら診察セスシテ診斷書處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス

但シ診療中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條 醫師ハ診療簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第七條 醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醫師ハ醫師會ヲ設定スルコトヲ得

醫師會ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第九條 醫師會ハ醫師衛生ニ關シ官廳ノ諮問ニ應シ又ハ建議ヲ爲スコトヲ得

第十條 醫師法第二條第一號又ハ第三號ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取



消スヘシ醫師禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ  
若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ醫業ヲ  
停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ依ル場合亦同シ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖モ第二條第三號ノ原因正々タルトキ  
又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ

本條ノ處分ハ內務大臣之ヲ行フ但シ第二項第三項後段ノ場合ニ於テハ  
中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中醫業ヲ爲シタル  
者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者  
ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法施行前ノ醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖モ仍ホ其効力  
ヲ有ス

本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セサル官立、縣府醫學校ヲ卒業  
シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ有セザルモ免許ヲ與フルコトアル

ベシ

本法施行前醫術開業免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後ト雖モ醫業ヲ爲ス  
コトヲ得但シ免許地域外ニ診察所治療所又ハ其出張所ヲ設クルヲ得

ス前項但書ノ規定ハ往診治療ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十四條 本法施行後八箇年間ハ第一條第三項ノ規定ヲ適用セス醫術開  
業試験規則ニ依リ醫術開業試験ヲ舉行ス

前項ノ試験ニ合格シタル者ハ第一條第一項ノ資格ヲ有スル者ト見做ス

○第七十三章 醫師法第一條第一項第三號ニ依

リ免許ヲ與フル者ニ關スル件

勅令第二百四十四號(明治二十九年九月十一日)

第一條 醫師法第一條第一項第三號ニ依リ免許ヲ與フル者左ノ如シ

一 內務大臣ノ指定シタル外國ノ國籍ヲ有シ其ノ國ニ於テ醫師免許ヲ  
得タル者ニシテ內務大臣ニ於テ適當ト認定シタル資格ヲ有スル者

二 外國醫學校ノ卒業證書又ハ外國ノ醫師免許證書ヲ有スル帝國臣民  
ニシテ內務大臣ニ於テ適當ト認定シタル者

第二條 前條第一號ニ依リ指定ヲ爲スハ帝國ノ醫師ニ對シ試験ヲ要セス

附 錄

醫師法第一條第一項第三號ニ依リ免許ヲ 一一五一  
與フル者ニ關スル件 醫師法施行規則

醫師免許ヲ與フル國タルコトヲ要ス

### ○第七十四章 醫師法施行規則

內務省令第二十七號

醫師法施行規則左ノ通定ム

明治三十九年九月三日

內務大臣 原 敬

#### 醫師法施行規則

第一條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規則ノ資格竝ニ住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出スヘシ

第二條 醫籍ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

- 一 登錄番號及登錄年月日
- 二 族籍(外國人ナルトキハ其ノ國籍)氏名生年月日女子ナルトキハ其ノ旨
- 三 醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月

四 免許ノ取消醫業ノ停止其ノ事由、期間及年月日

五 免許證ノ再下付其ノ事由年月日

六 抹消ノ事由及年月日

第三條 醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所地ノ地方官長ヲ經由シ內務大臣ニ

醫籍訂正ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 醫師免許證ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日以内

ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項免許證ノ再下付ヲ申請スル付ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第五條 第一條第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手数料ニ相

當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ  
既ニ納付シタル登録税又ハ手数料ハ之ヲ還付セス

第六條 醫師醫籍登録ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ地方長官  
ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ醫師失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死  
亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續  
ヲ爲スヘシ

第七條 醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘ  
シ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官  
ニ届出ヅヘシ

第八條 醫師自己又ハ他人ノ診察所若ハ其出張所ニ於テ醫業ヲ開始シタ  
ルトキハ十日以内ニ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止廢止シ  
又ハ診察治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキハ亦同シ但シ其ノ移動ニ依  
リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヘシ  
官立又ハ私立ノ病院ニ於テ診察治療ニ従事スル場合ハ前項ニ依ルノ限  
ニ在ラス診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ診察又ハ治療ヲ  
爲ス場所ヲ謂フ

第九條 醫師死體又ハ四箇月以上ノ死産兒ヲ檢案シ異常アリト認ムルト  
キハ二十四時間以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十條 醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又  
ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ  
明記スベシ

第十一條 地方長官ハ醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ内務大  
臣ニ具申スベシ

第十二條 醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ  
住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スベシ

第十三條 醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許  
證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スベシ  
前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置  
シ期間滿了ノ後之ヲ還付スベシ

第十四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ム  
ル事項ヲ官報ニ公告ス  
一 醫籍ニ登録シ又ハ抹消シタルトキ

一 免許證再下附ノトキ  
 一 醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ  
 第十五條第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項第七條及  
 第八條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第十六條 第九條、第十條、第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ  
 二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本則ハ明治三十九年法律第四十七條醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○第七十五章 醫師法ニ依リ免許ヲ與フル國指定

內務省令第三十號

明治三十九年勅令第二百四十四號第一條第一號ニ依リ左記外國ヲ指定ス

明治三十九年九月二十七日 內務大臣 原 敬  
大不列顛國

○第七十六章 醫師會規約則

內務省令第三十三號

醫師會規約則左ノ通定ム

明治三十九年十一月十七日

內務大臣 原 敬

醫師會規約則

第一條 醫師會ハ郡市區醫師 及道府縣醫師會トス  
 本會ニ依リテ設立シタル醫師會ニ非ラザレバ前項ノ名稱ヲ附スルコト  
 ヲ得ス

第二條 郡市區醫師會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ會員ト爲ルベキ者十人  
 以上發起人ト爲リ會則案ヲ作り其ノ會員ト爲ルベキ者ノ總會議ニ付ス  
 ベシ

前項ノ總會議ハ會員ト爲ルベキ者ノ全員三分ノ二以上出席出席員三分  
 ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非ラザレバ議決ヲ爲スコトヲ得ス  
 會員ト爲ルベキ者百人以上ニ及ブトキハ總會議ニ出席スル者ニ委任シ  
 テ表決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委任者ヲ出席員ノ數ニ加算  
 ス

第三條 郡市區醫師會設立ノ議決ヲ經タルトキハ發起人ハ會則ヲ添へ地方

附錄

醫師法ニ依リ免許ヲ與フル國指定  
醫師會規約

長官ノ認可ヲ請フベシ  
地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ都市醫師會設立ノ旨ヲ告示スベシ

第四條 道府縣廳内ノ三分一以上ノ都市ニ於テ都市醫師會設立ニ至リタルトキハ道府縣醫師會ヲ設立スルコト得

第五條 道府縣醫師會ヲ設立セムトスルトキハ都市醫師會協議シ其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ會則ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ請フベシ

前項ノ場合ニ於ケル都市醫師會ノ同意ハ各其ノ總會ニ於テ會員又ハ議員ノ總數三分ノ二以上ノ多數決ナルコトヲ要ス

地方長官ニ於テ本條ノ認可ヲ爲シタルトキハ道府縣醫師會設立ノ旨ヲ告示スベシ

第六條 都市醫師會總會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選舉シタル議員ヲ以テ組織スルコトヲ得

道府縣醫師會總會カ都市醫師會ニ於テ選舉シタル議ヲ以テ組織ス

前二項ノ場合ニ於テ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ醫事衛生ニ關シ學識又ハ經驗アル者ニ就キ議員總數五分ノ一以内ノ特別議員ヲ命ズルコ

トヲ得

特別議員ハ總會ニ出席シ議事ニ參與シ議決ニ加ハルモノトス但シ會則ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限りニ在ラズ

第七條 醫師會ハ其ノ總會ノ議決ニ依リ之ヲ解散スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ十日以内ニ地方長官ニ届出ベシ

前項ノ議決ハ會員又ハ議員ノ總數三分ノ二以上ノ多數決ナルコトヲ要ス

第八條 官立若ハ公立ノ病院ヲ除ク外自己又ハ他人ノ診察所治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ醫業ニ従事スル醫師ハ總テ其ノ所在地ノ都市醫師會ノ會員トス

前項以外ノ醫師ト雖モ會則ノ定ムル所ニ依リ醫師會會員ト爲ルコトヲ得

地方長官ハ必要ト認ムルトキハ前二項以外ノ醫師ニ對シ醫師會加入ヲ命ズルコトヲ得

第九條 道府縣醫師會ハ其ノ道府縣内ニ在ル都市醫師會ノ全部ヲ以テ組織ス

附錄 醫師法ニ依リ免許ヲ與フル國指定  
醫師會規則

第十條 郡市醫師會ハ會員中醫師法ニ第二號第三號ニ該當シ又ハ業務ニ關シテ不正ノ行爲アリテ免許取消又ハ醫業停止處分ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得

郡市醫師會ハ會員中免許取消又ハ醫業停止處分ヲ受ケムトスル者アル場合ニ於テ辨疏ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ事實ヲ內務大臣ニ具申スルコトヲ得醫師法第十條第三號ニ該當スル者アリト認ムルトキ亦同ジ

第十一條 郡市醫師會規則ニハ會則ニ違背シタル會員ニ對シ百圓以下ノ過怠金ヲ徵收スルノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ醫師會ニ命ズルコトヲ得

第十三條 醫師會ノ費用ハ郡市醫師會ニ在リテハ會員ノ負擔トシ道府縣醫師會ニ在リテハ郡市醫師會ノ負擔トス

第十四條 ノ醫師會會則ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ  
前項ノ外醫師會ノ議決ニシテ届出又ハ認可ヲ要スルモノハ地方長官之ヲ定ム

第十五條 醫師會ノ議決ニシテ法令、會則ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認

ムルトキハ地方長官ハ其ノ議決ヲ取消シ又ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ議員ノ改選若ハ醫師會ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

役員ノ行爲ニシテ法令、會則ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ解職ヲ命ズルコトヲ得

前項ニ依リ解職セラレタル者ハ三箇年間役員ト爲ルコトヲ得ズ

第十六條 北海道沖繩縣及島嶼ニ關シ別段ノ規定ヲ要スル者ハ地方長官之ヲ定ム

附 則

第十七條 土地ノ狀況ニ依リ二以上ノ郡市ニ於ケル醫師共同シ醫師會ヲ設立スルコトヲ得

土地ノ狀況ニ依リ第二條及第三條ノ手續ニ準シ道府縣醫師會ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市醫師會ハ解散スルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ道府縣醫師會ノ支部ヲ置クコトヲ得  
本令中郡市醫師會ニ關スル規定ハ本條第一項ヲ除クノ外之ヲ本條第二項ノ醫師會ニ適用ス

第十八條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區醫師會ヲ設立シ區醫師會

協議シ第四條及第五條ハ規定ニ準シ市醫師會ヲ設立スルコトヲ得  
 第二條及第三條ハ手續ニ依リ市醫師會設立ニ至リタルハ前項ノ區醫  
 師會及市醫師會ハ解散スルモトス此ノ場合ニ於テハ市醫師會ノ支部  
 ナ置クコトヲ得本令中郡市醫師會ニ關スル規定ハ第四條及第五條ヲ除  
 ク外之ヲ區醫師會ニ準用ス道府縣醫師會ニ關スル規定ハ之ヲ本條第一  
 項ノ市醫師會ニ準用ス

臨牀醫典附錄終

藥名索引並藥品用量

表中×印ヲ附スル者ハ諸病次頁中尙ホ  
 同藥處方ニアルヲ示ス○普通トアルハ  
 普通一回ノ量ヲ示ス(但シ浸、煎等ハ  
 二日分)○―ハ乃至ナリ

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| 印度大麻越幾斯<br>一回極量〇・一<br>一日極量〇・三<br>普通〇・〇三―〇・一<br>一日數同 | 慢性氣管支炎 一一二<br>膀胱加答兒 一六八<br>月經困難 二五五<br>肺癆喉頭癆 六三八<br>百日咳 六四六 | 卵巢炎 四八四<br>イヒチヲール<br>筋肉痠麻質斯 五六八<br>產褥熱 五五五<br>酒麩鼻 一一<br>丹毒 × 二九九<br>瘡 一四<br>尿酸性關節炎 × 六四<br>痔核 三三七<br>子宮炎 四二八<br>痲疾 × 八九 | 卵巢炎 四八四<br>鱗屑癬 五四八<br>副單丸炎 二九二<br>子宮外膜炎 五一六<br>慢性胃加答兒 一六一<br>濕疹 × 二七一<br>膝關節炎 三二五<br>イトロール<br>痲疾 八九<br>膀胱加答兒 一六八<br>イヒタルガン |
|---|---|---|--|

イ

一





巴豆油

一回極量〇・〇五  
一日極量〇・二五  
普通半滴—一滴  
蓖麻子油二食匙  
ニ混ス

鬼 祗 頭 二五  
便 秘 四六七  
疥 癬 五三三  
水泡性結膜炎 二二二  
傳染性膿疱疹 三七一  
濕 疹 一四  
凍 瘡 二七四  
凍 瘡 五三二

鬚 瘡 六〇九  
毛 虱 四四一  
頭 髮 脫 落 二四一  
角 膜 炎 三九二  
夏 日 斑 二九〇  
眼 瞼 緣 炎 一〇〇  
凍 傷 二〇二

凍 傷 二〇二  
眼 瞼 緣 炎 一〇〇  
夏 日 斑 二九〇  
角 膜 炎 三九二  
頭 髮 脫 落 二四一  
毛 虱 四四一  
鬚 瘡 六〇九  
白阿膠 (セラチン) 急性貧血 二九  
咯 血 三三二  
吐 血 三三七  
壞 血 病 五八六  
薄荷腦 實扶的里×四〇

肋 膜 炎 五三三  
疝 列 拉 病 一七八  
糖 尿 病 二四八  
肺 壞 疽 三一七  
胃 痛 × 一三一  
妊 婦 嘔 吐 三六〇  
偏 頭 痛 三四二  
濕 疹 二七〇  
慢性胃加答兒 一六四

麥角 一回極量一・〇  
一日極量五・〇  
普通〇・五  
浸劑トシテハ二日(五—八・〇) 二〇〇〇

麥角越幾斯

一回極量〇・二  
一日極量〇・六

普通〇・〇五—一日數回  
流 產 × 五  
扁桃腺炎 四五  
單純性尿崩 二四五  
丹 毒 二九九  
疥 疾 × 九二  
吐 血 三二八  
血 尿 × 三二九  
咯 血 三三一  
陣 痛 微 弱 × 四二六  
子 宮 出 血 × 四二九

肺結核及喉頭

結核 六四〇  
虎 列 拉 一八〇  
急性前脊髓灰 五三八  
白質炎 八四  
膀胱麻痺 四四五  
子宮筋腫 二五六  
月 經 困 難 五四〇  
遺 精 四三九  
ウエルホーフ 病 五三八  
小兒脊髓麻痺 一八二  
小兒吐瀉 七二二  
酸化炭素中毒 四五五  
腎 臟 炎 四四五

肺結核及喉頭 六四〇  
結核 六四〇  
虎 列 拉 一八〇  
急性前脊髓灰 五三八  
白質炎 八四  
膀胱麻痺 四四五  
子宮筋腫 二五六  
月 經 困 難 五四〇  
遺 精 四三九  
ウエルホーフ 病 五三八  
小兒脊髓麻痺 一八二  
小兒吐瀉 七二二  
酸化炭素中毒 四五五  
腎 臟 炎 四四五  
蕃木髓越幾斯 一回極量〇・〇五  
一日極量〇・一

蕃木髓丁

普通〇・〇一—〇・〇  
五 一日二三回

普通〇・〇一—〇・〇  
五 一日二三回  
一回極量一・〇  
一日極量二・〇  
普通三滴—十滴  
一日數回  
陰 萎 三七一  
酒 參 譫 妄 症 二四三  
脊 髓 炎 四四三  
麻 痺 五〇一  
胃 痛 一三一  
胃 擴 張 二五〇  
慢性腸加答兒 一四七  
急性胃加答兒 × 一五六



|                           |                 |                 |
|---------------------------|-----------------|-----------------|
| 疼痛性陰莖勃<br>起 一八五           | 亞布答 四七          | 遺尿 二八八          |
| クローブ性肺<br>炎 二三三           | 夏日斑 二八九         | 腎盂炎 五五九         |
| 舞踏病 一八七                   | 咽頭加答兒 一五一       | 精液漏 五九九         |
| 抱水アミール<br>疼痛性陰莖勃<br>起 一八五 | 肺氣腫 二八一         | 菩提樹<br>風氣疝痛 一九二 |
| 硝酸ストリキ<br>ニート中毒 六八七       | 風氣疝痛 一九三        | ホーレル水           |
| 胃潰瘍 六五七                   | 亞硫酸カリウム液ヲ見<br>ヨ | ヘブラ軟膏           |
| 抱水テルビン<br>慢性氣管枝炎 一一二      | 忽布腺<br>普通〇・一〇・五 | 火傷 一九七          |
| 礫砂 礫酸ナトリウム                | 疥瘡 × 九七         | 濕疹 二七二          |
| 瘰癧 × 一四                   | 膀胱加答兒 一七七       | 眼瞼緣炎 一〇〇        |
| 癩 二九五                     | 疼痛性陰莖勃<br>起 一八五 | ヘルバルサム<br>疾 九七  |

|                  |                          |  |
|------------------|--------------------------|--|
| 管氣枝擴張症 一〇三       | 膀胱加答兒 一六七                | 吐根<br>普通浸劑トシテハ<br>(〇・五)二八〇・<br>〇散劑トシテハ<br>〇・〇二一〇・〇<br>六一日數回<br>丁幾及酒一〇<br>三〇滴一日數回 |
| 疥癬 五七六           | 腎盂炎 五五九                  |  |
| 寄生性菌行疹 三四九       | ベンツオール<br>旋蟲毛 六三一        | 流產 六   |
| 頭虱 五一〇           | ベトール<br>普通〇・三〇・五<br>一日數回 | 肺氣腫 二八〇  |
| ペプシン<br>普通〇・一〇・五 | 關節優麻質斯 五六六               | 氣管枝喘息 七八   |
| 慢性胃加答兒 一六四       | 急性腸加答兒 一四一               | 肺臟萎縮 八一  |
| 胃液缺乏症 一〇         | 膀胱加答兒 一六八                | 急性氣管枝炎 × 一〇八   |
| 小兒消化不良 二六〇       | ヘモール                     | 慢性氣管枝加<br>答兒 一一一   |
| 胃痛 一二七           | 萎黃病 一七三                  | 急性喉頭炎 三九五  |
| 急性胃加答兒 一五五       | ヘロイン                     |  |
| ベタ、ナフトール         | 急性氣管枝炎 一〇七               |  |
| ナフトールヲ見ヨ         |                          |  |
| ヘルニアル葉           |                          |  |

|        |     |      |         |   |   |        |
|--------|-----|------|---------|---|---|--------|
| 加答兒性肺炎 | 五三五 | 普通催吐 | 〇・〇三祛痰  | 麻 | 疹 | 四三三    |
| 麻      | 疹   | 四三三  | 〇・〇〇五數回 | 虎 | 列 | 拉      |
| 聲門水腫   | 四七九 | 肺    | 臟       | 萎 | 縮 | 八一     |
| 急性肺水腫  | 四八〇 | 氣    | 管       | 枝 | 喘 | 息      |
| 急性氣管枝炎 | 一〇六 | 聲    | 門       | 水 | 腫 | 四六八    |
| 杜松實及油  |     | 急性   | 氣       | 管 | 枝 | 炎      |
| 腹      | 水   | 一〇八  | ド       | ー | フ | ル      |
| 腎      | 臟   | 炎    | 散       | ( | 柁 | 氏      |
| 心      | 臟   | 炎    | 一〇五     | 普 | 通 | 〇・一〇・五 |
| 虎      | 列   | 拉    | 一八一     | 一 | 日 | 數      |
| 獨逸ペブシン |     | 急性   | 腸       | 加 | 答 | 兒      |
| 慢性胃加答兒 | 一六一 | 急性   | 氣       | 管 | 枝 | 炎      |
| 吐酒石    |     | 一〇七  | 急       | 性 | 喉 | 頭      |
| 一回極量   | 〇・二 | 慢性   | 氣       | 管 | 枝 | 炎      |
| 一日極量   | 〇・六 | 一〇八  | 慢性      | 腸 | 加 | 答      |
|        |     | 一四六  | 藤       | 黃 |   |        |
|        |     |      | 比       | 斯 | 的 | 里      |
|        |     |      | 三       | 六 | 六 |        |
|        |     |      | 格       | 魯 | 布 | 性      |
|        |     |      | 二       | 三 | 三 |        |
|        |     |      | 比       | 斯 | 的 | 里      |
|        |     |      | 三       | 六 | 〇 |        |
|        |     |      | 酒       | 客 | 謔 | 妄      |
|        |     |      | 二       | 四 | 二 |        |
|        |     |      | 神       | 經 | 性 | 消      |
|        |     |      | 化       | 不 |   |        |
|        |     |      | 二       | 六 | 二 |        |
|        |     |      | ト       | ル | オ | ー      |
|        |     |      | ル       | オ | ー | ル      |
|        |     |      | 比       | 斯 | 的 | 里      |
|        |     |      | 三       | 六 | 六 |        |
|        |     |      | 藤       | 黃 |   |        |

一〇

|      |     |    |   |     |     |     |      |   |   |     |     |   |
|------|-----|----|---|-----|-----|-----|------|---|---|-----|-----|---|
| 一回極量 | 〇・三 | 黃  | 疸 | 三六八 | 重   | 酒   | 石    | 酸 | カ | リ   | ウ   | ム |
| 一日極量 | 一・〇 | 急性 | 氣 | 管   | 枝   | 炎   | 一〇八  | 純 | 精 | 酒   | 石   |   |
|      |     | 急性 | 胃 | 加   | 答   | 兒   | ×一五五 | 普 | 通 | 一・〇 | 一・三 | 〇 |
|      |     | 咽  | 頭 | 加   | 答   | 兒   | 一五〇  | 腎 | 臟 | 炎   | 四   | 五 |
|      |     | 小  | 兒 | 消   | 化   | 不   | 良    | 二 | 六 | 〇   | 四   | 六 |
|      |     | 消  | 化 | 不   | 良   | 二   | 五    | 脚 | 氣 | 三   | 八   | 八 |
|      |     | 痔  | 核 | 三   | 三   | 六   |      | 痔 | 核 | 三   | 三   | 七 |
|      |     | 驚  | 口 | 瘡   | 五   | 八   | 〇    | 腹 | 水 | ×   | 六   | 七 |
|      |     | ヒ  | ス | テ   | リ   | 一   | 三    | 六 | 五 |     |     |   |
|      |     | 風  | 氣 | 疝   | 痛   | 一   | 九    | 二 |   |     |     |   |
|      |     | 耳  | 垢 | 堆   | 積   | 九   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 慢  | 性 | 胃   | 加   | 答   | 兒    | × | 一 | 五   | 九   |   |
|      |     | 胃  | 潰 | 瘍   | 六   | 七   | 七    |   |   |     |     |   |
|      |     | 慢  | 性 | 腸   | 加   | 答   | 兒    | 一 | 四 | 七   |     |   |
|      |     | 重  | 炭 | 酸   | ナ   | ト   | リ    | ウ | ム |     |     |   |
|      |     | 普  | 通 | 〇・五 | 一・二 | 〇   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 一  | 日 | 數   | 回   |     |      |   |   |     |     |   |
|      |     | チ  | オ | ー   | ル   | チ   | ミ    | ツ | ク | 酸   |     |   |
|      |     | 濕  | 疹 | 二   | 七   | 〇   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 火  | 傷 | 一   | 九   | 三   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 十  | 二 | 指   | 腸   | 蟲   | 三    | 六 |   |     |     |   |
|      |     | 黃  | 癬 | 三   | 〇   | 六   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 重  | 炭 | 酸   | ナ   | ト   | リ    | ウ | ム |     |     |   |
|      |     | 普  | 通 | 〇・五 | 一・二 | 〇   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 一  | 日 | 數   | 回   |     |      |   |   |     |     |   |
|      |     | チ  | モ | ー   | ル   | チ   | ミ    | ツ | ク | 酸   |     |   |
|      |     | 恒  | 秘 | 四   | 六   | 〇   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 手  |   |     |     |     |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 重  | 酒 | 石   | 酸   | カ   | リ    | ウ | ム |     |     |   |
|      |     | 普  | 通 | 一・〇 | 一・三 | 〇   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 腎  | 臟 | 炎   | 四   | 五   | 四    |   |   |     |     |   |
|      |     | 便  | 秘 | 四   | 六   | 九   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 脚  | 氣 | 三   | 八   | 八   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 痔  | 核 | 三   | 三   | 七   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 腹  | 水 | ×   | 六   | 七   |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 聲  | 門 | 水   | 腫   | 四   | 七    | 九 |   |     |     |   |
|      |     | チ  | エ | キ   | リ   | ト   | ー    | ル |   |     |     |   |
|      |     | ト  | ラ | ホ   | ー   | ム   | 二    | 一 | 八 |     |     |   |
|      |     | チ  | キ | タ   | リ   | ス   | 葉    |   |   |     |     |   |
|      |     | 一  | 回 | 極   | 量   | 〇・二 |      |   |   |     |     |   |
|      |     | 一  | 日 | 極   | 量   | 一・〇 |      |   |   |     |     |   |

手

二